



SOKA GAKKAI ANNUAL REPORT

2025

2025年活動報告

創価学会 広報室

創価学会は、釈尊に始まり、インドの竜樹ら、中国の天台大師・妙楽大師、日本の伝教大師、日蓮大聖人へと発展的に継承された仏教を信奉しており、192カ国・地域に広がる仏教団体です。

創価とは、「価値」の「創造」を意味します。「万人の幸福」と「世界の平和」という価値の創造を目指します。

第3代会長の池田大作先生は、自著の小説『新・人間革命』を次の言葉で書き起こしました。

平和ほど、尊きものはない。
平和ほど、幸福なものはない。
平和こそ、人類の進むべき、根本の第一歩であらねばならない。

私たちは、仏法の実践を根本に、平和・文化・教育の分野で様々な活動を展開し、人類が抱える地球的な諸課題に取り組んできました。

核兵器の脅威を伝える展示や人権教育などの活動を通し、平和の大切さや生命の尊厳、人権の尊重を訴えています。

また、気候危機に関する活動などを通し、地球環境の保全への意識啓発を推進しています。

こうした運動は、あらゆる差異を超えた「人間と人間の対話」を基に、世界各地に広がっています。

MISSION
STATEMENT

広宣流布大誓堂(東京・信濃町)

1930年創立

1930年11月18日、初代会長となる牧口常三郎先生と弟子の戸田城聖先生によって創立されました(創立当初の名称は「創価教育学会」)。1951年5月3日、戸田先生が第2代会長に就任し、1960年5月3日、池田大作先生が第3代会長に就任しました。(※31ページからの「三代会長と創価学会の歴史」に詳細)

世界教団への淵源

創価学会が世界に大きく広がったのは、1960年10月2日、池田第3代会長が海外に初訪問してからです。24日間で、アメリカ・カナダ・ブラジルの3カ国9都市を巡り、2支部17地区を結成しました。1975年1月26日、創価学会インタナショナル(SGI)が発足し、池田先生がSGI会長に就任しました。



アメリカ・グアムでSGI発足

ZADANKAI (ザダンカイ)

世界各国で、座談会が盛んに行われています。座談会では、仏法の哲学を学び、一人一人が信仰体験を語ります。互いに触発し合う、地域に開かれた「対話の広場」になっています。創価学会では、ZADANKAI (ザダンカイ)は、世界共通語になっています。



イギリス

「御書」は10言語以上に

日蓮大聖人の教えである「御書」は10言語以上に翻訳され、世界中で学ばれています。「御書」の研鑽は信仰の確信を深め、自分だけでなく他者をも幸せにしていくなための実践へとつながっています。



ガボン・教学研鑽

草の根の平和運動

各国・地域の文化風習を尊重しつつ、仏法の生命尊厳観を基調に草の根の平和運動を展開しています。さらに地球規模の諸課題解決のため、意識啓発活動や、国連などでの議論への参加を推進しています。



ブラジル・COP30

「世界青年学会 躍動の年」

世界では紛争などによって多くの尊い生命が犠牲になり、また、社会の対立と分断が深まる中、一人一人の生命と尊厳を守るために、「自他共の幸福と平和」を目指す時代潮流を高めることが急務となっています。

人類が岐路に立つ今、創価学会は2026年を、新たな希望を創る、躍動の一年としていきたい。私たちは、創価学会の社会憲章が掲げる、核兵器のない世界の実現、気候危機への対処など、人類が直面する脅威に対し結束して対峙するため、仏法の生命尊厳の思想を根本に、「平和・文化・教育」の連帯を世界に広げる公共的使命を果たしていきます。

その中で、池田大作先生が訴え続けた「民衆の声を生かす国連」とのビジョンを基に、SGI 国連事務所とも協力して、国連諸機関、信仰を基盤とした団体（FBO）、市民社会と



の協働をはかります。そして、青年の参画とジェンダーの主流化を加速させながら、「戦争と暴力の文化」から「平和と非暴力の文化」へ、グローバルな草の根の意識変革を力強く進めてまいります。

2026 年は、池田先生のアジア初訪問・ヨーロッパ初訪問 65 周年という節目を迎えます。かつて池田先生は、次のようにつぶねられました。

「あらゆる差異を超えて、開かれた世界市民の友情を結び、平和の連帯を広げる。ここに我らの世界宗教の生き生きとした躍動がある」と。

創価学会の一人一人が躍動の生命で、友情と平和の連帯の拡大をめざし、「世界青年学会」をさらに発展させていく決意を込めて、2026 年は年間テーマを「世界青年学会 躍動の年」と掲げ、前進していきます。

創価学会会長

原田 稔

世界に広がる創価学会のネットワーク

SGI発足51周年

1975年1月26日、世界51カ国・地域の代表158人がグアムに集って世界平和会議が開催され、創価学会インタナショナル（SGI）が発足しました。席上、池田先生がSGI 会長に就任しました。本年、発足から51周年を迎え、海外には約300万人（2023年11月現在）の会員がいます。（※36ページ参照）



これからの長期的な展望

池田先生は、2000年12月度の本部幹部会で次のような展望を述べました（抜粋）。未来の遠大な展望を、「七つの鐘」に寄せて、深い決意と願望と確信を込めて語っています。（※「七つの鐘」というのは創価学会の長期的な展望です）

これまで創価学会は、「七つの鐘」を7年ごとに打ち鳴らしながら前進してきた。「七」は「南無妙法蓮華經」の七字にも通じる。

第一の「七つの鐘」は、学会創立の昭和5年（1930年）から、昭和54年（79年）までの50年間であった。

まず、第二の「七つの鐘」を打ち鳴らす、21世紀の前半の50年では、アジアをはじめ世界の平和の基盤をつくってまいりたい。

続く第三の「七つの鐘」を鳴らす21世紀の後半では、「生命の尊厳」の哲学を時代精神にし、世界精神へと定着させたい。

さらに、第四の「七つの鐘」に当たる22世紀の前半には、世界の「恒久の平和」の崩れざる基盤をつくりたい。

その基盤の上に、第五の「七つの鐘」が高鳴る22世紀の後半には、絢爛たる人間文化の花が開いていくであろう。

それが実現すれば、第六の「七つの鐘」、第七の「七つの鐘」と進みゆく。日蓮大聖人の立宗1000年（2253年）を迎える23世紀の半ばごろから、新たな展開が始まるであろう。

宗教間対話の取り組み

マレーシア国際イスラム大学 | 思想・文明研究所で交流行事 原田会長が記念講演

マレーシア国際イスラム大学国際イスラム思想・文明研究所（ISTAC）主催の宗教間交流行事が8月23日、マレーシア・クアラルンプールの同研究所で開かれました。招へいを受けた原田会長、谷川SGI理事長、永石総合女性部長らが出席。原田会長が「曇りなき眼で開く 人間主義の連帯——池田大作先生の『如実知見』」と題して、池田先生の人間主義の理念と行動を巡って記念講演を行いました（写真）。



カザフスタン | 約60カ国の諸宗教、国際機関が参加

第8回「世界伝統宗教リーダー会議」が9月17、18の両日、カザフスタン共和国の首都アスタナで「諸宗教の対話：未来へのシナジー（相乗効果）」をテーマに開催されました（写真）。約60カ国から、キリスト教、イスラム

教、仏教、ヒンズー教、ユダヤ教等の宗教・宗派の代表をはじめ、国際機関、各国外交団の代表が参加。仏教団体の代表として創価学会が招へいを受け、学会本部国際渉外局の長岡局長らが出席しました。



イタリア | ローマで国際会議

イタリアの首都ローマで、カトリック系の信徒団体である聖エジディオ共同体が主催する国際会議「平和への果敢な挑戦」が開催（写真）。開幕式は10月26日、同国のマッタレッラ大

統領が出席して行われました。世界50カ国から集った各宗教の代表と共に、寺崎副会長、欧州SGIのハラップ共同議長、イタリア創価学会のアプレア会長らが参加しました。



スペイン | 宗教局長と会見

谷川SGI理事長らが1月15日、スペインの首都マドリードにある同国首相府・宗教局を表敬し、メルセデス・ム

リージョ宗教局長と会見（写真）。スペイン仏教連盟のルイス・モレンテ会長も同席しました。



日本 | 宗教者災害支援連絡会に参加

2011年の東日本大震災後の4月1日、被災者支援のために、学識者、宗教者を中心に宗教者災害支援連絡

会が設立されました。2024年1月の能登半島地震以降は、当該地域への支援情報を交換し

ています。2025年は、4回開催され、創価学会の代表も参加しました。

声明を発表

池田大作先生は、SGIが国連経済社会理事会のNGOに登録された年である1983年以来、毎年1・26「SGIの日」に寄せて、40回にわたって平和提言を発表し続けてきました。また昨年は、SGIが、1975年1月26日に発足してから50周年に当たる年でもありました。そこで、SGIの次なる50年の出発に際し、池田先生の平和提言を通じた「生命尊厳の世紀」を築くための闘争を継承する形で、地球的規模のさまざまな課題を巡る声明の継続的な発信を開始しました。世界の各地域で平和運動を進める国々のリーダーなどで構成される「SGI声明委員会」が中心となってまとめています。

「世界平和の創出へ核使用の防止を」（1月15日）

SGI発足50周年となる1月26日を前に、「世界平和の創出へ核使用の防止を」と題する声明を発表しました。SGI会長である池田先生が平和提言などで訴えてきた「核兵器の先制不使用」「核戦争防止センター」の設置の提案を踏まえつつ、核兵器のない世界の建設を呼びかける内

容となっています。声明はこう結ばれています。「次代を担う青年世代を中心に、さまざまな文化や宗教を背景とする人々と対話を進め、協力をさらに深めながら、民衆自身の力で『未来への最大の贈り物』を生み出すための行動を広げること、ここに固く誓うものである」



ベルギー文化会館で開催された「核兵器なき世界への連帯——勇気と希望の選択」展（9月、ベルギー）

「気候危機の打開へ 人類共闘の道を」（11月5日）

11月10日からブラジルのベレンで開催された、国連気候変動枠組条約の第30回締約国会議（COP30）を前に、「気候危機の打開へ 人類共闘の道を」と題する声明を発表しました。

そこでは、市民社会の側から「問題解決を絶対にあきらめないという行

動の軸足」を築くことが重要となると強調。さまざまな宗教が協力して、一人一人が「人間的な良心」を発揮する源泉となることを提唱しています。

また、気候変動枠組条約の事務局内に常設の機関として「ユース協議会」を設置することを提案。青年世代の参画の強化を図る中で、同じ地球に生きるす



COP30にて慈済基金会などと共催した行事では登壇者が記念のカメラに（11月、ブラジル）

べての人々と将来世代を守る挑戦を成し遂げることを呼びかけています。

終戦80年に寄せて 原田会長が談話を発表（8月1日）

「不戦の世紀へ 時代変革の波を」

8月15日の「終戦の日」を前に、原田会長が「不戦の世紀へ 時代変革の波を」と題する談話を発表しました。

原田会長は、第2次世界大戦による犠牲者に哀悼の意を述べた上で、各地で紛争が広がっている現況に対し、憂慮の念を表明。紛争の早期終結とともに、国際人道法の遵守を呼びかけています。

また、創価学会の平和運動の源流が、戦時中に軍部政府に弾圧された、牧口初代会長と戸田第2代会長の獄中闘争にあることに言及。

二人の信念を受け継いだ池田第3代会長が、戦時中に日本が甚大な被害をもたらしたアジア太平洋地域の国々との友好を広げてきた歴史を振り返りつつ、創価学会の社会的使命

は世界の民衆の生存の権利を守り抜くために「核兵器のない世界」を築くことにあると訴えています。

その上で、「青年交流」「宗教間対話」「グローバルな民衆の連帯の拡大」を基軸にしながら、SGIのメンバーと共に「不戦の世紀」の建設を目指すことを表明しています。

2026年の平和・文化・教育運動

1. 「平和の文化」を築こう

「平和の文化」を築く取り組みを幅広く展開します。そのために、「対話」を通した啓発、人と人とのネットワークの拡大を通した「誰も置き去りにしない」社会的包摂への貢献へ、各種の平和への取り組みを支援します。

2. 核兵器廃絶、軍縮へ連帯を広げよう

核兵器使用のリスクは依然として高く、核軍縮および核兵器廃絶に向けた議論が一層重要です。核兵器が「絶対悪」であることを一貫して訴えてきた池田先生の平和思想を継承し、その理念を基調に核兵器禁止条約(TPNW)の批准国・署名国の着実な増加や、その意義の普及に寄与します。

また、自律型兵器(AIを搭載し、人間による有意の制御なしに自ら標的を選別し攻撃する兵器)の禁止と法規制およびAIの軍事利用がもたらすリスクへの議論に貢献します。そして、平和・軍縮教育を草の根レベルで推進していきます。

3. 「人権文化」を築き、「ジェンダー平等」「女性のエンパワメント」を推進しよう

2026年は国連人権理事会の創設20周年の佳節を迎えます。また、若者と子どもを主な焦点とし、ジェンダー平等、気候変動・環境、デジタル技術を重点領域とする「人権教育のための世界プログラム」第5段階(2025-2029)が進行中です。人権の普遍的精神を体現し実践する草の根の連帯を広げ、人権文化の確立に尽力するとともに、幅広い教育・啓発活動に注力します。

4. 気候変動対策を進め、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を支援しよう

「誰も置き去りにしない」との、仏法の生命尊厳・平等観にも通ずる誓いが掲げられた「SDGs」は、目標年である2030年まであと4年。その達成を、青年や女性を先頭に市民社会の立場から後押しします。

また深刻さを増す「気候危機」については、国連気候変動枠組み条約第31回締約国会議(COP31)等の場を通じ、宗教者としてのメッセージの発信に一層注力します。

5. 地域のネットワークと国際的な連帯を生かし、人道活動に力を注ごう

自然災害の頻度が高まり、被害も増大する中、信仰を基盤とした地域のネットワークは、一人一人のレジリエンス(回復力)を高めて緊急時に大きな力を発揮することが、国際的に注目されています。誰一人取り残さない防災・減災の取り組みや復興支援を一層推進するために、多様な組織との連携を図ります。

また難民問題については、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)に提出したプレッジ(宣言)に沿って支援活動を継続します。

6. 市民社会における多角的な文化活動を展開しよう

グローバル化が進展する現代にあって、各国・各地域の多様な文化を守り育む活動や、それらを共有するための多角的な活動を推進します。また、それを担う人材の育成にも継続して取り組みます。

7. 「教育のための社会」実現へ、人間主義の教育運動を進めよう

社会全体の教育力向上のために、「教育のための社会」への転換を図るべく、幅広い運動を推進します。

目次 CONTENTS

01	Mission Statement
03	会長メッセージ
04	世界に広がる創価学会のネットワーク / これからの長期的な展望
05	宗教間対話の取り組み / 声明を発表
07	2026年の平和・文化・教育運動
09	2025年の足跡

11 平和運動

●終戦・被爆 80 年——「平和の文化」を築く ●核兵器廃絶、軍縮 ●気候変動、SDGsへの取り組み
●人権、ジェンダー平等、女性のエンパワメント ●人道支援

19 文化運動

●音楽活動 ●展示会活動 ●欧州SGI ●シンガポール創価学会 ●民主音楽協会 ●東京富士美術館

25 教育運動

●教育本部 ●図書贈呈運動 ●未来部 ●ブラジル創価学会 ●池田国際対話センター ●池田思想研究

31 三代会長と創価学会の歴史

31	創価学会関連略年表
33	牧口常三郎先生(初代会長)
34	戸田城聖先生(第2代会長)
35	池田大作先生(第3代会長)
36	SGI[創価学会インタナショナル]
37	組織・機構 ●創価学会の組織・機構 ●創価学会総本部 ●聖教新聞社

42	教義・理念 ●創価学会が目指すもの ●釈尊からの系譜 ●日蓮大聖人 ●南無妙法蓮華經 ●御本尊 ●御書 ●人間革命 ●自他共の幸福 ●世界平和 ●「法華經写本」と創価学会
----	---

47	日常活動 ●勤行・唱題 ●教学研鑽 ●励まし・対話 ●座談会・会合 ●折伏・弘教 ●入会 ●配信行事 ●地域友好 ●未来部の育成 ●友人葬・法要 ●年間主要行事
----	--

50	池田先生の足跡 ●主な平和提言 ●主な対談集 ●海外学術講演 ●国家勲章 ●名誉学術称号
----	---

57	関連団体の活動 ●創価大学 ●創価女子短期大学 ●アメリカ創価大学 ●創価学園(海外の姉妹校) ●民主音楽協会 ●東京富士美術館 ●東洋哲学研究所 ●戸田記念国際平和研究所 ●池田国際対話センター ●牧口記念教育基金会
----	---

64	墓地公園
65	創価学会社会憲章
66	政治に対する基本的見解
67	デジタルコンテンツ ●創価学会コンテンツ ●聖教新聞社コンテンツ ●海外コンテンツ



1月

1日 ◎全国・全世界で新年勤行会

「世界青年学会 飛翔の年」の開幕を告げる新年勤行会が、日本全国、全世界で開催されました。

17日 ◎兵庫・大阪でルネサンス勤行会

阪神・淡路大震災から30年となる17日、「阪神ルネサンスの日」勤行会が、兵庫と大阪の3会場で行われ、震災で犠牲になった全ての方々に追善の祈りをささげました。

17～19日 ◎ドイツで欧州広布会議

SGI発足50周年の開幕を飾る「欧州広布会議」が、38カ国の代表220人が参加し、ドイツのフランクフルト池田平和文化会館で開かれました(写真)。



26日 ◎グアムでSGI発足50周年の集い

SGI発足50周年を記念する集いが、アメリカのグアム池田平和文化会館で、谷川SGI理事長ら訪問団とアメリカSGIの代表はじめ、地元のメンバーら300人が参加して開催されました。

2月

15、16日 ◎マーチングステージ全国大会 鼓笛隊・音楽隊が金賞

第23回「マーチングステージ全国大会」が、横浜市の神奈川県民ホールで開催され、コンテスト部門・一般の部に、富士鼓笛隊の創価シャイニングスピリッツと音楽隊の創価関西Joshoサウンズが出場し、共に最高峰の「金賞」に輝きました。

3月

9日 ◎青年福光サミット

災害の教訓と防災の知見を学び、共有して未来へつなぐ「青年福光サミット」が、東京・新宿区の戸田記念国際会館と各地をオンラインで結んで開かれました。

11日 ◎東北で福光勤行会

東日本大震災から14年となる11日、全犠牲者の冥福と被災地の復興を祈念する「福光勤行会」が、東北32会場で厳粛に行われました。

22、23日 ◎石川・能登で「希望の絆」コンサート

音楽隊・しなの合唱団による「希望の絆」コンサートが、22日に石川県羽咋市の羽咋会館で、23日に同県能登町の珠洲会館で、志賀町、七尾市、輪島市、穴水町などからも、能登半島地震で被災した多くの人々が来場して、開催されました。

5月

3日 ◎アフリカ希望総会

「アフリカ希望総会」が、西アフリカ・トーゴの首都ロメで、アフリカ24カ国から約1000人のメンバーと谷川SGI理事長ら訪問団が出席して開催されました(写真)。



19日 ◎「創価学会常住御本尊記念日」勤行会

5・19「創価学会常住御本尊記念日」の意義をとどめた勤行会が、東京・信濃町の広宣流布大誓堂で厳粛に営まれました。

8月

1～3日 ◎イタリア・ミラノで欧州青年研修会

欧州青年研修会が、イタリア・ミラノで開催され、梁島SGI男子部長、大串同女子部長ら、欧州青年訪問団が、29カ国・340人の同志と共に参加しました。

5～7日 ◎未来部夏季研修会

全国未来部夏季研修会が、東京・八王子市の創価大学で行われ、全国47都道府県から高等部の代表520人が集いました。

14～17日 ◎南アジア・韓国・日本合同研修会

「南アジア・韓国・日本合同研修会」の開講式が14日、韓国の首都ソウルの池田記念講堂で開催され、インド、タイ、マレーシア、シンガポール、韓国、日本の代表180人が参加しました(写真)。

15日 ◎世界平和祈念の集い

80年目の「終戦の日」を迎え、青年部主催の「世界平和祈念 戦没者追善勤行法要」が、東京・新宿区の総本部で厳粛に営まれました。



30、31日 ◎長崎で「青年不戦サミット」

「青年不戦サミット(第34回青年平和連絡協議会)」が、長崎市内で開催され、全国各地の青年の代表が参加しました。

11月

15日 ◎池田大作先生の三回忌追善勤行法要

池田大作先生の三回忌追善勤行法要が祥月命日の15日、東京・信濃町の広宣流布大誓堂で厳粛に執り行われました(写真)。



15日 ◎2026年の活動方針を決定

最高議決機関である総務会が東京・新宿区の総本部で行われ、2026年「世界青年学会 躍動の年」の活動方針および平和・文化・教育運動の大綱を決定しました。

23日 ◎九州で「第九」合唱

九州創価学会の「Asia Peace Festa 2025」(世界平和の第九)が、みずほPay Payドーム福岡で開催(写真)。5万人の九州の青年世代と共にアジア9カ国・地域からもメンバーが参加し、ベートーベン作曲の交響曲第九番の第四楽章を合唱しました。



12月

7日 ◎音楽隊・創価ルネサンスバンガードが日本一の栄冠

第53回「マーチングバンド全国大会」の「一般の部」が、さいたまスーパーアリーナで行われ、創価ルネサンスバンガードが「金賞」を受賞。記録を更新する19度目のグランプリ「内閣総理大臣賞」に輝きました。



終戦・被爆 80 年——「平和の文化」を築く

「希望の選択」シンポジウム



SGIとNAPFが主催する「希望の選択」シンポジウムでのパネルディスカッション。SGI軍縮・人権部長の砂田智映氏が「核廃絶への道筋」をテーマにしたパネルディスカッションで司会・進行を務めた(3月、アメリカ)

SGI（創価学会インタナショナル）と核時代平和財団（NAPF）は、核廃絶に生涯を捧げた池田大作先生と、NAPF創設者であるデイビッド・クリーガー博士の志を受け継ぎ、「希望の選択」シンポジウムを米国サンタバーバラ市（3月）と広島市（8月）で開催しました。

第1回は、「核廃絶への道筋」「核の正義」「気候変動と

核兵器」をテーマに活発な議論が交わされました。成果として「希望の選択」宣言がまとめられ、核兵器のない世界に向けた行動指針が作成されました。

第2回は、「核の脅威」と「核の遺産の継承」をテーマにしたパネルディスカッションに加え、被爆ピアノの演奏が行われました。また被爆2世であり、被爆体験伝承者の東野真里子氏が祖母と母の体験を通し、被爆の実相を次世代に伝えとともに、平和の実現に向けた決意を誓い合いました。

両シンポジウムでは、調査報道ジャーナリストのアニー・ジェイコブセン氏が基調講演を行い、著書『核戦争：一つのシナリオ』（原題『Nuclear War：A Scenario』）に基づき、核使用の脅威とともに、核兵器廃絶のために行動する重要性を訴えました。

シンポジウムを通じて、いかなる状況においても希望を見出し、国際的な対話と教育の道を開くことを確認しました。

被爆80年 核兵器をなくす国際市民フォーラム

被爆80年、そして3月開催の核兵器禁止条約第3回締約国会議に向けて、核兵器廃絶への機運をさらに高めるために、核兵器をなくす日本キャンペーン主催のもと、「被爆80年核兵器をなくす国際市民フォーラム」が2月8、9の両日、東京で開催されました。会議2日目に、創価学会平和委員会は「グローバルヒバクシャについて学び、語り合おう」をテーマにワークショップを開催しました。

冒頭、SGIが制作協力したカザフスタンの核実験被害者の証言映像を上映。上映後には、同映像の制作者である、国際安全保障政策センターのアリムジャン・アフメトフ代表と、核実験被害者のドミトリー・ベセロフ氏との質疑応答がオンラインで行われました。

アフメトフ代表は、旧セミパラチンスク核実験場で40年余りにわたり450回を超える核実験が実施され、今も深刻な健康被害が続く状況を紹介。「最も被害を受けるのは市民である点を忘れてはならない。被害の実態を知り、二度とこうし



「被爆80年 核兵器をなくす国際市民フォーラム」でのワークショップ。「私は生き抜く～語られざるセミパラチンスク～」の上映後、オンラインでカザフスタンと結び、質疑応答が活発に行われた(2月、東京)

た過ちを起こさないためにも、教育が重要である」と訴え、市民の連帯をさらに広げていただきたいと期待を寄せました。

同ワークショップとあわせ、SGIが制作協力した「被爆者の肖像——80年の記憶」展の一部も展示され、多くの人が鑑賞に訪れました。

戦争・被爆体験の継承活動

◎広島

広島青年部主催の「平和のための広島学講座」が、8月5日に広島池田平和記念会館で開催されました。200回目となる今回は、国連大学のチリツィ・マルワラ学長が「AI時代における核兵器廃絶と青年の役割」と題して講演しました。



第22回「被爆体験を聞く会」（主催＝広島女性平和委員会）で講演した切明千枝子氏の被爆体験が、創価学会公式サイトの「SOKA PICKS」に追加された(8月、広島)

◎長崎

「青年不戦サミット（第34回青年平和連絡協議会）」が、8月30、31の両日、長崎市内で開催されました。「長崎を最後の被爆地に」との誓いを胸



青年不戦サミットで行われた「みんなのピースワーク」。長崎青年部の代表が平和案内役である「ピースパディ」を務め被爆遺構を巡り、被爆の実相を学んだ(8月、長崎)

に、全国の青年リーダーが集いました。城山小学校の平和祈念館で施設長を務める池田松義氏による被爆体験の講話やワークショップなどが行われ、核兵器廃絶に向けて青年世代が何をすべきか真剣に語り合いました。

▶戦争・被爆証言はこちら



▶女性平和委員会特設ページはこちら



女性平和委員会が「平和の文化講演会」

女性平和委員会は、3月17日に「平和の文化講演会」を東京で開催。インドネシア共和国の故アブドゥルラフマン・ワヒド元大統領の次女で、ワヒド財団議長のイェニー・ワヒド氏が「宗教間対話と女性のエンパワメント」と題して講演しました。氏は、女性の権利を守るための教育支援や、女性のエンパワメントへの投資によって社会全体が潤うと述べ、女性が自身の尊さを認めることで周囲に希望を与えることができると訴えました。

◎沖縄

「終戦80年『沖縄戦の絵』展」（主催＝沖縄創価学会、共催＝琉球新報社）が、6月13日から30日まで那覇市の琉球新報本社で開催されました。ここでは、10の地域に分類された「沖縄戦の絵」273枚を展示。開幕式で、沖縄国際大学の石原昌家名誉教授は「絵の中には体験者が孫に語り、孫が描いたものもある。このような継承の方法もあるのかと創価学会の平和運動から学びました」と語りました。



来場者から「沖縄本島だけでなく、南大東島や宮古、八重山など、離島でも悲惨なことがあったのだと、絵を見て知りました。戦争は絶対に起こしてはならないと強く思いました」などの声が寄せられた(6月、沖縄)

◎女性平和委員会ユース会議

女性平和委員会ユース会議主催の被爆・戦争体験継承フォーラム「Hope in Action——ユースがひらく核なき未来」が、10月4日に東京で行われました。みつまたよしの氏が弾き語りを披露。近藤泉氏は母の被爆体験を紹介し、母が訴え続けていた生命の尊さや平和への願いを語り継ぐ思いを述べました。ユース会議の代表によるトークセッションでは、自分にできる平和への行動等をテーマに語り合いました。



被爆・戦争体験継承フォーラム「Hope in Action——ユースがひらく核なき未来」で行われたユース会議の代表によるトークセッション(10月、東京)



イェニー・ワヒド氏が講演(3月、東京)

核兵器廃絶、軍縮

アドボカシー(政策提言):国際会議での議論に貢献



TPNW第3回締約国会議。核兵器の非人道性をはじめ、条約に基づく被害者援助等の作業の進捗など、具体的な議論が交わされ、核兵器の禁止を支持し、廃絶への決意を新たに政治宣言を採択(3月、アメリカ)

ニューヨークの国連本部で3月3日から7日まで開催された、核兵器禁止条約(TPNW)第3回締約国会議にSGIの代表が参加しました。会期中、SGIとして、①核実験の被害をテーマに関連行事を開催、②平和・軍縮教育の役割に関する作業文書の提出・発表、③核兵器の廃絶を求める宗教間共同声明を他の信仰を基盤とした団体(FBO)と共に起草・

男女学生部が「青年平和意識調査」海外の団体と5カ国で実施

男女学生部は1月より、核戦争防止国際医師会議(IPPNW)、カザフスタン核フロンティア連合等と、核兵器の使用や実験で被害を受けた5カ国(アメリカ、オーストラリア、カザフスタン、日本、マーシャル諸島)に住む18～35歳の若者を対象に「青年平和意識調査」を実施しました。3月にニューヨークの国連本部で開催された核兵器禁止条約第3回締約国会議には学生部の代表も参加し、共同団体と関連行事を開催。同調査の中間報告とともに、各国における若者による取り組みの紹介や次世代への継承などについて議論を交わしました。

また、8月には国連大学で、「核実験に反対する国際デー」に際し、調査を実施した団体とイベントを共催。8月までに計1580人から回答が寄せられた同調査の最終報告を行いました。調査では、どの国においても、「核兵器の被害者の証言を聞いたことがあるか」との問いに、「ある」と答えた人が、「な

発表、④ユース締約国会議にSGIの青年代表が登壇、ユース声明の発表等、多岐にわたる取り組みを実施し、議論に貢献しました。

また4月28日から5月9日まで開催された、核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議第3回準備委員会にも参加。会期中、SGIが主催し、米国のジェームズ・マーティン不拡散研究センターの協力、カザフスタン共和国国連代表部の後援のもと、関連行事「核兵器の使用防止—軍縮のために」を開催しました(4月29日)。

同センター所長のウィリアム・ボッター氏による進行のもと、国連軍縮部、オーストリア外務省、ウィーン軍縮・不拡散センター、SGIの代表が登壇。核兵器の使用を防ぐために必要な措置や、核兵器を持つ国と持たない国の対話促進の方途などをテーマに議論が交わされました。また、NAPFと開催した軍縮における宗教者の役割をテーマにした関連行事に、SGIの代表が登壇しました(5月8日)。

い」と答えた人より、核廃絶のための行動を起こしている割合が高い傾向にあることがわかり、若者が核被害者の証言に耳を傾けることの重要性が訴えられました。



「グローバルヒバクシャ支援のためのユースの役割」と題したトークセッション。在日カザフスタン共和国大使館のアンヴァル・ミルザティエフ参事官は、「非核の世界に向けて青年がどのように行動できるかを具体的に考える貴重な機会となった」と講評を寄せた(8月、東京)

諸団体との協働

IPPNWの世界大会が10月、長崎市の出島メッセで開催されました。これに先立ち、SGIは9月28日から10月5日まで、同会場で「被爆者の肖像—80年の記憶」展(制作:8万人の声、撮影:パトリック・ボイド氏)を主催。同展の開幕式には、撮影に協力した被爆者や長崎市の鈴木史朗市長が出席し、平和への誓いを新たにしました。

大会に合わせ、長崎平和委員会は10月1日に長崎平和学講座を開催。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のメリッサ・パーク事務局長を講師に迎え、「核なき世界へ 行動こそ無力感の解毒剤」をテーマに講演が行われました。

続いて、11月1日には広島市の広島国際会議場でパグウォッシュ会議の世界大会が開かれました(5日まで)。SGIは10月31日から11月3日まで、同会議と共催で「被爆者の



「被爆者の肖像—80年の記憶」展の開幕式。撮影に協力した被爆者や被爆者家族ら多くの来賓が訪れた(10月、広島)



関西万博の国連パビリオンで行われた国連軍縮部主催のイベント「未来コード: ユース×AI(人工知能)平和対話」に、中満泉国連軍縮担当上級代表らとともに学会の代表が登壇。AIを巡り若者が抱く希望と懸念、利点とリスク、設けるべき規範などをテーマに議論が行われた(8月、大阪)

肖像—80年の記憶」展を開催。开幕式では広島市の松井一実市長、日本原水爆被害者団体協議会の箕牧智之代表委員らが挨拶し、パグウォッシュ会議のカレン・ホールバーク事務総長は、被爆者の証言から平和の思いを受け継ぎ、核兵器のない世界を共に築こうと語りました。



長崎原爆資料館で行われた「長崎平和学講座」。パークICAN事務局長は、核兵器が存在する限り使用される可能性があることとともに、今こそ一人一人の行動が重要であり、核兵器禁止条約で核なき世界の実現を訴えた(10月、長崎)



核実験被害を受けたカザフスタンの女性たちを追ったドキュメンタリー映画「JARA(傷あと) Radioactive Patriarchy」の上映会を開催。アイゲリム・シチェノヴァ監督が映画に込めた思いを語った(10月、東京)



オスロ大学でのノーベル平和賞フォーラムを後援。戸田記念国際平和研究所のオリビア・ドライアー上級研究員らが登壇。民主主義が直面する課題を巡り議論が交わされた(12月、ノルウェー)

気候変動、SDGsへの取り組み

創価学会とSDGs



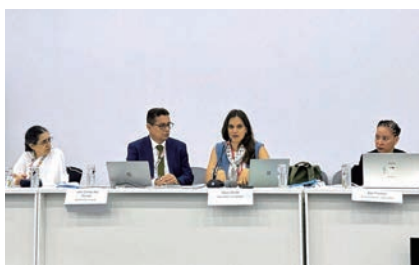
創価学会の気候変動、SDGsへの取り組みは、池田大作先生の信念である「人間革命（一人の人間の内面の変革が行動を変え、社会を変革する）」の理念に根差しています。仏法に説かれる「依正不二（環境〈依報〉と人間〈正報〉は密接不可分の関係にある）」の理念などを基盤に、人類と自然の共生を探究し、「誰も置き去りにしない」持続可能な地球社会の実現を目指しています。この目的を端的に表すと、「仏法を基盤にした内面の変革を通じ、一人一人が持続可能な未来を創る原動力となる」ということです。創価学会では、草の根のネットワークを通して、志を同じくする諸団体とも連帯してその達成に向けて後押しをしています。

環境展示「希望と行動の種子」を国内外で開催。持続可能な社会の創造に向けて、若者が中心となり、地域に連帯が生まれる。展示の実行委員を務めた生徒からは、「気候変動について多くのことを学びました。課題解決に向けて取り組んでいきます」との声が寄せられた（3月、インドネシア）

主な取り組みと成果

◎「希望と行動の種子」展

池田先生の提言に基づき、仏法の「学ぶ」「生き方を見直す」「行動に踏み出す」「リーダーシップを発揮する」の4段階を通じて、個人の変革が社会の変革につながることを訴え、世界各地で展開。インドでは、2025年末時点で250を超える学校と協力し、開催しました。



ブラジル・ベレン市で気候変動対策の国連の会議「COP30」が開催。SGIの代表が参加し、公式サイドイベントでSGI国連事務所のゲッティ氏、アマゾン創価研究所のカルロス所長が登壇（11月、ブラジル）



地球憲章25周年を記念するイベントにSGI代表が出席し、仏法の生命尊厳の視点から持続可能な社会を訴えた（7月、オランダ）



インド創価学会は「持続可能な社会を巡る会議」をベンガルール市で開催。教育関係者をはじめ、政府や企業の関係者など500人を超える出席者が集った（4月、インド）

◎教育・啓発活動の推進

池田先生が起草に貢献した「地球憲章」25周年を記念する会議に参加しました。地球憲章インタナショナルと展示の共同制作や会議での協働、SNSでのハッシュタグキャンペーン等、教育・啓発活動を共に展開しています。

◎国際会議

国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）では、日本、フランス、イタリア、ブラジルの代表が参加、公式関連行事などを開催しました。

◎森林再生

国際熱帯木材機関（ITTO）と共同で、2021年より、西アフリカの主に貧困地域で生活する女性たちを対象に森林の管理や回復方法の研修を行い、植林や持続可能な木材製品の生産、土地所有を可能にすることを通じて、女性のエンパワーメントと森林再生に寄与してきました。また、ブラジルのアマゾン創価研究所では、森林再生とともに地域の子どもたちへ環境教育を実施。2025年にはその様子を収めたVR映像を作成しました。

▶アマゾン創価研究所のVR動画はこちら



ITTOと共同して、西アフリカ・ベナン共和国で森林再生プロジェクトを実施（7月、ベナン）

◎気候変動の倫理的側面への議論に参加

気候危機が深刻化する一方、状況打開に向けた取り組みが不十分であることを踏まえ、ブラジル政府および国連はCOP30に先立ち、倫理面から社会のあり方や人々の行動様式の見直しを呼びかける倫理評価会議（グローバル・エシカル・ストックテイク）を提唱。日本、ブラジル、インド、イギリス、イタリア、マレーシアの6カ国において、SGIのユースが自主的対話を実施し、COP30の会場でその様子が展示されました。

日本の会議には未来部の代表が参加。“困っている人の顔が見えるような「物語」として発信していくことが必要だ”といった意見が出ました。



COP30の倫理評価会議パビリオンで、インド創価学会、アマゾン創価研究所の取り組みが紹介された（11月、ブラジル）



全国の未来部の代表が倫理評価会議を実施。「みんなで協力してより良い未来を作るにはどうすればいいか」といった問いについて、「困っている人へ想像力を働かせていく必要がある」などの議論がなされた（9月、オンライン）

◎宗教間協力

国際環境NGOグリーンフェイスと協力して国内の宗教団体と毎月勉強会や対話を実施し、気候変動問題について議論を深めました。また、政府機関や170の信仰を基盤とした団体（FBO）が参画する「宗教と持続可能な開発のためのパートナーシップ（PaRD）」の年次総会や、ローマ教皇庁の関連団体である「ラウダート・シ運動」主催の会議「希望の高揚」、COP30の場で、宗教間行事の開催や関連文書の発信などを推進しました。



外務省などが共催する「グローバルフェスタJAPAN2025」にSGIがブースを出展。アマゾン創価研究所のVR映像視聴も好評を博した（9月、東京）

人権、ジェンダー平等、女性のエンパワーメント

人権理事会ソーシャルフォーラム—教育がすべての人権実現の鍵に

「すべての人のためのすべての人権の尊重、促進、保護、実現に対する教育の貢献」をテーマに、2025年国連人権理事会ソーシャルフォーラムが10月30、31の両日、スイス・ジュネーブの国連欧州本部で開催されました。本フォーラムでは、教育がいかにして人権の実現に不可欠な役割を果たし得るのか、また学びそのものが正義と尊厳への道となり得るのかについて、活発な議論が交わされました。

SGI国連事務所のエリザ・ガゾッティ氏がモデレーターを務めたパネル「若者による、若者とともに、若者のための人権教育—すべての人のためのすべての人権の推進に向け



「世界人権デー」を記念してアムネスティ・インターナショナル日本と第8回ユースフォーラムを共催（12月、東京）



人権理事会ソーシャルフォーラムで人権と教育をテーマに行事を開催（10月、スイス）

て」では、国連人権高等弁務官事務所、アムネスティ・インターナショナル、SGIが共同開発したマルチメディアツール「チェンジメーカー：若き人権教育者のストーリー」に登場する3人の若手活動家・教育者が登壇。世界各地での実践例を通じて、人権教育が、単なる知識の伝達にとどまらず、共感や連帯、そして行動へとつながる「生きた学び」であることが強調されました。

「世界人権デー」を記念する第8回ユースフォーラムが12月14日に東京で開かれました。「生命を守るために：正義と人権に関する対話」と題するパネルでは、識者やユースの活動家が登壇し、日本の死刑制度の存廃をはじめ、司法制度改革の必要性について活発に議論を行いました。

「ジェンダー平等のための平和の文化イニシアチブ」が発足

第69回女性の地位委員会が、3月10日から21日にかけてニューヨークの国連本部で開催されました。SGIは他団体と共に「平和の文化のための世代を超えたムーブメントの活性化」と題する並行行事を開催。また、同行事を機に「ジェンダー平等のための平和の文化イニシアチブ」が発足し、10月21日には、UN Womenや世界各地のNGOとともに、将来に向けた協議を行いました。

▶「チェンジメーカー」はこちらの人権教育ウェブサイトにてご視聴いただけます（※日本語はありません）



「ジェンダー平等のための平和の文化イニシアチブ」発足イベント（10月、アメリカ）

人道支援

災害救援活動および防災・減災の取り組み

2025年の岩手県大船渡市の山林火災や九州の豪雨災害では、災害対策本部を設置。物資支援や会員有志による清掃ボランティア「かたし隊」を展開しました。また、東日本



仙台防災未来フォーラムで、東北創価学会が分科会『『より良い復興』のための共助を考える』を開催（3月、宮城）

大震災以降、心の復興を目的とした「希望の絆」コンサート（※9、19ページ参照）や、震災の教訓を伝える活動を各地で実施してきました。そこからの教訓を踏まえ、「仙台防災未来フォーラム」（3月）で、より良い復興のための共助などをテーマに分科会を主催。「世界防災フォーラム」（3月、宮城）や「ぼうさいこくたい」（9月、新潟）、「アジア太平洋地域人道パートナーシップ週間」（12月、タイ）でも、超高齢社会における地域主導の取り組みや教訓について発表を行いました。



大船渡市の山林火災の被災地で、壮年・女性部を中心に、避難した方々への訪問、傾聴を実施（3月、岩手）

難民への支援活動

ヨルダンでは、NGO「国境なき音楽家」や現地団体と連携しながら、難民や地域の子どもたちのための音楽教育プロジェクト「音楽は私たちをつなぐ」を推進しています。2021年からの5年間で、計138人が「支援の担い手」として研修を受け、1500人以上の子どもたちが関連の音楽講座等へ参加しました。この音楽講座は、世界最大規模のザータリ難民キャンプでも実施されています。

日本国内における意識啓発の取り組みとして、4月に東京、9月に兵庫で難民映画自主上映会を開催。6月には「世界難民の日」にあわせて、広宣流布大誓堂のブルーライトアップを実施しました。



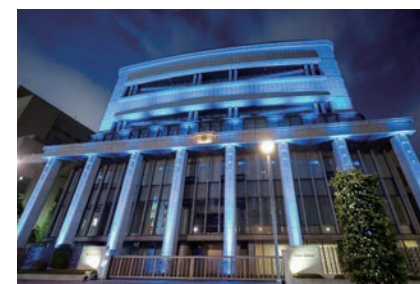
国際NGO「国境なき音楽家」との共同プロジェクト「音楽は私たちをつなぐ」の子どもたちを対象とした音楽講座（8月、ヨルダン）

これらについては、2023年末に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）へ、長期的な支援のためのプレッジ（宣言）として提出しています。その進捗確認や推進のための取り組みとして、4月と11月に「日本グローバル難民フォーラムネットワーク会合」へ参加および報告を行ったほか、日本UNHCR・NGO評議会などの場で協議に参加しました。

9月には、パレスチナ自治区・ガザ地区や、アフリカのコンゴ民主共和国とスーダンへの緊急人道支援として、国連UNHCR協会やピースウィンズ・ジャパンなどに寄付を実施しました。



難民映画自主上映会で、映画「私は憎まない」の上映と講演を実施（4月、東京）



「世界難民の日」に広宣流布大誓堂でブルーライトアップを実施（6月、東京）

音楽活動

富士鼓笛隊
各地のイベントに出演

富士鼓笛隊の創価シャイニングスピリッツと創価エアレンデル（5月、神奈川）

創価学会の文化運動の一翼を担う富士鼓笛隊。小学生から社会人まで幅広い世代が所属し、「太陽のように明るく月光の如く清らかな鼓笛隊たれ」との指針のもと活動しています。年間を通して、列島各地のイベントなどに出演してきました。



5月3日、富士鼓笛隊の創価シャイニングスピリッツと創価エアレンデルは、横浜市内で開かれた第73回「ザよこはまパレード」に出演しました。

学会歌「誓いの青年よ」などを演奏しながら、神奈川文化会館が面する山下公園通りや、赤レンガ倉庫前などを行進。聴衆から「明るい表情で、豊かな音律を届ける姿に感動しました」との声が寄せられました。

創価エアレンデルが金賞



富士鼓笛隊・創価エアレンデルと音楽隊・創価中部ファーストスターズが1月26日、群馬・高崎アリーナで行われた第8回「カラーガード・マーチングパーカッション全国大会」のカラーガード・一般の部に出場。創価エアレンデルが「金賞」と、構成別の最上位団体に贈られる「最優秀賞」を受賞し、日本一に輝きました（写真）。創価中部ファーストスターズは、「銀賞」を受賞しました。

創価ルネサンスバンガード
が日本一

第53回「マーチングバンド全国大会」の「一般の部」（大編成）が12月7日、さいたまスーパーアリーナで行われ、音楽隊・創価ルネサンスバンガードが「金賞」を受賞。楽団の持つ記録を更新し、19度目のグランプリ「内閣総理大臣賞」に輝きました。

創価グロリア吹奏楽団
「希望の絆」コンサート

12月7日、音楽隊・創価グロリア吹奏楽団が「希望の絆」コンサートを、静岡・沼津文化会館で行いました。同会館は地元自治会の津波緊急避難場所に指定されており、本公演は“地域防災の一助に”との思いで、避難訓練と併せて開かれました。



富士交響楽団が結成60周年

結成60周年を記念する富士交響楽団の第33回定期演奏会が11月11日、豊島区の東京芸術劇場で行われました。



展示会活動

多彩な「展示会」を
国内外で開催

松江市の島根文化会館で開催した「ことばのチカラ展」（10月、島根）

創価学会は、意識啓発を目的とした文化運動の一環として、多彩な「展示会」を企画し、国内外で巡回展を開催してきました。



2025年に開催した展示会は6種類になります。

地球的問題群の解決へ“地球市民意識”を育む「わたしと宇宙展」、身近な食文化を通し、自然のうちに“いのちのつながり”が学べる「ごはんといのちのストーリー展」、250種600冊の絵本が手に取れる「絵本とわたしの物語展」、写真文化の普及と興隆を目指す「自然との対話——池田大作写真展」、古今東西の貴重書や文豪の直筆書簡を紹介する「世界の書籍展Ⅱ」、および新展示「ことばのチカラ展」です。

新展示「ことばのチカラ展」は、2025年3月から東京の足立区、次いで武蔵野市で開催。その後、国内を巡回しています。豊かな言葉の世界を楽しめるコラムパネルをはじめ、障がいの有無にかかわらず誰もが読書を楽しめる「バリアフリー絵本」の紹介や、聖教新聞に掲載された選りすぐりの体験談を高さ2メートル、幅1・2メートルの大きいサイズで展示。他にも、池田大作先生の中高生に向けたメッセージ動画や、言葉遊びゲームも設置しています。

同展を鑑賞した方々からは、「自分の言葉で、自分本位ではなく、相手の心に寄り添えるように頑張ります」（20代男性）、「言葉のチカラを改めて感じる機会となりました」（50代女性）などの声が寄せられました。

「自然との対話——
池田大作写真展」

池田先生が撮影した自然の風景などの写真を披露する「自然との対話——池田大作写真展」は、写真文化の普及と興隆のために、1982年にスタートしました。これまでに日本各地を巡回し、1500を超える会場で開催しました。海外では、41カ国・地域で開催されています。

2020年からは、「自在なる眼——池田大作写真展」も巡回しています。

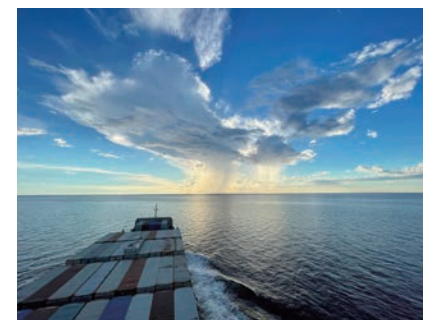
かつて、フランスの美術史家であるルネ・ユイグ氏は、「（池田SGI）会長のポエムは口で詠（よ）まれた詩であり、写真は目で詠まれた詩です。“生命の探求者”としての鋭い目で、生きとし生けるものの鼓動をとらえ、永遠の生命を私たちに示してくれます」と評しました。

写真展「波濤を越えて」

海外航路に従事するメンバーの集い「波濤会」が行う写真展「波濤を越えて」が、5月に神戸展、10月に横浜展として開催されました。横浜展でのオープニングセレモニーでは、来賓の山中竹春横浜市長が「船乗りの皆さまの写真から、平和への思いを強く感じました」と祝辞を述べました。



神戸市の「かもめりあ」で開催された神戸展（5月、兵庫）



出展作品から。「勝利のV」（新潟沖）

欧州SGI

「オープンデー」を各国会館で
地元市民と友好の集い

ヴィラ・ザクセン総合文化センター（9月、ドイツ）

欧州SGIでは、欧州各国で制定された「歴史的建造物公開の日」（European Heritage Days）に合わせ、「オープンデー」として各会館を地元市民に広く開放しています。2025年も、友好のイベントが開催されました。



ドイツ・ビンゲン市のヴィラ・ザクセン総合文化センターでは9月14日に開催されました。同市のトーマス・フェザー市長をはじめ多くの地元市民が足を運びました。集いでは講演会や、小グループ単位でのディスカッションを実施。ドイツ創価学会の「緑の丘オーケストラ」が、チャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」やサン＝サーンス作曲の「動物の謝肉祭」などの名曲を奏でました。また折り紙などを行えるアトラクションが設置され、多くの親子が楽しみました。

イギリスではオープンデーが5月11日、ロンドン郊外のタブロー・コート総合文化センターで行われました。テム

ズ川を望む、緑豊かな丘陵の上に立つ同センターで、参加者は展示を見学し、庭園の散策などを楽しみました。「地域に開かれた憩いの場として、毎年このイベントを楽しみにしています」等の声が寄せられました。

フランス・ビエール市にある「ビク

トル・ユゴー文学記念館」では9月20、21の両日に開催されました。同市のアンヌ・ペルチエール・バルビエ市長をはじめ約850人が来館。同記念館は文豪ユゴーの精神を後世に伝えるため、フランスSGIの文化法人ACSF（フランス創価文化協会）が所有し、公益事業として運営しています。企画展「ビクトル・ユゴーとレ・ミゼラブル——現実と理想」を開催しており、参加者は、同記念館が所蔵するユゴーの手稿のほか、フランス国立図書館、同国上院議会図書館所蔵の貴重な資料などを見学しました。



タブロー・コート総合文化センター（5月、イギリス）



ビクトル・ユゴー文学記念館の企画展から（フランス）

シンガポール創価学会

独立60周年式典に出演

大統領、首相はじめ2万7000人が出席



演目の最後に、人類の連帯が明るい未来をつくるとの思いを込めた円形を形作った（8月、シンガポール）

シンガポールの独立60周年を慶祝する記念式典（ナショナルデー・パレード）が8月9日、同国の独立記念広場「パダン」で開催されました。政府の要請を受けたシンガポール創価学会の代表約600人が出演し、団結したパフォーマンスを披露。式典には、ターマン・シャンムガラトナム大統領、ローレンス・ウォン首相ら政府首脳をはじめ、2万7000人が出席しています。

1965年8月9日に独立した同国は、多民族、多宗教の人々が共存しており、国際金融や物流の拠点として目覚ましい発展を遂げています。

シンガポール創価学会が、国家の最重要行事である独立記念式典に出演するのは、81年の初出演以来、今回で40回目。出演者は、仕事や勉学、家事等と両立しながら、約5カ月間にわたって練習に励みました。“一人一人の人間革命への挑戦が平和な世界を築く”との思いを込めたパフォーマンスに、観衆から拍手が送られました。



ライトを片手に踊るSGSのメンバー（8月、シンガポール）

また、シンガポール創価学会は、これまで、春節（旧正月）を祝賀するシンガポール伝統の「チンゲイ（粧芸）パレード」（主催＝人民協会など）に41回出演してきました。パレードは、シンガポールの中国系、マレー系、インド系など、多様な民族の人々が一堂に会して「衣装と仮装の芸術」を披露する国家行事です。「良き市民たれ」との池田大作先生の指針を胸に、長年にわたり、地域貢献に取り組んでいます。

2月7、8の両日に開催され、241人が参加しました。



チンゲイ・パレードから（2月、シンガポール）

民主音楽協会（関連団体 ※60ページ参照）

学校コンサート

全国各地で感動伝える



和太鼓を中心とした演奏が行われた「学校コンサート」（10月、鹿児島）

民主音楽協会（民音）は、これまで、世界114カ国・地域との文化交流事業を推進するとともに、地域・社会への貢献を目的とした公益事業にも力を注いできました。

中でも「学校コンサート」は1973年5月に北海道でスタートして以来、全国各地の学校で開かれ、開催校はのべ約4800校になりました。“青少年に一流の音楽との出あいを”との理念のもと、室内楽、独奏、民族音楽、和楽器の演奏など様々な音楽を提供してきました。鑑賞をきっかけに音楽の道を志した児童・生徒もいます。

2025年は、46校で開催されました。



10月8日、「学校コンサート」が、鹿児島の錦江町文化センターで行われ、同町と南大隅町の小・中学校の児童や生徒を含めた約700人が鑑賞しました。

和太鼓を中心とした演奏グループ「和楽団ジャパンマーベラス」が豪快なばちさばきと、しの笛の華麗な音色を披露。児童らが一緒に太鼓を演奏するひと幕もありました。

指揮者コンクールの
入賞デビューコンサート

「東京国際指揮者コンクール2024」の「入賞デビューコンサート」が7月10日、東京・港区のサントリーホールで開かれ、音楽評論家をはじめ、25カ国の大使・大使館関係者など、多数の聴衆が詰め掛けました。

「東京国際指揮者コンクール2024」の第1位から第3位までの3人が、NHK交響楽団を指揮しました。

音楽博物館・西日本館
「平和構築の音楽」展

民音音楽博物館・西日本館（兵庫県神戸市の関西国際文化センター内）の新たな常設展となる「平和構築の音楽」展が1月12日、開幕しました。

パネル展示や映像などを通し、中世から現代に至る音楽の変遷とともに、人権闘争や民衆運動、紛争などの場面で音楽が担ってきた役割を紹介しています。



東京富士美術館（関連団体 ※61ページ参照）

「ヨーロッパ絵画 美の400年」展など

巡回展示を開催



東京富士美術館での「ヨーロッパ絵画 美の400年」展（10月、東京）

東京富士美術館（八王子市）で「ヨーロッパ絵画 美の400年」展が10月4日から開催されました（2026年1月18日まで）。

同館が所蔵するモネ、ルノワール、ゴッホ、シャガールといった人気画家のほか、ティントレット、ヴァン・ダイク、クロード・ロランら巨匠による、厳選した約80点の作品を紹介。

イタリア・ルネサンスから20世紀の近現代美術までの西洋絵画の歩みを一望するものとなりました。

同展の特徴は、歴史画・肖像画・風景画などのテーマごとに作品を並べていることで、異なる時代の表現を比較しながら鑑賞することができました。

来場者からは、「写真かと思うほど精密な絵もあり、驚きました」「各時代の表現を見比べながら、楽しく鑑賞できました」との声が寄せられました。

会期中は、講演会やワークショップ、コンサートなど関連イベントも行われました。

名古屋市美術館（4月12日～6月8日）、鹿児島市立美術館（7月25日～9月7日）でも開催されました。

大使館の美術展

東京富士美術館は、2024年から「大使館の美術展」を開催しています。各国の駐日大使館や大使公邸にある秘蔵の美術品や文化財を展示し、文化の一側面を紹介する試みです。

2025年は、ペルー共和国大使館、ウクライナ大使館、クロアチア共和国大使館、チュニジア共和国大使館の順番で開催されました。美術展に合わせて講演会やイベントも開催されました。



「大使館の美術展 IV 文化交流随想—ペルー共和国大使館」（1月、東京）

ドバイで国際博物館会議
館長らが文化交流の進展等を発表

国際博物館会議（ICOM）の第27回大会が、11月11日から17日にかけて中東・アラブ首長国連邦（UAE）のドバイで開催され、世界各国のミュージアム関係者らが参加しました。

13日の国際委員会のセッションでは、東京富士美術館の清水由朗館長が登壇し、文化交流の取り組みを発表（写真）。また、杉浦智事務局長らは、セキュリティ一面の課題などについて報告しました。



教育本部

「教育のための社会」めざして

「人間教育実践報告大会」を継続して開催



全国人間教育実践報告大会で、北海道の青年教育者が合唱（10月、北海道）

創価学会の教育本部は、教育の現場にたずさわる関係者からなり、教育部、幼児・家庭教育部、社会教育部の3部で構成されています。

日々の教育現場での様々な実践を語り合い、自身の教育への取り組みを向上させるとともに、教育のあり方を考える場としてのフォーラムや展示・講演会活動などを行っています。

1984年、池田大作先生は「教育の目指すべき道——私の所感」（教育所感）を発表しました。その所感の中で、教師が教育現場での出来事をつづる「教育実践記録運動」を提案。以来、教育本部のメンバーは、子どもの幸福に尽くす奮闘を「実践記録」としてとどめてきました。

その記録は累計で18万9000事例にのぼり、積み重ねてきた人間教育の足跡を、実践報告大会で広く社会へ発表し

子ども新時代をテーマに
セミナー

教育本部主催のセミナーが3月23日、東京・新宿区の創価文化センター内の金舞会館で開催。“尾木ママ”の愛称で親しまれる教育評論家の尾木直樹氏が「『子ども新時代』の学校と教育」とのテーマで講演しました。



ています。

10月26日、第45回「全国人間教育実践報告大会」を、「『教育のための社会』目指して～みんなが主役！“自分らしさ”が輝く心のつながりを～」とのテーマのもと、札幌市の北海道池田講堂で開催しました。札幌創価幼稚園の教員が研究発表を行い、教育本部の代表として、小学校教諭、高校講師、保育士が教育実践を報告。北海道の青年教育者が青年の歌「未来の地図～Step Forward～」の合唱を披露しました。

これには北海道の鈴木直道知事がビデオメッセージを寄せ、中国駐札幌総領事館の王根華総領事、在札幌ロシア連邦総領事館のファブリーチニコフ・アンドレイ総領事、北海道博物館の荒川裕生館長をはじめ、道内の市長、教育長ら多数の来賓が出席しました。

図書贈呈運動

未来を担う子どもたちのために

活字文化の伸展を目指し



2025年の図書贈呈式から（10月、石川）

創価学会は、活字文化の伸展と、未来を担う子どもたちのために、1974年以来、小・中学校、公立図書館等を対象に優良図書の贈呈活動が続けてきました。贈呈は、山間部や離島、また地震や台風などの自然災害で被害を受けた学校などを中心に行われています。

贈呈する優良図書は大手書店が選ぶ話題の書籍や図鑑、SDGs関連の本など多種多様です。さらに5年間にわたり、毎年追加で最新の図書を届けています。

2012年からは、東日本大震災で被害を受けた岩手県、宮城県、福島県などの学校に贈呈を開始。

その後も能登半島地震で被災した石川県や、豪雨災害の被害にあった地域など全国の小・中学校に1万冊以上の図書を届けました。

2025年は、山形県、静岡県、広島県、愛媛県など全国120の小・中学校、公立図書館に対して、7176冊の贈呈を行いました。贈呈校は累計1398校を数え、贈呈書籍の総冊数は57万冊を超えました。

取り組みの淵源

第1回の贈呈式は1974年2月3日、第3代会長の池田大作先生が出席し、沖縄・石垣島で行われ、西表島の竹富町立大原中学校に、約1000冊の贈書の目録などを手渡しました。

学会の図書贈呈運動の淵源は、1954年8月、戸田城聖先生が初めて池田先生と共に故郷の北海道・厚田村（当時）を訪れた時のことです。地元の小・中学校の校長から“全般的に図書が不足している”と聞いた戸田先生は語りました。

「それでは、さっそく図書を贈らせてもらいましょう。少年時代の良書との出会いは、人格を形成するうえで、最大の精神の養分になりますからね」

その後、寄贈する図書の手配を進めたのが、若き池田先生でした。

未来を担う子どもたちに豊かな心を育む機会を——教育に懸ける師弟の思いは、本格的な運動へとつながっていったのです。



西表島の竹富町立大原中学校への図書贈呈式（右手前が池田先生、1974年2月、沖縄）

未来部（※49ページ参照）

少年少女希望絵画展を開催

作文・読書感想文コンクールも



創価文化センターで開催された絵画展（3月、東京）

未来部（高等部・中部部・少年少女部）では、各種コンクールを「未来部サマーチャレンジ」として実施し、希望者が参加しています。全未来部員が対象の英語スピーチコンクール「イングリッシュチャレンジ」、少年少女部は「きぼう作文コンクール」「少年少女希望絵画コンクール」、中・高等部は「読書感想文コンクール」に挑戦しています。

1970年、子どもたちの成長を図る取り組みの一環として、第1回の作文コンクールが行われました。以来、未来部のコンクールは発展の歴史を刻んできました。

少年部（当時）の結成20周年となる85年、“文章が苦手な子のために、絵でもコンクールを”との担当者たちの思いが結実し、少年部絵画展が始まりました。



3月22日から5月25日まで東京・新宿区の創価文化センターで、第39回「少年少女希望絵画展」が開催されました。前年の「少年少女希望絵画コンクール」で、全国から応募のあった約1万点の作品の中から、入賞作品100点を紹介しました。

展示は、その後、名古屋市の中部文化センター、神戸市の関西国際文化センターを巡回しました。

イングリッシュチャレンジ

11月30日には、未来部の「イングリッシュチャレンジ」の表彰式が、東京・新宿区の戸田記念国際会館で開かれました。「イングリッシュチャレンジ」には、「英語の課題文」をスピーチする部門と、将来の夢や挑戦していること、社会問題や、みなに伝えたいことなど、テーマを自由に選びスピーチする部門があります。

応募された中から、最優秀賞、優秀賞の受賞者が紹介され、表彰状が贈られました。

橋詰未来部長、岡崎女子未来部長があいさつしたほか、最優秀賞の受賞者を代表して、2人の未来部員が英語でスピーチを行いました。

各地で合唱団が発表会

少年少女部では、全国各地で合唱団が結成され、発表会などの活動を行っています。



少年少女部結成60周年を記念する「関西ドリームフェスタ2025 ～獅子の心で飛び出そう！～」が10月5日、大阪・交野市の関西創価学園・池田講堂で開催されました。

3つの合唱団と共に、参加者全員で歌いました。



ブラジル創価学会

読書教育運動

世代超えた「アカデミー」を182カ所で



アカデミーで読書の楽しさを語り合う（3月、ブラジル）

ブラジル創価学会の教育本部は、ブラジル全土で「読書の魔法アカデミー」と題した読書教育運動を展開しています。

昨年、アカデミーは、全土182カ所で開かれました。開催の頻度は1、2カ月に1回。受講は無料で、希望すれば世代を問わず参加が可能です。

タイトルにある「魔法」とは、読書が楽しくなるために凝らされた工夫や企画が当たります。

受講生は1冊の本をじっくりと時間をかけて読みます。サンテグジュペリの名作『星の王子さま』や、『アンネの日記』など読みやすいものから、ホール・ケイン著『永遠の都』、ブラジル文学まで、幅広い書籍がテキストとして取り扱われてきました。



3月23日には、サンパウロ市のセントロ・レステ文化会館でアカデミーが行われました。子どもから大人までの受講者が、想像力を豊かに引き出す読書の魅力を巡って、楽し

く語り合いました。



教育本部は、社会課題の解決に向け長年取り組んできました。1987年から「識字教育運動」を実施してきました。成人を対象に、小学校の修得課程を最短40時間で修了できる教育プログラムを確立しました。教育省の認定も受け、受講者には小学校修了と同等の証書が与えられました。連邦政府の施策も奏功。識字率は確実に上昇しました。

一方で近年、別の課題も浮き彫りになってきました。「字を読むこと」はできても、「文章を正しく理解できない」人が少なくないことが、調査で明らかになりました。その改善に向けて、教育本部が2007年から「読書の魔法アカデミー」を実施してきました。読み書きが苦手だった受講生の中から、教育の道に進んだ人や詩集を出版した人も生まれています。



—昨年、北東部のペルナンブコ州セーハ・タリャダ市郊外で、子ども向けに行われた“青空アカデミー”（提供「ブラジル・セイキョウ紙」）

池田国際対話センター（関連団体 ※63ページ参照）

核軍縮教育巡る
フォーラムを開催

ハーバード教育大学院でのパネルディスカッション（5月、アメリカ）

アメリカの池田国際対話センター（マサチューセッツ州ケンブリッジ市）は学識者、学生などと協力し、学術セミナーや、青年を中心とした対話や公開フォーラムを企画。“知の拠点”として発展してきました。

これまで同センターが編集・出版した書籍は累計で世界の325大学・1010コースで教材として使用されています。



5月9日から11日にかけて、池田国際対話センターとアメリカ創価大学（SUA）の地球的問題群研究センター、ハーバード教育大学院などが共催する「核軍縮教育を巡る教育者会議」が、米マサチューセッツ州ケンブリッジ市で開催されました。

初日には、ハーバード教育大学院で公開イベントが行われ、同大学院生をはじめ多くの聴衆が来場。被爆体験を持つソーシャルワーカーで、平和のための教育に取り組むNPO法人を創設したヒデコ・タムラ・スナイダー氏がオンラインで登場し、「これ以上、ヒロシマやナガサキのような悲劇を繰り返してはならない」と訴えました。

パネルディスカッションでは、核時代平和財団のイバナ・ヒューズ会長、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）国際運営委員のアイラ・ヘルファンド博士らが登壇。核兵器を「過去の問題」と捉える無関心を乗り越える方途、教育が果たすべき役割等について、議論を交わしました。

文明間対話フォーラム

9月26日には、第21回「文明間の対話のための池田フォーラム」を池田国際対話センターで開催しました。同フォーラムは、2004年にスタート。池田先生の思想を軸とし、学識者の講演や参加者の議論を通じて、人類共生への方途を探ってきました。米ウェルズリー大学のカティア・コンフォーティニ教授、ナディヤ・ハジ准教授が登壇しました。



インディゴ・トークス

6月5日、「インディゴ・トークス」がオンラインで開催されました。「インディゴ・トークス」は、各分野の学識者を招き、池田先生の思想に照らして、希望の未来を開く方途を探るものです。

紛争解決などを専門とする、米サンディエゴ大学のダレン・キュー教授が講演しました。

ダイアログ・ナイト（対話のタベ）

同センターでは年間を通して、近隣の学生や若手専門家を招き、テーマについて論じ合う「ダイアログ・ナイト（対話のタベ）」を主催しています。

8月8日には、「平和による力——80年を経た広島と長崎から学ぶ」と題し、原爆の教訓から何を学び取るかを問い、「力による平和」から「平和による力」への転換の道を探りました。



池田思想研究

広東外語外貿大学でシンポジウム
諸大学で「創価教育」を研究

広東外語外貿大学で行われたシンポジウム（6月、中国）

池田大作先生の平和思想、創価教育の研究が世界各地で活発に行われています。世界の諸大学には創価教育を研究する機関が設置されています。文化や価値観の違いを超え、普遍的な教育哲学として広がっています。



中国・広東外語外貿大学、中国国際貿易学会日本語・国際ビジネス専攻教学研究委員会、創価大学が共催する「池田大作思想と中日人文交流シンポジウム」が6月29日、広州市の広東外語外貿大学で開催されました。これには、復旦大学、北京師範大学、厦門大学など、中国の50以上の大学や研究機関から、約100人の専門家、学者らが出席しました。

開幕式で広東外語外貿大学の劉建達副学長は、池田先生の平和主義に共感を寄せ、今回のシンポジウムの意義の深さを述べました。創大の鈴木美華学長は、開催に謝意を述べた上で、平和、文化、教育の分野で活躍する人材を育んでいきたいと語りました。広東外語外貿大学東方学研究院の陳多友院長が、対話と協力こそ地球規模の課題解決への希望となると訴えました。中日友好協会の程永華常務副会長、中国社会科学院日本研究所の楊伯江所長が基調講演を行いました。

シンポジウムでは、「池田大作氏の平和思想の現代的価値」「青少年交流を通じて両国の相互理解をいかに促進するか」などをテーマに活発な議論が交わされました。

韓国で学術大会

10月18日、韓国新宗教学会と慶熙大学宗教市民文化研究所が主催する「池田大作思想学術大会」が、韓国の首都ソウルの韓国外国語大学で行われました。

これには、同国の学識者70人をはじめ、創価学会の派遣団らが出席しました。テーマは、「池田大作思想と人類文明の転換——持続可能な平和と世界市民性を中心に」。気候危機や武力紛争、不平等の深化など混沌とした時代において、世界平和を実現するための道筋を、池田先生の思想や行動から模索するものです。

韓国新宗教学会の李京源会長らがあいさつしました。



台湾・中国文化大学でフォーラム

2月27日には、台湾・台北市にある中国文化大学で第16回「池田大作平和思想研究国際フォーラム」、第10回「国際青年フォーラム」が開催されました。

両フォーラムでは「21世紀の青年の使命」をテーマに、46人の研究者・大学院生が、それぞれの専門分野の視点から池田大作先生の思想を巡って活発に議論を交わしました。



三代会長と創価学会の歴史

創価学会は、1930（昭和5）年11月18日、初代会長となる牧口常三郎先生と弟子の戸田城聖先生によって創立されました。この日は、牧口先生の『創価教育学体系』第1巻が発刊された日ですが、同書の奥付に戦前の会名「創価教育学会」の名称が初めて現れたことをもって、この日を創価学会創立記念日としています。

創価教育学会は当初、牧口先生の創価教育学説に基づく教育改革の推進を主たる目的としていました。さらに、1928（同3）年に日蓮大聖人の仏法に出あった牧口先生は、この仏法こそが自身の教育理論の根底となる「人格価値の創造」を可能にするものであるとの強い確信を持つように

なりました。

以来、教育者による教育改革運動の枠を超え、仏法を根本とした一人一人の人間変革と生活の革新、そして、より良い社会建設を目指す宗教運動の団体へと発展していきま

した。第2次世界大戦中、戦争への動員強化のために国家神道を中心とする宗教・思想の統制を図った軍部政府の弾圧で、創価教育学会は牧口会長、戸田城聖理事長をはじめ21人の幹部が捕らえられ、当時3000世帯あった組織は壊滅状態に陥りました。そして、牧口会長は1944（同19）年11月18日、獄中で殉教しました。

1945（同20）年7月3日に出獄した戸田理事長は、戦後、会の再建を一人決意し、会名を「創価学会」と改めて出発しました。そして、1951（同26）年5月3日には、会員の総意を受けて第2代会長に就任し、以後、逝去する1958（同33）年までに会員世帯は75万世帯となり、大きな前進を果たしました。

なお、会長就任の年に宗教法人法が施行されましたが、この法律にのっとり、翌1952（同27）年9月、創価学会は宗教法人格を取得しました。

発展の礎を築いた恩師・戸田先生の下で薫陶を受け、1960（同35）年5月3日に第3代会長に就任した池田大作先

生は、創価学会の発展に尽力。日本および海外で会員数は飛躍的に増加し、今日では、日本で世帯数827万を数えるに至っています。

また、1960年10月、池田会長は海外の会員を激励するため、アメリカ、カナダ、ブラジルを初訪問しました。以来、海外訪問国数は54カ国・地域に及びました。

こうしたなか、1975（同50）年1月26日には、日蓮大聖人の仏法を信奉する各国の団体が参加し、SGI（創価学会インタナショナル）が設立されました。

現在、会員の居住国は、世界192カ国・地域に広がり、海外メンバーは300万人に及んでいます。

創 価 学 会 関 連 略 年 表

1930	昭和5年	11月18日	●創価教育学会創立（牧口先生著『創価教育学体系』第1巻発刊）
1941	同16年	7月20日	●機関紙「価値創造」創刊
1943	同18年	7月 6日	●牧口会長、戸田理事長ら学会幹部、治安維持法違反、不敬罪容疑で逮捕、投獄
1944	同19年	11月18日	●牧口先生、東京拘置所で逝去（享年73歳）
1945	同20年	7月 3日	●戸田先生、出獄
1946	同21年	3月	●「創価教育学会」を「創価学会」と改称
1947	同22年	8月24日	●池田先生、創価学会に入信
1951	同26年	4月20日	●機関紙「聖教新聞」創刊
		5月 3日	●戸田先生、第2代会長就任
1952	同27年	4月28日	●『日蓮大聖人御書全集』発刊
		9月 8日	●宗教法人格を取得
1953	同28年	11月13日	●学会本部が東京・西神田から信濃町に移転
1957	同32年	9月 8日	●戸田先生、横浜・三ツ沢競技場で「原水爆禁止宣言」
1958	同33年	4月 2日	●戸田先生逝去（享年58歳）
1960	同35年	5月 3日	●池田先生、第3代会長就任
1962	同37年	1月27日	●「東洋学術研究所」（現・東洋哲学研究所）発足

		11月	●会員世帯数300万に
1963	同38年	5月24日	●アメリカで海外初の法人認可
		10月18日	●「民主音楽協会」（民音）発足
1964	同39年	12月 2日	●池田先生、小説『人間革命』の執筆を開始
1965	同40年	7月15日	●機関紙「聖教新聞」日刊化
1968	同43年	4月 1日	●創価中学校・高校開校
		9月 8日	●池田先生、日中国交正常化提言を発表

1970	同45年	1月	●会員世帯数750万に
1971	同46年	4月 2日	●創価大学開学
1973	同48年	2月	●ベトナム難民救援募金実施
1974	同49年	5月30日	●池田先生、中国を初訪問

		9月 7日	●青年部、核兵器廃絶1000万署名達成
		9月 8日	●池田先生、ソ連を初訪問

1975	同50年	1月26日	●創価学会インタナショナル（SGI）発足。池田先生、SGI会長に就任
1979	同54年	4月24日	●池田先生、名誉会長に就任。北条浩第4代会長就任
1981	同56年	7月18日	●秋谷栄之助第5代会長就任

		12月20日	●創価学会、国連広報局NGO（非政府組織）に
--	--	--------	------------------------

1982	同57年	1月26日	●創価学会平和委員会設置
		6月 3日	●「核兵器―現代世界の脅威」展の海外巡回、ニューヨークの国連本部でスタート

1983	同58年	1月25日	●池田先生、「SGIの日」記念提言を発表（以後、40回発表）
		5月12日	●SGI、国連経済社会理事会NGOに
		8月 8日	●池田先生に「国連平和賞」

		11月 3日	●東京富士美術館開館
1985	同60年	4月 2日	●創価女子短期大学開学
		8月15日	●青年部反戦出版「戦争を知らない世代へ」シリーズ全80巻が完結
1986	同61年	10月21日	●北京で「核の脅威展」
1987	同62年	5月25日	●モスクワで「核の脅威展」
1989	平成元年	6月14日	●池田先生、フランス学士院で講演

		8月24日	●衛星通信システムによる行事中継がスタート
		10月23日	●「戦争と平和展」国際巡回、国連本部でスタート
1991	同3年	6月10日	●婦人部反戦出版「平和への願いを込めて」シリーズ全20巻が完結
		9月26日	●池田先生、ハーバード大学で講演

1992	同4年	6月19日	●UNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）に協力しカンボジアへラジオ5万台贈呈（翌年までに計28万台）
1993	同5年	4月 9日	●「現代世界の人権展」、国連大学で開催
		9月24日	●「ボストン21世紀センター」（現・池田国際対話センター）設立

1995	同7年	10月15日	●被爆50年の広島で「世界青年平和文化祭」
		12月 1日	●「牧口記念教育基金会」発足
1996	同8年	1月 1日	●創価学会ホームページ「SOKAnet」開設
		2月11日	●「戸田記念国際平和研究所」発足

1997	同9年	9月14日	●原水爆禁止宣言40周年を記念し、横浜で「世界青年平和音楽祭」
1998	同10年	10月26日	●核兵器廃絶1300万の署名をニューヨークの国連本部に提出
2001	同13年	5月 3日	●アメリカ創価大学開学
2006	同18年	9月	●本部幹部会等のインターネット中継がスタート

		11月 9日	●原田稔第6代会長就任
2012	同24年	12月19日	●「創価文化センター」が開館
2013	同25年	10月 1日	●映像配信サービス「SOKAチャンネルVOD」がスタート
		11月 5日	●「広宣流布大誓堂」が落成

2017	同29年	9月 1日	●「創価学会会憲」制定
2018	同30年	9月 8日	●池田先生執筆の小説『新・人間革命』全30巻が完結
2019	令和元年	11月18日	●「創価学会 世界聖教会館」が開館
2021	同3年	11月18日	●『日蓮大聖人御書全集 新版』発刊

			●「創価学会社会憲章」制定
2022	同4年	7月26日	●池田先生、NPT（核兵器不拡散条約）再検討会議に寄せた緊急提案を発表
2023	同5年	1月11日	●池田先生、ウクライナ危機と核問題に関する緊急提言を発表
		4月27日	●池田先生、G7広島サミットに寄せて提言を発表

		11月15日	●池田先生逝去（享年95歳）
		11月18日	●『創価学会教学要綱』発刊
		12月13日	●池田先生に「パラグアイ・イベロアメリカ大学から名誉博士号が授与され、贈られた名誉学術称号は409に
2024	同6年	5月10日	●原田会長、ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇と会見
2025	同7年	1月15日	●SGI、核兵器使用の防止に関する声明を発表（※6ページ参照）
		8月 1日	●原田会長、終戦80年に寄せ談話を発表（※6ページ参照）



初代会長

牧口 常三郎 先生
(まきぐち・つねさぶろう)

牧口先生は、1871(明治4)年6月6日(旧暦)、柏崎県刈羽郡荒浜村(現・新潟県柏崎市荒浜)に生まれました。幼児期に牧口家の養嗣子となり、13歳の頃、北海道に渡りました。苦学の後、北海道尋常師範学校(現在の北海道教育大学)を卒業し、同校附属小学校の訓導(教員)、同校教諭兼舎監を務めました。その後、上京して、1913(大正2)年から約20年間、東京の西町、白金尋常小学校など6校の校長を歴任しました。この間、一貫して人間生活と教育・学問の関係を思索しながら、価値の創造、民衆の幸福と社会の繁栄への正道を追究してきました。

その代表的な成果として、1903(明治36)年には『人生地理学』を著し、人間と郷土や環境との関係について先見的で独創的な考察を展開しました。また、1930(昭和5)年から5年間で『創価教育学体系』全4巻を刊行しました。そこには、長年の教育実践に基づき、子どもの幸福を目的とする鋭い着想と画期的な提言が示されています。

1928(同3)年、日蓮大聖人の仏法に出あい、1930(同5)年に「創価教育学会」を創立。仏法の実践による

生活革新運動を展開しながら、大聖人が目指した民衆救済と平和創出のために身を尽くしました。

第2次世界大戦中、国家神道をもって宗教・思想の統制を図る軍部権力と敢然と対決するとともに、権力に迎合して自らの信仰を捨てた日蓮正宗宗門を厳しく諫めました。1943(同18)年に治安維持法違反ならびに不敬罪容疑で検挙されてからも、いささかも信念を揺るがすことなく、信教の自由という基本的人権の尊重を訴え続け、翌44(同19)年11月18日、奇しくも創価学会創立の日に獄中で逝去しました。その不惜身命の精神と万人の幸福と世界の平和を願う行動は、歴代会長に受け継がれ、今日、世界的な創価学会の運動へと開花・結実しています。

創価教育の理念と実践は、年を経るごとに各国で注目され、『創価教育学体系』は既に英語版、ポルトガル語版、ベトナム語版、フランス語版、スペイン語版、イタリア語版、ヒンディー語版、グジャラート語版、アッサム語版、パンジャブ語版、ウルドゥー語版、カンナダ語版、タミール語版、ベンガル語版、中国語(繁体字)版、テルグ語版、マラヤラム語版の17言語で発刊されています。



第2代会長

戸田 城聖 先生
(とだ・じょうせい)

戸田先生は、1900(明治33)年2月11日、石川県に生まれ、移住した北海道厚田村(現・石狩市厚田区)で育ちました。

苦学して教員となり、20歳の時に上京して、当時、独特の教育法で関心を集めていた牧口先生(初代会長)に師事しました。23歳で「時習学館」という私塾を主宰し、牧口先生の教育理念を実践しました。この頃に発刊した学生向け参考書『推理式指導算術』は100万部を超えるベストセラーになりました。

1928(昭和3)年、牧口先生とともに日蓮大聖人の仏法に帰依しました。そして、1930(同5)年には、牧口先生と二人で「創価教育学会」を創立し、理事長として牧口先生を支え、教育改革、宗教改革に尽力しましたが、1943(同18)年、軍部権力の弾圧により投獄されました。2年余の獄中生活の中でも信念を貫き、法華経の真髓を「仏とは生命なり(仏とは、自身の生命そのものであり、宇宙そのものでもあるとの意)」と会得しました。

1945(同20)年7月3日に出獄した時、創価教育学会は壊滅状態でした。

敗戦で国土も国民の心も荒廃しきった中で、会の名称を「創価学会」と改め、会の再建と民衆救済への運動を開始しました。

1951(同26)年5月3日、第2代会長に就任した戸田先生は、当時3000世帯だった組織を整え、後継の弟子の育成に全力を注ぎながら、7年足らずで生涯の願業とした75万世帯を達成しました。

1957(同32)年9月8日、横浜・三ツ沢競技場で「原水爆禁止宣言」を遺訓の第一として発表し、後継の青年に託して、1958(同33)年4月2日、その生涯を終えました。

その人柄は豪胆にして細心。遠大な理想家、情熱家であり、民衆を愛し、民衆から慕われた指導者でした。

家族とともに12年間の少年時代を過ごした故郷の厚田村には、1977(同52)年、創価学会によって戸田記念墓地公園が建設され、毎年数十万人が訪れています。また、1999(平成11)年12月には厚田村から「栄誉村民」の称号が贈られ、2005(同17)年10月には厚田村と合併した石狩市より「特別功績者」に登録されました。



第3代会長

池田 大作 先生
(いけだ・だいさく)

池田先生は、1928（昭和3）年1月2日、東京府荏原郡入新井町（現・東京都大田区大森北）に生まれました。1947（同22）年、戸田先生（後に第2代会長）と出会い19歳で入信し、師事。戸田先生が掲げた75万世帯の弘教達成に尽力しました。

1960（同35）年、第3代会長に就任。生命尊厳の仏法思想を根幹とした平和・文化・教育運動の指揮を執り、創価学会の飛躍的・国際的な発展をもたらしました。1975（同50）年、SGI（創価学会インタナショナル）の発足に伴い、SGI会長に就任。1979（同54）年、創価学会名誉会長に。

戸田先生の真実と精神を正しく後世に伝えたいと、1964（同39）年、小説『人間革命』（全12巻）を起稿。1993（平成5）年には続編の小説『新・人間革命』（全30巻）を書き起こし2018（同30）年に脱稿しました。

民間人の立場で世界とアジアに平和の橋を架けようと、1968（昭和43）年、「日中国交正常化提言」を発表し、東西冷戦下の中国、ソ連、アメリカを訪問。各指導者と緊張緩和に向けた対話を交わしました。生涯で54カ国・地域を歴訪し、歴史学者のトインビー博士をはじめ、中

国の周恩来総理、ソ連のゴルバチョフ大統領、南アフリカのマンデラ大統領、化学者のポーリング博士ら、各国のリーダー、文化人等と会見、対話を重ね、結実した対談集は80点に及びます。アメリカのハーバード大学など、海外の大学・学術機関での講演は32回を数えます。

戸田先生の「原水爆禁止宣言」の精神を宣揚すべく1983（同58）年から40回にわたる1・26「SGIの日」記念提言をはじめ、各種提言も発表しました。

また、創価大学、創価女子短期大学、アメリカ創価大学、創価学園（高校・中学・小学校・幼稚園）、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所、池田国際対話センター（アメリカ）、ピクトル・ユゴー文学記念館（フランス）など、教育・音楽・美術・学術の団体などを創立しました。2023（令和5）年11月15日に95歳で逝去。「国連平和賞」のほか、モスクワ大学、北京大学、グラスゴー大学、デンバー大学など、世界の大学・学術機関の名誉学術称号、さらに「桂冠詩人」の称号、「世界桂冠詩人賞」、「世界民衆詩人」称号、「世界平和詩人賞」など多数受賞しました。

192カ国・地域で社会貢献

SGI(創価学会インタナショナル)は、1975年1月26日、世界51カ国・地域の代表がグアムに集って「世界平和会議」が開催され、発足しました。席上、池田大作先生がSGI会長に就任。池田先生は、その時のスピーチを

結ぶに当たって、「皆さん方は、どうか、自分自身が花を咲かせようという気持ちでなくて、全世界に妙法という平和の種を蒔いて、その尊い一生を終わってください。私もそうします」と呼びかけられました。現在、192カ国・地域からなる平和と幸福を目指す国際的機構へと発展し、生命尊厳の仏法を基調に、人類の平和、文化、教育への貢献を目指す活動に取り組んでいます。創価学会の海外のメンバーは、300万人に及ぶ広がりとなっています。



SGI発足50周年を記念したグアムの集い（1月、アメリカ）

1983年には、国連経済社会理事会との協議資格を持つNGOとして登録され、平和、人権、持続可能な開発の分野での地域に根ざした意識啓発の運動や人道支援活動を、他のNGOやFBO（信仰を基盤とした団体）とも連携しながら活発に展開してきました。またSGIは、寛容の精神と世界市民の理念に基づき、人類が直面する共通課題の解決へ向けた人間の連帯を構築すべく、宗教間対話にも取り組んでいます。

1983年以来、池田先生は40回にわたり、SGI発足の日である1月26日を記念して、国際社会に向けて「平和提言」を発表しました（※50ページ参照）。こうした取り組みは、地球的な課題に関する議論を後押しし、国連による「持続可能な開発のための教育の10年」や「人権教育および研修に関する国連宣言」などとして結実しています。

1995年には、「SGI憲章」を制定。各国のメンバーが、他宗教や文化の多様性を尊重し、対話による相互理解や、地域社会への貢献を促す指針を明確にしました。2021年、「SGI憲章」を改定し、新たに「創価学会社会憲章」が制定されました（※65ページ参照）。

2024年には、SGIの指導体制を明確にし、「SGIは、池田大作先生を永遠にSGI会長と仰ぐ」「三代会長、なканずくSGI会長であられる池田先生の指導および精神を根本に、創価学会会長を中心として、SGI理事長と共に、異体同心の団結で世界広布を推進する」ことが発表され、創価学会会憲が改正されました。

各国代表者会議を開催

11月13日、75カ国・地域から270人のリーダーが集い、SGI各国代表者会議が東京・新宿区の金舞会館（創価文化センター内）で開かれました。席上、原田会長が新任人事を紹介し、SGI最高顧問に池田博正氏、同女性部長に那須昌美氏、同女子部長に堀口美幸氏が就任しました。

◎各国での顕彰

メキシコ

1月24日に、メキシコのアルフォンソ・ガルシア・ロブレス外交協会からSGIに「平和と核廃絶功労メダル」が授与されました。これは、SGIの平和・文化・教育への多大な功績をたたえたもので、メキシコ創価学会は各地の大学で核兵器廃絶の展示を行うなど、市民社会に平和の潮流を広げてきました。

台湾

8月22日には、台湾SGIに、行政院内政部から23回連続となる「宗教公益賞」が贈られました。同賞は、台湾の数ある宗教団体の中から目覚ましい社会貢献を果たした団体に贈呈されるものです。

ボリビア

10月21日には、ボリビアの「自由の家」から、ボリビア建国200周年を記念する「独立宣言書」のレプリカが贈られました。池田先生とSGIの長年にわたる平和・文化・教育への比類なき貢献をたたえたものです。「自由の家」は「独立宣言書」が厳重に保管されている、同国の最重要の建物です。

◎新しい会館が誕生

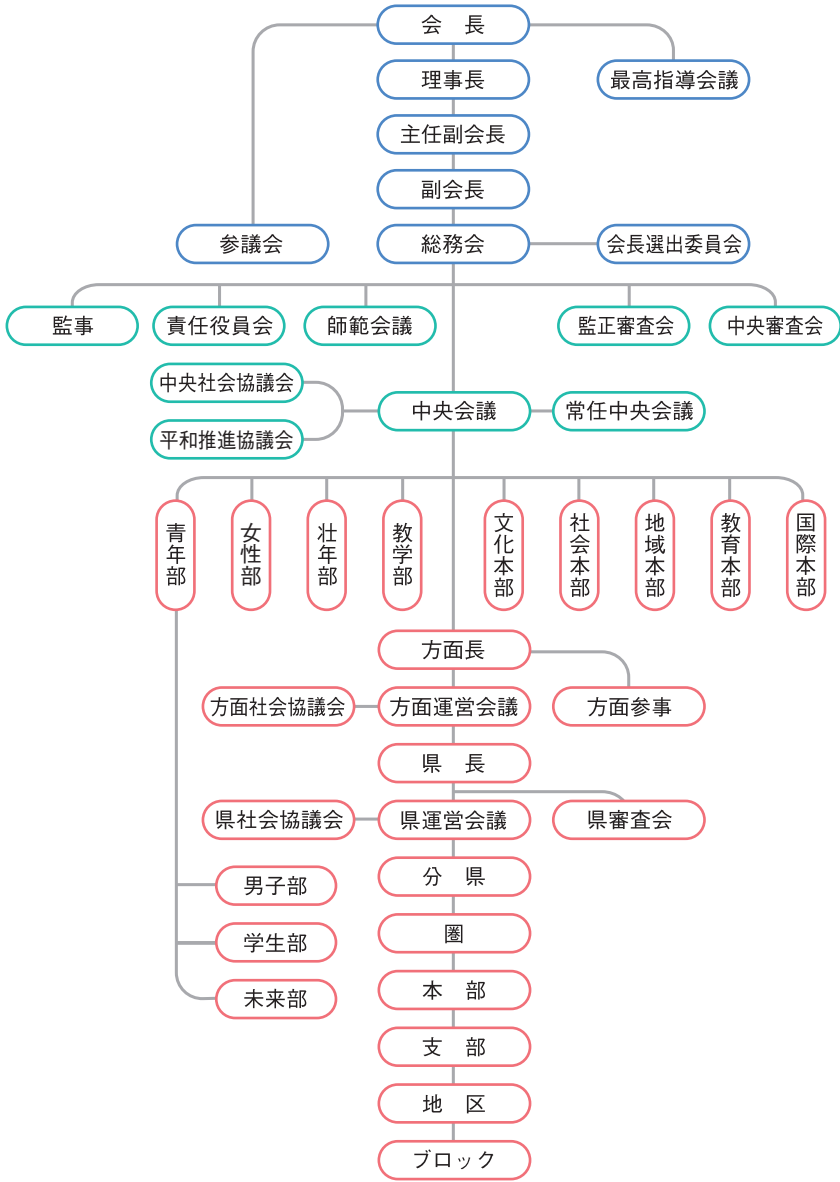
トリニダード・トバゴ共和国、アルゼンチン、インド、韓国など、世界各国で新しい会館が誕生しました。このうち、アメリカの新「デンバー文化会館」の開館式には、デンバー市のアル・ガードナー副市長が来賓として出席し、コロラド州から贈られたアメリカSGIへの宣言書を紹介。同SGIが仏法を基調として、社会に平和と調和を築いてきた功績がたたえられました。

(1) 創価学会の組織・機構

創価学会の基本組織としては、東京の創価学会本部のもと、北海道から沖縄まで全国13の方面があり、さらに各都道府県の組織が構成されています。会の最高議決機関である「総務会」では、年間の活動方針や決算の承認など、会の運営について重要な事柄を決定しています。「中央会議」は、会長を中心に、各方面長、女性部、青年部等の代表が、当面する具体的な活動の進め方などを協議し決定しています。また、各方面では方面長を中心に「方面運営会議」を、各県では県長を中心に「県運営会議」を設置し、それぞれ方面・県単位の活動の推進について協議し運営しています。各都道府県には、地域組織として、「分県・区」―「圏・分区」―「本部」―「支部」―「地区」―「ブロック」を基本型とする組織があります。支部、地区の活動はそれぞれ支部協議会、地区協議会で協議し進められています。

すべての会員はブロックに所属し、その地域での活動に参加します。また、「壮年部」「女性部」「青年部（男子部、学生部、未来部）」に所属し、各部の活動に参加します。

このほか、創価学会の組織には、仏法の教義を研鑽する教学部員による「教学部」と、社会の各分野で活躍するメンバーで構成される「文化本部」（芸術部、学術部、ドクター部、文芸部）、「社会本部」（社会部、専門部）、「地域本部」（幸福城部、地域部、勝利島部、農漁光部）、「教育本部」（教育部、幼児・家庭教育部、社会教育部）、「国際本部」（通訳翻訳部、国際ボランティア部、国際交流部、在日外国人部）などがあります。



- ◎総務会（山本武議長）
会員の代表である総務で構成され、年間活動方針などの重要な会務の決定や決算の承認などを行う。
- ◎会長選出委員会（山本武議長）
総務の代表等からなる会長選出委員会を置き、会長を選出する。
- ◎最高指導会議（秋谷栄之助議長）
「三代会長」の「学会精神」を厳正に保持し、深化・継承していくための信心指導・助言を行う。
- ◎参議会（森田康夫議長）
年間活動方針など重要な会務に関する会長の諮問機関。
- ◎中央会議（原田稔議長）
総務会の決定を受け、組織や人事など重要な会務の執行に関する事項を審議し決定する。
- ◎師範会議（谷川佳樹議長）
教義及び化儀を研究し、教学の振興をはかる。
- ◎方面・県運営会議
中央会議の下、方面および都道府県に設置され、それぞれの会務の執行に関する事項を審議し決定する。
- ◎社会協議会（萩本直樹中央社会協議会議長）
中央、方面、都道府県にそれぞれ設置され、中央会議や方面・県運営会議等より検討を委ねられた社会問題についての見解ならびに、国政・地方選挙に関する対応について、協議・決定する。
- ◎平和推進協議会（佐藤芳宣議長）
平和運動の推進に関する事項および平和・国際問題についての見解を協議・決定する。
- ◎審査会 / 監正審査会
中央本部に中央審査会、各都道府県に県審査会がそれぞれ設置され、会員の処分・資格を審理し決定する。なお、中央・県審査会の決定に対する不服申し立ての審査機関として監正審査会を置く。

※詳細は「創価学会会則」参照。会則全文は、創価学会公式サイトで公開



会長

原田 稔（はらだ・みのる）

1941（昭和16）年11月8日生まれ。東京都出身。
1953（昭和28）年、創価学会に入会。
学生部長、青年部長、東京長、副理事長などを歴任。学会本部では庶務室長を務めた後、事務総長として法人運営万般を担ってきた。
1964（昭和39）年、学会本部入社。1976（昭和51）年、青年部長（学生部長兼任）。
1977（昭和52）年、副会長。1984（昭和59）年、事務総長。1986（昭和61）年、東京長。
2006（平成18）年より現職。2023（令和5）年に再任され5期目。



理事長

長谷川 重夫（はせがわ・しげお）

1941（昭和16）年1月21日生まれ。東京都出身。
1953（昭和28）年、創価学会に入会。
総務会副議長などを歴任。学会本部では庶務室長の後、事務総長を務めてきた。
1963（昭和38）年、学会本部入社。1985（昭和60）年、副会長。
2006（平成18）年、事務総長。2015（平成27）年、理事長に就任した。

主任副会長

山本 武（やまもと・たけし）

1943年生まれ。1958年入会。総務会議長。
九州総主事。

池田 博正（いけだ・ひろまさ）

1953年生まれ。同年入会。

谷川 佳樹（たにかわ・よしき）

1956年生まれ。1961年入会。事務総長。SGI理事長。

金澤 敏雄（かなざわ・としお）

1953年生まれ。1958年入会。総東京総会長。

萩本 直樹（はぎもと・なおき）

1953年生まれ。1963年入会。聖教新聞社代表理事。
総東京長。中央社会協議会議長。

石嶋 謙二（いしじま・けんじ）

1949年生まれ。1963年入会。事務センター長。

各部部长



壮年部長

谷川 佳樹

（たにかわ・よしき）
1961年入会。主任副会長。
2018年に就任。



女性部長

那須 昌美

（なす・まさみ）
1967年入会。
2025年に就任。



青年部長

西方 光雄

（にししかた・みつお）
1984年入会。
2022年に就任。

(2) 創価学会総本部

東京・新宿区信濃町にある「創価学会総本部」は、広宣流布大誓堂をはじめとする創価学会関連施設の総称で、創価文化センター、創価宝光会館、本部別館、本部第2別館、世界聖教会館などの施設が含まれます。

各施設の案内は、「創価学会総本部」サイト (sghq.sokanet.jp) で閲覧できます。



広宣流布大誓堂

◎広宣流布大誓堂

世界の創価学会の信仰の中心道場である広宣流布大誓堂は、地上7階・地下3階の建物で2013年11月に落成。主に全世界の会員を対象に開催される「広宣流布誓願勤行会」の会場として利用されています。

約1000人が収容できる3階の大礼拝室には「広宣流布の御本尊」が安置されており、須弥壇の基底部には全国47都道府県と世界五大大陸の192カ国・地域の石が埋納されています。館内には、6階の三代会長記念会議場、2階のSGI友好会議室などの会議室のほか、1階の広宣ホールには「広宣流布誓願の碑」が設置されています。

◎創価文化センター

創価文化センターは、地上6階・地下2階の建物で、2012年12月に落成しました。



創価文化センター

1階のエントランスホールは、3階までの吹き抜けで開放的な空間が広がります。2階は小休憩ができるラウンジ、授乳室、キッズルーム等を備えています。そのほか、海外の会館や座談会の様子をタッチパネルなどで紹介するデジタル展示フロア（3階）、学会の歴史や池田先生の足跡を紹介する特別展示室（5階）などが設置されています。また、4階と6階には礼拝室があります。

◎創価宝光会館

創価宝光会館は、地上3階・地下1階の建物で、2020年4月に落成しました。「来館者の皆様を歓迎・賛嘆するデザイン」をコンセプトに設計しており、全世界から来訪する会員向けの施設となっています。

1階のロビーは休憩会場、2階のホールは来館者を応対する会場となっています。また、3階と地下1階には礼拝室があります。



創価宝光会館

◎八葉蓮華（シンボルマーク）について

創価学会のシンボルマークは、八葉蓮華（8枚の花弁の蓮華）を図案化したもので、1977年に決定しました。八葉の花模様が幾重にも広がる様子は一人一人が自身の生命に内在する無限の可能性を開き顕し、また日蓮仏法が世界に流布していく様相を表しています。さらに全体として豊かなふくらみをもっている姿は、功德に満ちあふれる学会員一人一人の姿を表現しています。



◎創価学会三色旗（シンボル旗）について

創価学会の「赤、黄、青」の「三色旗」は、1988年に定められました。ポールに近い順に「青」「黄」「赤」と並びます。三色は、それぞれ「平和（青）、栄光（黄）、勝利（赤）」を表し、一人一人の幸福と平和の実現を目指す創価学会の理念を象徴しています。



創価学会総本部の主な施設

●信濃町の由来

「信濃町」の町名は、1943年に東信濃町、西信濃町が合併し誕生。東信濃町は、江戸時代、幕府譜代の家臣・永井信濃守尚政（ながいしなののかみなおまさ）の下屋敷がこの地域にあったことから、「信濃町」（あるいは「信濃殿町」）と呼ばれた時代があり、これが町名の由来になっています。

1953年、学会本部は東京・西神田から信濃町に移転しました。

優良防火対象物（東京消防庁）

- 広宣流布大誓堂
- 創価文化センター
- 本部別館
- 本部第2別館
- 創価世界女性会館
- 戸田記念国際会館
- 創価池田華陽会館
- 創価学会 世界聖教会館



(3) 聖教新聞社

言葉と、生きていく。

SEIKYO SHIMBUN

代表理事:萩本直樹(創価学会主任副会長)

●聖教新聞社の定期刊行物

聖教新聞(日刊)

大白蓮華(月刊)

創価新報(月刊)

未来ジャーナル(月刊)

少年少女きぼう新聞(月刊)

聖教新聞社は、東京本社のもとに6支社と40支局を配置して、全国ネットワークを整備しています。

本社のある「創価学会 世界聖教会館」は地上5階・地下2階建てで、機関紙・誌の制作業務に当たるための編集室、会議室などのほか、礼拝室の「言論会館」、配達員顕彰室や展示室、図書資料室等が設けられています。

創価学会の機関紙「聖教新聞」は1951年4月20日に創刊されました。当初は旬刊2ページ建て、発行部数5000部で出発しました。現在は日刊12ページ建てで、全国52カ所で印刷しています。

「聖教新聞」には、創価学会の活動はもとより、仏法の世界の広がりにもとない、海外各国やSGI(創価学会インタナショナル)のニュース等も掲載しています。このほか、月刊誌「大白蓮華」や青年・未来部の機関紙を定期的に刊行しています。

「聖教新聞」の公式ウェブサイト「聖教電子版」は、海外227カ国・地域からアクセスされています。サイトの有料会員は、池田大作先生の著作である小説『人間革命』『新・人間革命』の検索サービスや「創価新報」「未来ジャーナル」「少年少女きぼう新聞」の紙面閲読サービスなどが利用できます。また2024年12月より、「聖教電子版」で「大白蓮華」が読める『大白蓮華セット会員』のプランを開始しました。

聖教新聞社は、単行本、聖教ワイド文庫、絵本なども刊行しており、2025年は9月に「ワールド セイキョウ」の「vol.6」を発刊しました。

これらの書籍は、当社の通販サイト「聖教ブックストア」や最寄りの書店、さらに

Amazon、楽天などの通販サイトや、セブンネットショッピング、ローチケHMVといったコンビニ系の通販サイトでも買い求めることができます。

当社が発行する電子書籍には、20世紀最高峰の歴史学者アーノルド・トインビー博士と池田先生との対談集『21世紀への対話』をはじめ、電子版「大白蓮華」などがあり、Kindleストア、楽天Kobo電子書籍ストア、honto、Book Live!、紀伊國屋書店ウェブストア、Apple Books、Reader Store、COCORO BOOKS等の電子書店で販売されています。

このような新聞・出版事業のほか、全国各地で「聖教文化講演会」を開催しています。また毎年夏には、小学生を対象とした作文コンクール、中学・高校生を対象とした読書感想文コンクールを主催して、平和・文化・教育の発展と、文字・活字文化の向上に努めています。



創価学会 世界聖教会館

創価学会が目指すもの

創価学会は、日蓮大聖人(1222～1282)の仏法を信奉する団体です。

「創価」とは価値創造を意味します。その価値の中心は「生命の尊厳」の確立による「万人の幸福」と「世界平和」の実現であり、それが創価学会の根本的な目標です。

また、仏法の実践を通して各人が人間革命を成就し、真の幸福境涯を確立するとともに、生命の尊厳を説く仏法哲理を基調として、豊かな文化、人間性あふれる教育の創造を推進し、人類社会の向上に貢献することを目的としています。

こうした考えは、池田先生の小説『人間革命』『新・人間革命』の主題として端的に表現されています。

「一人の人間における偉大な人間革命は、やがて一国の宿命の転換をも成し遂げ、さらに全人類の宿命の転換をも可能にする」

1930年に創立し、現在、日本では827万世帯、そして世界192カ国・地域の会員が日蓮大聖人の仏法を実践し、各国の繁栄と世界の平和を願い、活動しています。

釈尊からの系譜

仏教の創始者である釈尊は、生老病死という根源的な苦悩からどうすれば人々を救えるかを模索し、解決の道を探求しました。そして、自身の胸中に具わる、宇宙と生命を貫く根本の法に目覚めました。その覚りを開いてから生涯を終えるまで、釈尊は種々の教えを説いています。

それらは釈尊滅後、弟子たちによってまとめられ、多くの経

典が編纂されました。西暦紀元前後に大乘仏教運動が起こり、新たな経典が編纂される中で「法華経」が成立します。

法華経は、釈尊の智慧と慈悲の精神を昇華させた経典であり、あらゆる人々の生命に仏の境涯が具わり、誰もが開き現すことができるという「万人成仏」の思想を説いています。「成仏」とは、宇宙の根源の法と一体になり、智慧と慈悲にあふれた仏の生命を自分自身に現すことです。

インドでは、竜樹(150～250頃)らが大乘仏教の思想を発展させました。法華経は、中国では鳩摩羅什(344～413、または350～409)らにより漢語に翻訳され、天台大師智顗(538～597)によって最上の経典と位置づけられました。また、日本においても、平安初期の伝教大師最澄(767または766～822)が、法華経を宣揚しました。

そして、鎌倉時代の日蓮大聖人は、民衆の救済、社会の安穏と繁栄のために、法華経の肝要の教えを取り出し、「南無妙法蓮華経」と唱える唱題行を確立し、本尊を顕しました。

日蓮大聖人

日蓮大聖人は鎌倉時代の日蓮大聖人(現在の千葉県南部)に生まれました。12歳から安房の清澄寺に入り、16歳で出家します。鎌倉・京都・奈良などの各地で諸経典を学んだ後、32歳で故郷に帰りました。

日蓮大聖人は、当時の諸宗が用いた教えが、万人成仏を説く法華経を否定し、人々の無明(生命の根本的な迷い)を増幅させていると捉えました。そして、人々が無明を乗り越え、幸福で安穏な社会を建設できる

根本の法こそ「南無妙法蓮華経」であると説きました。これにより迫害を受け、故郷を追われた日蓮大聖人は、鎌倉に移り本格的に布教を開始します。

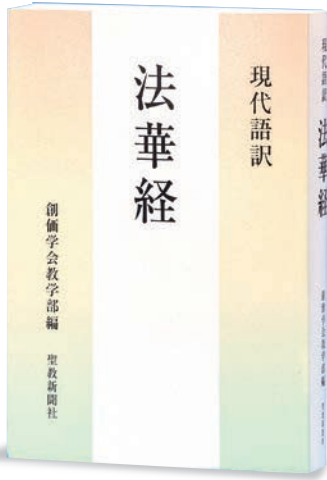
当時は、大地震などの天変地異が相次ぎ、飢饉・疫病などが続発していました。日蓮大聖人は1260年に「立正安国論」を著し、当時の実質的な最高権力者であった北条時頼に提出。同書の中で、正法を否定する状況が続くならば、経文に説かれる「内乱」と「他

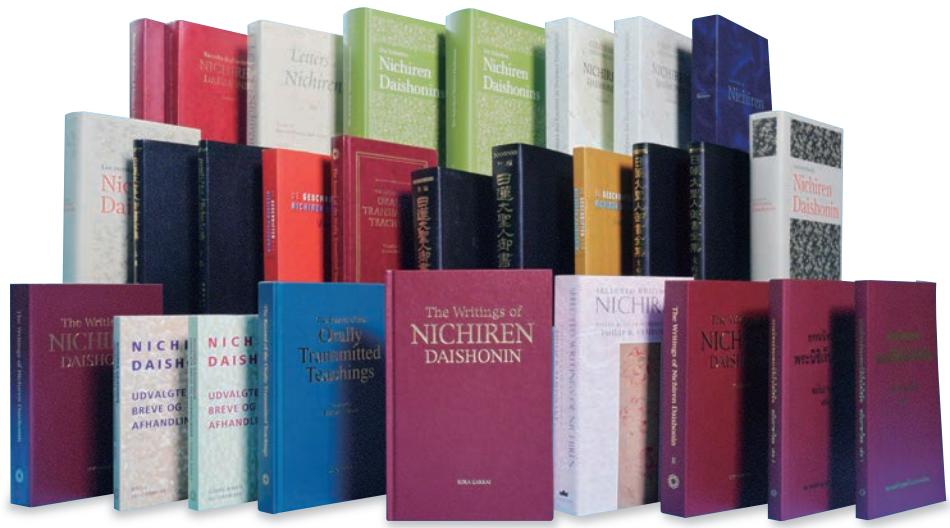
『現代語訳 法華経』を発刊

創価学会教学部編『現代語訳 法華経』が、11月20日に発刊されました。

鳩摩羅什の漢訳『妙法蓮華経』を、2024年刊行の創価学会版『妙法蓮華経並開結新版』に基づいて現代語訳したもの。近年の法華経研究の成果を踏まえつつ、原典のサンスクリット本も参照しています。

平易な表現を用い、句読点や改行、振り仮名を加えたほか、かぎ括弧なども適宜付し、読みやすさに細心の配慮が施されています。





10言語以上で翻訳・出版されている日蓮大聖人の「御書」

国からの侵略」が起こると予言し、警告しました。

しかし、その諫言は聞き入れられず、かえって権力者や仏教界の反発を招きました。度重なる襲撃や伊豆への流罪に加え、1271年には、斬首の企て（竜の口の法難）や佐渡への流罪と、生命の危険にも及ぶ政治的弾圧が続きました。

法華経は、釈尊滅後の悪世における「法華経の行者」には、釈尊が遭遇した以上の法難が加えられると説きます。この法華経の予言を身をもって示した日蓮大聖人は、自身が法華経の教説を体現し、弘める、真実の「法華経の行者」であると宣言します。

「立正安国論」で示した警告は、1272年に北条家の内乱（二月騒動）としての中。さらに他国からの侵略も、後に、2度の蒙古襲来（1274年、1281年）として現実のものとなりました。

1274年、佐渡から鎌倉へ帰還した日蓮大聖人は、権力者を重ねて強く諫めました。しかし鎌倉幕府は用いず、日蓮大聖人は身延山（山梨県）に入り、弟子の育成に努めます。

1279年、富士の熱原（現在の静岡県）で起きた弾圧に対し、農民門下たちは殉教を恐れず信仰を貫きました（熱原の法難）。無名の庶民が命がけで大難に立ち向かったことは、日蓮大聖人の生涯の目的（出世の本懐）である民衆仏法の確立が成し遂げられたことを示す画期的な出来事でした。

1282年、日蓮大聖人は、療養のため身延を出発し、武蔵国池上（現在の東京都大田区）にある門下の屋敷に滞在。そこで生涯を閉じました。

度重なる弾圧という最悪の状況下において、日蓮大聖人は揺るぎない金剛不壊の生命境涯を顕現しました。そして、法滅の時代とされた末法において、誰もが自身の生命本来の偉大さを体現できる方途を確立し、万人成仏の道を開いたのです。ゆえに創価学会では、日蓮大聖人を「末法の御本仏」として尊崇しています。

日蓮大聖人が逝去した後、弟子の日興上人（1246～1333）がその精神と行動を受け継ぎました。日興上人は、為政者への諫言を続けるとともに、日蓮大聖人が著したすべての著述を「御書」と呼んで尊重し、研鑽を奨励。多くの優れた弟子を輩出しました。

南無妙法蓮華経

「南無妙法蓮華経」とは、日蓮大聖人が覚知し、自身に体現した、宇宙と生命を貫く根本の法です。そして、本来、万人の生命に具わる普遍の法でもあります。

日蓮仏法の実践は、この「南無妙法蓮華経」の題目を御本尊に唱え、祈ることが根本です。これにより、誰もも自身の内なる仏の生命を開き現し、生老病死の苦悩を乗り越える力強い生命力を引き出すことができます。

「南無妙法蓮華経」の「南無」とは、古代インドの言葉・サンスクリット（梵語）の「ナマス」（namas）あるいは「ナモー」（namo）の音写で、「皈依」「帰命」を意味し、「妙法蓮華経」を自身の根本として生き、自らに体現していくことを示します。

「妙法蓮華経」とは法華経の正式名称ですが、経典の題名の意味にとどまらず、法華経の肝要ともいうべき法の名でもあります。

「妙法」とは、この根本の法が理解し難い不可思議な法であることを意味しています。そして、その妙法の特質を、植物の蓮華（ハス）に譬えています。一つの側面として、蓮華は泥沼の中から清らかな花を咲かせ、つぼみの段階から花と実が同時に生長します。すべての人が苦悩渦巻く現実の中で、その場において揺るぎない幸福境涯（仏の生

命）を確立できることを蓮華になぞらえています。

このように、「南無妙法蓮華経」には、“宇宙と生命を貫く法を根本として生き、自身の生活・人生の上に仏の生命を発現させていく”という意義が込められています。

御本尊

「本尊」とは「根本として尊敬するもの」を意味し、信仰の根本対象です。創価学会では、日蓮大聖人が顕した「南無妙法蓮華経」の文字曼荼羅を本尊としています。「曼荼羅」とは、サンスクリット「マンダラ」（maṇḍala）の音写で、仏が覚った場（道場）、法を説く集いを表現したものです。

日蓮大聖人の御本尊は、法華経に説かれる「虚空会の儀式」の姿を用いて顕されています。虚空会の儀式とは、巨大な塔（宝塔）が大地から出現し、全宇宙から諸仏が集まって、虚空（空中）で釈尊の説法が行われる儀式で、生命の永遠性、尊厳性が示されています。

御本尊の中央には「南無妙法蓮華経 日蓮」と大書され、その周囲に仏や菩薩、種々の境涯を示す衆生が配されています。このことは、すべての衆生が仏の智慧と慈悲の光に照らされて、生命本来のありのままの尊い姿になるとの意義を表しています。また、仏や菩薩をはじめ、あらゆる衆生が集い、末法の人々の平和と幸福を願うという法華経の世界観を表現しています。

この御本尊を信じ、「南無妙法蓮華経」の題目を唱えることによって、仏の生命を我が身に開き、いかなる苦悩も乗り越えていくことができます。また、一人一人があらゆるままの姿で自分らしく輝いていくことが可能となります。

法華経の虚空会の儀式には、釈尊滅後の争いと苦悩の社会において、万人の幸福を実現し、平和な社会を築く誓いを立てた「地涌の菩薩」が登場します。その地涌の菩薩も御本尊の上座に配されています。

御本尊に祈ることは、自分自身の生命から地涌の菩薩の使命を呼び覚ます意義も含まれています。この地涌の菩薩の誓いに生きることが、日蓮仏法の実践の根幹となっています。

御書

創価学会では、日蓮大聖人の著作や書状を「御書」と尊称し、信仰のあり方や姿勢が説かれた根本の聖典として学んでいます。

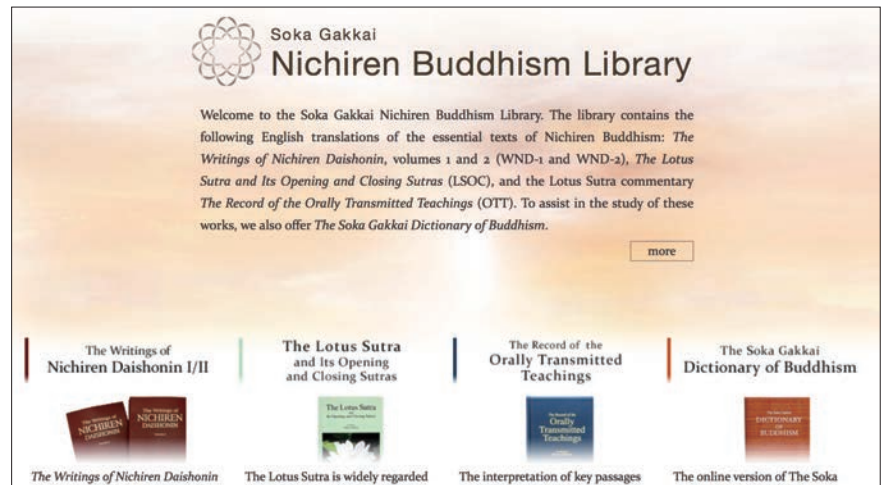
日蓮大聖人は人々を教導するため、生涯にわたって数多くの著作や書状を残しました。今日、「立正安国論」「開目抄」「観心本尊抄」等の法門書や弟子たちへの消息文（手紙）など四百数十編が伝えられています。

日蓮大聖人の在世当時、仏教の論書は漢文体が通例でした。しかし、日蓮大聖人は多くの場合、庶民に分かりやすい仮名交じり文を、時には読み仮名も添えて記しています。弟子からの供養や手紙に対しても、すぐに返事の筆を執り、譬喩や故事を織り交ぜながら、法門の内容を分かりやすく示しました。

創価学会では、戸田先生の発願により、1952年に、『日蓮大聖人御書全集』を刊行。漢文体で残されたものを書き下しにするなど、より広く現代に普及することを目指しました。2021年には、日蓮大聖人聖誕800年を慶祝し、『日蓮大聖人御書全集 新版』が発刊されました。

現在、御書は、外国語でも、英語、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語など10以上の言語で翻訳・出版されています。

「創価学会日蓮仏法ライブラリー」(www.nichirenlibrary.org/)では、英訳の御書・法華経・仏教辞典などを閲覧することができます。2016年からは、スペイン語、フランス語の御書も同サイトで公開されています。



「創価学会 日蓮仏法ライブラリー」のウェブサイト (www.nichirenlibrary.org/)

人間革命

「人間革命」とは、自分自身の生命や境涯をよりよく変革し、人間として成長・向上していくことをいいます。戸田先生が理念として示し、池田先生が信仰の指標として展開しました。

「人間革命」とは、現在の自分自身とかけ離れた特別な存在になることでもなければ、画一的な人格を目指すことでもありません。

万人の生命に等しく内在する、智慧と慈悲と勇氣に満ちた仏の生命を最大に発揮することで、あらゆる困難や苦悩を乗り越えていく生き方です。

日蓮大聖人は、「冬は必ず春となる」「大悪お(起) れば大善き(来) たる」などと、人生において直面する困難を前向きに捉え、前進のバネとしていく変革の生き方を説いています。

この哲学を根本に、会員は人間革命の実践に日々取り組んでいます。

自他共の幸福

日蓮大聖人は、「人のために灯をともしてあげれば、自分の前も明るくなる」（趣意）と述べ、他者のために行動することが、自身の幸福や成長をもたらすことを説いています。

また池田先生も常に、「“自分だけの幸福”もなければ、“他人だけの不幸”もない」と、自他共の幸福を根本とする生き方を呼びかけました。

こうした思想のもとに会員は、積極的に他者に関わる生き方を通して、自他共の幸福の実現を目指しています。

世界平和

◎広宣流布

「広宣流布」とは、仏法が説く生命尊厳の思想を根本に、人類の幸福と社会の繁栄、世界平和の実現を目指す運動のことです。

会員は、自らの信仰体験や仏法思想を友人や知人に語り、日蓮仏法を基調とした人間主義の運動への理解と共感を広げる対話に取り組んでいます。また、よき市民として、それぞれが属する地域や共同体への貢献を大切に

います。

創価学会は、平和・文化・教育の分野でも様々な活動を展開し、現代社会が抱える地球的な諸課題に取り組んでいます。

核兵器の脅威を伝える展示や人権教育などの活動を通して、平和の大切さや生命の尊厳、人権の尊重を訴えるとともに、環境保護に関する展示などを通し、地球環境の保全への意識啓発も推進しています。こうした運動は世界各国に広がっています。

2013年11月、創価学会の信仰の中心道場として、東京・新宿区信濃町に「広宣流布大誓堂」が完成。大礼拝室には、「広宣流布の御本尊」を安置し、全世界の会員が集い、広宣流布と世界平和を誓い祈念する「広宣流布誓願勤行会」が行われています。

◎立正安国

「立正安国」とは、「正を立て、国を安んず」と読みます。「立正」とは、一人一人が自身に内在する根本的な善性（仏の生命）に目覚め、人間尊敬・生命尊厳の哲理を確立すること。「安国」とは、誰もが安心して暮らせる安穩で平和な国土を建設することです。

いわば、「立正」は「安国」の根本条件であり、「安国」は「立正」の根本目的です。

日蓮大聖人が1260年に鎌倉幕府に提出した「立正安国論」の直接的な執筆の動機は、1257年の「正嘉の大地震」やその前後に相次いだ自然災害・飢饉・疫病により、極限的な状況に置かれた人々の姿を目の当たりにしたことでした。

日蓮大聖人の眼差しはあくまで民衆一人一人の幸福に向けられていました。

「立正安国論」の中で用いられた「国」の文字の大半に「口（くにがまえ）」に「民」と書く「國」をあてていますが、それを端的に表しています。

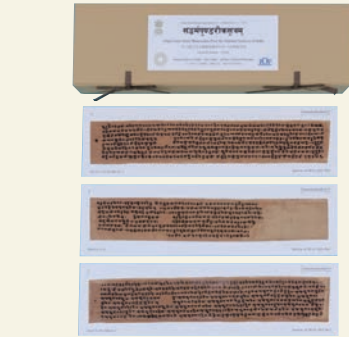
「立正安国論」には、「自分の幸福を願うならば、まず周囲の平和を祈るべきである」（趣意）とあります。平和を願い「立正」に目覚めた民衆の連帯が、誰もが幸福に生きる真の「安国」を築いていくのです。

「法華経写本」と創価学会

創価学会では、1994年1月、「法華経写本シリーズ」出版委員会を発足し、公益財団法人東洋哲学研究所にサンスクリット（梵語）などの法華経写本の研究・編集の実務を委託しました。同研究所が法華経写本を所蔵する世界の研究機関や研究者の協力を得て研究・編集した成果を、創価学会「法華経写本シリーズ」として刊行しています。

これは、各国に保存されている貴重な法華経写本をカラー写真で撮影した「写真版」、写本の“読み”をローマ字表記した「ローマ字版」、そして写本の異読等を注記した「校訂本」を公刊する事業で、1994年からシリーズ18全20点（非売品、下記に一覧を掲載）を刊行してきました。

法華経をはじめ、仏教学研究においては、「写本」を正確に読むことが基礎となります。また、これら写本の比較・対照は、法華経の成立と伝播



インド国立公文書館所蔵ギルギット法華経写本——写真版



ギルギット・ネパール系梵文法華経写本校訂本（C3校訂本）

の系譜、法華経の教理・真意等を解明するために重要な研究になります。

しかし、貴重な法華経写本は、各国・各研究機関で大切に保管されており、直接目にすることは難しい。さらに、写本は種々の文字で記され、文法も多様で解読には高度な専門的知識が必要となります。そこで、仏教研究の進展のために、実物と同じ学術的価値を持つ写真版と、ローマ字版及び校訂本を出版してきました。「法華経写本シリーズ」の刊行

は、今後の梵文法華経写本研究の基礎資料を提供したといえます。

この「法華経写本シリーズ」の刊行と併せて、世界各地で法華経を紹介する展示活動も推進しています。

その一環として実施する「法華経——平和と共生のメッセージ」展（主催：東洋哲学研究所、創価学会・各国SGI等）を、これまで国内4都市をはじめ、アジア、欧州、南米の世界17カ国・地域で開催。累計の鑑賞者数は100万人を超えています。

「法華経写本シリーズ」	
シリーズ 1	旅順博物館所蔵梵文法華経断簡——写真版及びローマ字版
シリーズ 2- 1	ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No. 4-21）——写真版
シリーズ 2- 2	ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No. 4-21）——ローマ字版1
シリーズ 2- 3	ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No. 4-21）——ローマ字版2
シリーズ 3	カーダリク出土梵文法華経写本断簡
シリーズ 4	ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華経写本（Add. 1682およびAdd. 1683）——写真版
シリーズ 5	東京大学総合図書館所蔵梵文法華経写本（No. 414）——ローマ字版
シリーズ 6	ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文「妙法蓮華経」——写真版（鳩摩羅什訳対照）
シリーズ 7	英国・アイルランド王立アジア協会所蔵梵文法華経写本（No. 6）——ローマ字版
シリーズ 8	パリ・アジア協会所蔵梵文法華経写本（No. 2）——ローマ字版
シリーズ 9	大英図書館所蔵梵文法華経写本（Or. 2204）——写真版
シリーズ 10	ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華経写本（Add. 1684）——ローマ字版
シリーズ 11	大英図書館所蔵梵文法華経写本（Or. 2204）——ローマ字版
シリーズ 12	インド国立公文書館所蔵ギルギット法華経写本——写真版
シリーズ 13	ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所蔵梵文法華経写本（SI P/5他）——写真版
シリーズ 14	コルカタ・アジア協会所蔵梵文法華経写本（No.4079）——ローマ字版
シリーズ 15	ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No.5-144）——ローマ字版
シリーズ 16	プリンストン大学図書館所蔵西夏文妙法蓮華経——写真版及びテキストの研究
シリーズ 17	ギルギット・ネパール系梵文法華経写本校訂本（C3校訂本）
シリーズ 18	梵文法華経写本（C4）校訂本——ネパール・ギルギット・中央アジア系写本異読対照

勤行・唱題

「勤行・唱題」は、日蓮大聖人の仏法の修行の基本であり、会員は朝夕、御本尊に向かって法華経の方便品と寿量品の自我偈を読誦し、「南無妙法蓮華経」の題目を唱えます。これは、自身に具わる仏の生命を開いていくための実践であり、その目的は、苦難や困難に打ち勝つ強い自己を築くことにあります。

会員一人一人が、自身の人間的成長や家族の幸福だけでなく、代々の先祖や亡くなった会員・友人の追善供養、世界の平和と全人類の幸福を祈念し、勤行・唱題に励んでいます。

教学研鑽

日蓮大聖人は、信徒が信仰への確信を深めていけるよう、実践とともに仏法の法理を学ぶこと(教学)を勧めています。ゆえに、創価学会では、御書の研鑽運動に力を入れており、月例の座談会などで学び合っています。

研鑽推進のために、聖教新聞(日刊)に教学の企画ページを設けるとともに、理論誌として「大白蓮華」(月刊)を発行。また、書籍『教学入門 ―世界宗教の仏法を学ぶ』をはじめ、会員の要望に応じた教材等を出版しています。

さらに、研鑽の成果を発揮する機会として、定期的に各段階の教学試験を実施。とりわけ、教学部員の資格を得る入門の試験として「教学部任用試験(仏法入門)」を開催しています。

教学研鑽のための教材は外国語にも翻訳され、世界に教学運動が広がっています。



本部幹部会・SGI総会(11月、東京戸田記念講堂)

コロナ禍にあっても、世界の至る所でオンラインによる教学研修会などが活発に行われました。

励まし・対話

創価学会は創立以来、一人一人への「励まし」を信仰活動の柱として重視してきました。

訪問・激励や少人数での対話の場を通し、積極的に一人一人に関わるとともに、皆が互いに胸襟を開いて語り合い、励ましを送ることを日常的な活動の基軸としています。

座談会・会合

座談会は、老若男女が集って互いの信仰体験を語り合う対話の場であり、教学を研鑽する触発の場です。地区またはブロック単位で、毎月開催しています。

座談会は、牧口先生、戸田先生、池田先生の三代会長が最も大切にしてきた伝統行事です。牧口先生は思想統制を強める軍部政府からの圧力を受ける中で、1941年5月から1943年6月の間に240回以上の座談会に出席しています。

また、座談会以外にも、信仰触発の場として少人数の集いを重視しており、支部や地区の総会、女性部の小グループの会合などを各地で開催しています。

折伏・弘教

日蓮大聖人は、「(仏法を)自分でも実践し、他人にも教えていきなさい(中略)力があるならば一文一句であっても



毎月、全国各地で行われる伝統行事の「座談会」

トーゴの首都ロメで開かれた「座談会」

人に語っていきなさい」(趣意)と、自行^{じぎょう}化他にわたる仏道修行を勧めています。「自行」とは勤行・唱題であり、「化他」とは折伏・弘教です。

「折伏・弘教」とは、仏法の人間主義に基づき、自他共の幸福を目指して、自身の信仰体験や仏法の哲理を友人や知人に語っていくことです。相手が納得し、希望した場合には、必要な手続きを経て入会に至ります。

信仰者としての自身の振る舞い、生き方を通して、地域や職場で友情と信頼の輪を広げ、学会の理念や活動への理解を広げていくことも折伏・弘教にあたります。

入会

創価学会に入会を希望する場合は、会員から紹介を受けます。さらに、勤行・唱題の実践、座談会等への出席や聖教新聞の購読などを通して信仰を深め、全国の会館で行われる入会記念勤行会で御本尊が授与され、正式な入会となります。

同居家族がある場合はその了解が必要であり、また、未成年の場合は親権者の承諾が必要となります。

配信行事

「本部幹部会」などの会合をはじめ、「教学講座」「御書講義」などの教学研修、信仰体験を発表する大会な



どが、ブロードバンド回線を使って全国の各会館や個人会場に配信されています。

2013年からは映像配信サービス「SOKAチャンネル VOD(ビデオ・オン・デマンド)」がスタート。全国の各会館で池田先生のスピーチや創価学会の歴史、平和・文化・教育運動などを紹介する番組を視聴できるようになりました。

2015年5月には、VODを視聴するためのセットトップボックス(STB)が全国の地区に配布され、自宅のテレビに接続して簡単に視聴できる体制が整っています。

地域友好

会員一人一人が地域社会の発展を願い、地域行事に積極的に参加したり、町内会・自治会、商店会、老人会、PTAの役員を務めたりするなど、様々な活動に取り組

んでいます。また、民生委員、保護司、消防団、地域の清掃や防犯パトロールなどの活動を行っている会員も多くいます。

各地の会館は、町内会や自治会の打ち合わせ、祭りなどの地域行事の会場として使用される場合もあります。また、大規模災害に備えて非常用の食料や簡易トイレなどの備蓄品を常備し、定期的に消防訓練・災害対応訓練を行っています。自治体と防災協定を結び、一時避難所として開放する準備を整えている会館もあります。

未来部の育成

創価学会では、未来を担う子どもたちを「未来部」と総称し、社会に有為な人材を育むための活動に取り組んでいます。小学生は少年少女部、中学生は中等部、高校生は高等部に所属します。

未来部員がいる家庭では、「家族で勤行・唱題を行う」「家族で会合に参加する」「家族で信仰体験を語り合う」などの実践に取り組み、信仰の継承を図っています。各地では「未来部長」「未来本部長」などの担当者が、未来部員への激励に当たっています。

また、教育現場に従事する教育本部の会員が未来部員の育成を支援しています。

毎月の「未来部の日」には、各地で部員会等を開催。また、「未来部希望月間」（春）、「未来部躍進月間」（夏）、「未来部勝利月間」（冬）などを設け、未来部員の成長をサポートしています。期間中には、未来部員が家族と一緒に参加する「創価ファミリー勤行会」「創価ファミリー大会」などが行われます。

夏の月間では、小学生向けの「きぼう作文コンクール」「少年少女希望絵画コンクール」、中学・高校生向けの「読書感想文コンクール」、また、小・中・高校生向けの「イングリッシュチャレンジ」（英語スピーチコンテスト）など、各種コンクールを「未来部サマーチャレンジ」として開催しています。

未来部向けの機関紙（月刊）として「少年少女きぼう新聞」（小学生向け）、「未来ジャーナル」（中学・高校生向け）を発行しています。

友人葬・法要

創価学会では、遺族の希望に応じて、遺族や同志が集って故人の冥福を祈る「友人葬」を行っています。友人葬では、認定を受けた各地域の儀典長が導師を務め、追善の勤行・唱題を行います。

各地の会館や墓地公園等では、月例の追善勤行法要、春・秋の「彼岸勤行法要」、盆の「諸精霊追善勤行法要」などを開催し、功労者や先祖、友人など物故者の追善供養をしています（※64ページ参照）。

また、世界のすべての戦争犠牲者を追悼する「戦没者追善勤行法要」、広島・長崎での「原爆犠牲者追善法要」、阪神・淡路大震災や東日本大震災で犠牲になった方々への追善勤行法要も行っています。

◎年間主要行事

全国の会館を中心に行われる主な行事は以下の通りです。（状況によって開催方法を変更する場合あり）

1月 1日	－新年勤行会（～2日）
祝日	－成人の日記念二十歳の集い
26日	－「SGI（創価学会インタナショナル）の日」記念行事
2月16日	－「日蓮大聖人御聖誕の日」勤行法要
3月	
春分の日	－春季彼岸勤行法要
4月 2日	－戸田先生（祥月命日）追善勤行法要
28日	－「立宗の日」勤行法要
5月 3日	－「創価学会の日」記念行事
7月15日	－諸精霊追善勤行法要（地域によっては8月15日）
8月15日	－世界平和祈念 戦没者追善勤行法要
秋分の日	－秋季彼岸勤行法要
10月13日	－「日蓮大聖人御入滅の日」勤行法要
11月15日	－池田先生（祥月命日）追善勤行法要
－「七五三」記念勤行会	
18日	－牧口先生（祥月命日）追善勤行法要
－創価学会創立記念行事	

池田先生の足跡

主 な 平 和 提 言			
提言日	題記	提言日	題記
1975年11月 第38回本部総会	「核兵器の製造、実験、貯蔵、使用の禁止など3項目を提言」	2003年 1月 第28回「SGIの日」記念提言	「時代精神の波 世界精神の光」
1978年 5月 初の国連軍縮特別総会	「全世界首脳会議」開催など10項目を提唱	2004年 1月 第29回「SGIの日」記念提言	「内なる精神革命の万波を」
1982年 6月 第2回国連軍縮特別総会	「軍縮及び核兵器廃絶への提言」	2005年 1月 第30回「SGIの日」記念提言	「世紀の空へ 人間主義の旗」
1983年 1月 第8回「SGIの日」記念提言	「平和と軍縮への新たな提言」	2006年 1月 第31回「SGIの日」記念提言	「新民衆の時代へ 平和の大道」
1984年 1月 第9回「SGIの日」記念提言	「『世界不戦』への広大なる流れを」	2006年 8月 国連提言	「世界が期待する国連たれ―地球平和の基軸・国連の大使命に活力を」
1985年 1月 SGI発足10周年記念提言	「世界へ世紀へ平和の波を」	2007年 1月 第32回「SGIの日」記念提言	「生命の変革 地球平和への道標」
1986年 1月 第11回「SGIの日」記念提言	「恒久平和へ対話の大道を」	2008年 1月 第33回「SGIの日」記念提言	「平和の天地 人間の凱歌」
1987年 1月 第12回「SGIの日」記念提言	「『民衆の世紀』へ平和の光彩」	2009年 1月 第34回「SGIの日」記念提言	「人道的競争へ 新たな潮流」
1988年 1月 第13回「SGIの日」記念提言	「平和の鼓動 文化の虹」	2009年 9月 戸田第2代会長 生誕110周年記念提言	「核兵器廃絶へ 民衆の大連帯を」
1988年 6月 第3回国連軍縮特別総会に提言	「全面軍縮へ世界的潮流を」	2010年 1月 第35回「SGIの日」記念提言	「新たな価値創造の時代へ」
1989年 1月 第14回「SGIの日」記念提言	「新たなグローバリズムの曙」	2011年 1月 第36回「SGIの日」記念提言	「轟け！ 創造的生命の凱歌」
1990年 1月 第15回「SGIの日」記念提言	「希望の世紀へ『民主』の凱歌」	2012年 1月 第37回「SGIの日」記念提言	「生命尊厳の絆輝く世紀を」
1991年 1月 第16回「SGIの日」記念提言	「大いなる人間世紀の夜明け」	2013年 1月 第38回「SGIの日」記念提言	「2030年へ 平和と共生の大潮流」
1992年 1月 第17回「SGIの日」記念提言	「希望と共生のルネサンスを」	2014年 1月 第39回「SGIの日」記念提言	「地球革命へ価値創造の万波を」
1993年 1月 第18回「SGIの日」記念提言	「新世紀へヒューマニティーの旗」	2015年 1月 第40回「SGIの日」記念提言	「人道の世紀へ 誓いの連帯」
1994年 1月 第19回「SGIの日」記念提言	「人類史の朝 世界精神の道光」	2016年 1月 第41回「SGIの日」記念提言	「万人の尊厳 平和への大道」
1995年 1月 第20回「SGIの日」記念提言	「不戦の世紀へ人間共和の潮流」	2017年 1月 第42回「SGIの日」記念提言	「希望の暁鐘 青年の大連帯」
1996年 1月 第21回「SGIの日」記念提言	「『第三の千年』へ世界市民の挑戦」	2018年 1月 第43回「SGIの日」記念提言	「人権の世紀へ 民衆の大河」
1997年 1月 第22回「SGIの日」記念提言	「『地球文明』への新たな地平」	2019年 1月 第44回「SGIの日」記念提言	「平和と軍縮の新しき世紀を」
1998年 1月 第23回「SGIの日」記念提言	「万年の遠征―カオスからコスモスへ」	2020年 1月 第45回「SGIの日」記念提言	「人類共生の時代へ 建設の鼓動」
1999年 1月 第24回「SGIの日」記念提言	「平和の凱歌―コスモロジーの再興」	2021年 1月 第46回「SGIの日」記念提言	「危機の時代に価値創造の光を」
2000年 1月 第25回「SGIの日」記念提言	「平和の文化 対話の大輪」	2022年 1月 第47回「SGIの日」記念提言	「人類史の転換へ 平和と尊厳の道光」
2001年 1月 第26回「SGIの日」記念提言	「生命の世紀へ 大いなる潮流」	2023年 1月 ウクライナ危機と核問題に関する緊急提言	「平和の回復へ歴史想像力の結集を」
2002年 1月 第27回「SGIの日」記念提言	「人間主義―地球文明の夜明け」	2023年 4月 G7広島サミットへの提言	「危機を打開する‘希望への処方箋’を」

主 な 対 談 集				
No.	発行年	対談者名	著作名	出版社名
1	1972年	リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー	文明・西と東	サンケイ新聞社
2	1975年	アーノルド・J・トインビー	二十一世紀への対話	文藝春秋
3	1975年	松下幸之助	人生問答	潮出版社
4	1976年	アンドレ・マルロー	人間革命と人間の条件	潮出版社
5	1977年	井上靖	四季の雁書	潮出版社
6	1981年	ルネ・ユイグ	闇は暁を求めて	講談社
7	1984年	アウレリオ・ペッチェイ	二十一世紀への警鐘	読売新聞社
8	1985年	ブライアン・ウィルソン	社会と宗教	講談社
9	1987年	アナトーリ・A・ログノフ	第三の虹の橋	毎日新聞社
10	1987年	ヘンリー・A・キッシンジャー	「平和」と「人生」と「哲学」を語る	潮出版社
11	1988年	カラン・シン	内なる世界	東洋哲学研究所
12	1989年	ヨーゼフ・デルボラフ	二十一世紀への人間と哲学	河出書房新社
13	1990年	ライナス・ポーリング	「生命の世紀」への探求	読売新聞社
14	1990年	常書鴻	敦煌の光彩	徳間書店
15	1991年	ノーマン・カズンズ	世界市民の対話	毎日新聞社
16	1991年	チンギス・アイトマトフ	大いなる魂の詩	読売新聞社
17	1992年	チャンドラ・ウィックラマシンゲ	「宇宙」と「人間」のロマンを語る	毎日新聞社
18	1994年	アナトーリ・A・ログノフ	科学と宗教	潮出版社
19	1995年	アウストレジェジロ・デ・アタイデ	二十一世紀の人権を語る	潮出版社
20	1995年	ヨハン・ガルトウング	平和への選択	毎日新聞社
21	1996年	ミハイル・S・ゴルバチョフ	二十世紀の精神の教訓	潮出版社
22	1997年	パトリシオ・エイルウィン・アソカル	太平洋の旭日	河出書房新社
23	1998年	金庸	旭日の世紀を求めて	潮出版社
24	1998年	アリベルト・アナトーリエヴィッチ・リハーノフ	子どもの世界	第三文明社
25	1999年	アクシニア・ドブレヴァ・ジュロヴァ	美しき獅子の魂	東洋哲学研究所
26	2000年	ルネ・シマーノギー・ブルジョ	健康と人生	潮出版社
27	2000年	マジッド・テヘラニアン	二十一世紀への選択	潮出版社
28	2001年	デイビッド・クリーガー	希望の選択	河出書房新社
29	2001年	シンティオ・ヴィティエール	カリブの太陽 正義の詩	潮出版社
30	2002年	ヴィクトル・A・サドーヴニチ	新しき人類を 新しき世界を	潮出版社
31	2002年	季羨林 / 蔣忠新	東洋の智慧を語る	東洋哲学研究所
32	2002年	ロケッシュ・チャンドラ	東洋の哲学を語る	第三文明社
33	2002年	趙文富	希望の世紀へ 宝の架け橋	徳間書店
34	2003年	ヘイゼル・ヘンダーソン	地球対談 輝く女性の世紀へ	主婦の友社
35	2004年	ヴィクトル・A・サドーヴニチ	学は光	潮出版社
36	2004年	アレクサンドル・セレブロフ	宇宙と地球と人間	潮出版社
37	2005年	趙文富	人間と文化の虹の架け橋	徳間書店
38	2005年	ベッド・P・ナンダ	インドの精神	東洋哲学研究所
39	2005年	リカルド・ディエス＝ホフライトネル	見つめあう西と東	第三文明社
40	2006年	エリース・ボールディング	「平和の文化」の輝く世紀へ!	潮出版社
41	2006年	モンコンブ・S・スワミナサン	「緑の革命」と「心の革命」	潮出版社
42	2006年	ジョセフ・ロートブラット	地球平和への探求	潮出版社
43	2006年	ロナルド・ボスコ / ジョエル・マイアソン	美しき生命 地球と生きる	毎日新聞社
44	2007年	ドウ・ウェイミン	対話の文明	第三文明社
45	2007年	フェリックス・ウンガー	人間主義の旗を	東洋哲学研究所
46	2007年	ヌール・ヤーマン	今日の世界 明日の文明	河出書房新社
47	2007年	ドジョーギーン・ツェデブ	友情の大草原	潮出版社
48	2008年	ハービー・コックス	二十一世紀の平和と宗教を語る	潮出版社
49	2009年	ニラカンタ・ラダクリシュナン	人道の世紀へ	第三文明社
50	2009年	饒宗頤 / 孫立川	文化と芸術の旅路	潮出版社
51	2009年	ロナウド・モウラン	天文学と仏法を語る	第三文明社
52	2009年	アドルフオ・ペレス＝エスキベル	人権の世紀へのメッセージ	東洋哲学研究所
53	2009年	ハンス・ヘニングセン	明日をつくる“教育の聖業”	潮出版社
54	2010年	張鏡湖	教育と文化の王道	第三文明社
55	2010年	アブドゥルラフマン・ワヒド	平和の哲学 寛容の智慧	潮出版社
56	2010年	章開沅	人間勝利の春秋	第三文明社
57	2011年	ルー・マリノフ	哲学ルネサンスの対話	潮出版社
58	2011年	ミハイル・ズグロフスキー	平和の朝へ 教育の大光	第三文明社
59	2011年	シャルル・ナポレオン	21世紀のナポレオン	第三文明社
60	2011年	アンワルル・K・チョウドリ	新しき地球社会の創造へ	潮出版社
61	2012年	高占祥	地球を結ぶ文化力	潮出版社
62	2012年	顧明遠	平和の架け橋	東洋哲学研究所
63	2013年	ビンセント・ハーディング	希望の教育 平和の行進	第三文明社
64	2013年	ウェイン・ショーター / ハービー・ハンコック	ジャズと仏法、そして人生を語る	毎日新聞社
65	2013年	ヴィクトル・A・サドーヴニチ	明日の世界 教育の使命	潮出版社
66	2013年	サーラ・ワイダー	母への讃歌	潮出版社
67	2014年	ジム・ガリソン / ラリー・ヒックマン	人間教育への新しき潮流	第三文明社
68	2014年	スチュアート・リース	平和の哲学と詩心を語る	第三文明社
69	2014年	エルンスト・フォン・ヴァイツェッカー	地球革命への挑戦	潮出版社
70	2015年	ユッタ・ウンカルト＝サイフェルト	生命の光 母の歌	聖教新聞社
71	2015年	ホセ・V・アブエバ	マリンロードの曙	第三文明社
72	2015年	劉遵義	新たなグローバル社会の指標	第三文明社
73	2016年	バラティ・ムカジー	新たな地球文明の詩を	第三文明社
74	2016年	ケビン・クレメンツ	平和の世紀へ 民衆の挑戦	潮出版社
75	2017年	王蒙	未来に贈る人生哲学	潮出版社
76	2025年	アクシニア・ドブレヴァ・ジュロヴァ	大いなる人間復興への目覚め	東洋哲学研究所

海 外 学 術 講 演				
No.	年月日	招聘元・場所	題記	
1	1974年 4月 1日	カリフォルニア大学ロサンゼルス校(アメリカ)	21世紀への提言	
2	1975年 5月27日	モスクワ大学(ソ連)	東西文化交流の新しい道	
3	1980年 4月22日	北京大学(中国)	新たな民衆像を求めて	
4	1981年 3月 5日	グアダラハラ大学(メキシコ)	メキシコの詩心に思うこと	
5	1981年 5月21日	ソフィア大学(ブルガリア)	東西融合の緑野を求めて	
6	1983年 6月 7日	ブカレスト大学(ルーマニア)	文明の十字路に立って	
7	1984年 6月 5日	北京大学(中国)	平和への王道——私の一考察	
8	1984年 6月 9日	復旦大学(中国)	人間こそ歴史創出の主役	
9	1989年 6月14日	フランス学士院(フランス)	東西における芸術と精神性	
10	1990年 3月 1日	ブエノスアイレス大学(アルゼンチン)	「融合の地」に響く地球主義の鼓動	
11	1990年 5月28日	北京大学(中国)	教育の道 文化の橋——私の一考察	
12	1991年 1月30日	マカオ・東亜大学(マカオ)	新しき人類意識を求めて	
13	1991年 4月21日	フィリピン大学(フィリピン)	平和とビジネス	
14	1991年 9月26日	ハーバード大学(アメリカ)	ソフト・パワーの時代と哲学——新たな日米関係を開くために	
15	1992年 1月30日	香港中文大学(香港)	中国的人間主義の伝統	
16	1992年 2月11日	ガンジー記念館(インド)	不戦世界を目指して——ガンジー主義と現代	
17	1992年 6月24日	アンカラ大学(トルコ)	文明の揺籃から新しきシルクロードを	
18	1992年10月14日	中国社会科学院(中国)	21世紀と東アジア文明	
19	1993年 1月29日	クレアモント・マッケナ大学(アメリカ)	新しき統合原理を求めて	
20	1993年 2月12日	ブラジル文学アカデミー(ブラジル)	人間文明の希望の朝(あした)を	
21	1993年 9月24日	ハーバード大学(アメリカ)	21世紀文明と大乘仏教	
22	1994年 1月31日	深圳大学(中国)	「人間主義」の限りなき地平	
23	1994年 5月17日	モスクワ大学(ロシア)	人間—大いなるコスモス	
24	1994年 6月 1日	ボローニャ大学(イタリア)	レオナルドの眼と人類の議会——国連の未来についての考察	
25	1995年 1月26日	ハワイ・東西センター(アメリカ)	平和と人間のための安全保障	
26	1995年 6月26日	アテネオ文化・学術協会(スペイン)	21世紀文明の夜明けを—ファウストの苦悩を超えて	
27	1995年 11月2日	トリブバン大学(ネパール)	人間主義の最高峰を仰ぎて——現代に生きる釈尊	
28	1996年 6月 4日	サイモン・ウィーゼンタール・センター(アメリカ)	牧口常三郎——人道と正義の生涯	
29	1996年 6月13日	コロンビア大学(アメリカ)	「地球市民」教育への一考察	
30	1996年 6月25日	ハバナ大学(キューバ)	新世紀へ 大いなる精神の架橋を	
31	1997年10月21日	ラジブ・ガンジー現代問題研究所(インド)	「ニュー・ヒューマニズム」の世紀へ	
32	2007年 3月23日	パレルモ大学(イタリア)	文明の十字路から人間文化の興隆を	

国 家 勲 章			
No.	国名	No.	国名
1	アルゼンチン共和国	13	ドミニカ共和国
2	イタリア共和国	14	パナマ共和国
3	エルサルバドル共和国	15	パラグアイ共和国
4	オーストリア共和国	16	ブラジル連邦共和国
5	キューバ共和国	17	フランス共和国
6	コートジボワール共和国	18	ブルガリア共和国
7	コロンビア共和国	19	ベネズエラ・ボリバル共和国
8	サンマリノ共和国	20	ペルー共和国
9	ジブチ共和国	21	ボリビア多民族国
10	タイ王国	22	モンゴル国
11	大韓民国	23	ラオス人民民主共和国
12	チリ共和国	24	ロシア連邦

(日本語表記50音順)

名誉学術称号					名誉学術称号				
No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名	No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名
1	1975年5月	ソ連	モスクワ大学	名誉博士	53	1998年7月	韓国	忠清大学	名誉教授
2	1981年4月	ペルー	国立サンマルコス大学	名誉教授	54	1998年7月	ペルー	リカルド・バルマ大学	名誉博士
3	1981年5月	ブルガリア	ソフィア大学	名誉教育学・社会学博士	55	1998年7月	ペルー	ペルー教育学博士協会	名誉博士
4	1984年6月	中国	北京大学	名誉教授	56	1998年11月	中国	延辺大学	名誉教授
5	1984年6月	中国	復旦大学	名誉教授	57	1998年11月	中国	南開大学	名誉教授
6	1987年2月	ドミニカ共和国	サントドミンゴ自治大学	法律政治学部名誉教授	58	1998年11月	ブラジル	北パラナ大学	名誉博士
7	1990年3月	アルゼンチン	ブエノスアイレス大学	名誉博士	59	1998年12月	インド	デリー大学	名誉文学博士
8	1990年3月	メキシコ	グアナファト大学	名誉教授	60	1999年1月	アルゼンチン	フローレス大学	名誉博士
9	1990年11月	中国	武漢大学	名誉教授	61	1999年4月	中国	四川大学	名誉教授
10	1991年1月	マカオ	マカオ・東亜大学	名誉教授	62	1999年4月	ペルー	国立フェデリコ・ピヤリアル大学	名誉博士
11	1991年4月	フィリピン	フィリピン大学	名誉法学博士	63	1999年5月	韓国	国立清州大学	名誉文学博士
12	1991年5月	アルゼンチン	パレルモ大学	名誉博士	64	1999年6月	ボリビア	サンタクルス・デ・ラ・シエラ大学	名誉博士
13	1992年1月	香港	香港中文大学	最高客員教授	65	1999年7月	中国	東北大学	名誉教授
14	1992年6月	トルコ	アンカラ大学	名誉社会科学学博士	66	1999年8月	キルギス	東洋言語文化大学	名誉教授
15	1992年10月	中国	中国社会科学院	名誉研究教授	67	1999年9月	ペルー	国立ペルー中央大学	名誉博士
16	1992年12月	ケニア	ナイロビ大学	名誉文学博士	68	1999年9月	中国	湖南師範大学	名誉教授
17	1993年2月	ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学	名誉博士	69	1999年10月	アルゼンチン	国立ローマス・デ・サモラ大学社会科学部	名誉教授
18	1993年2月	アルゼンチン	国立ローマス・デ・サモラ大学	名誉博士	70	1999年10月	アルゼンチン	国立コマウエ大学	名誉博士
19	1993年2月	アルゼンチン	国立ローマス・デ・サモラ大学法学部	名誉教授	71	1999年12月	中国	南京大学	名誉教授
20	1993年2月	アルゼンチン	国立コルドバ大学	名誉博士	72	2000年1月	ロシア	サンクトペテルブルク大学	名誉博士
21	1993年2月	パラグアイ	国立アスンシオン大学	名誉博士	73	2000年1月	アメリカ	デラウェア大学	名誉人文学博士
22	1993年2月	ブラジル	サンパウロ大学	名誉客員教授	74	2000年1月	アメリカ	ニューヨーク市立大学クイーンズカレッジ	名誉人文学博士
23	1993年3月	ブラジル	パラナ連邦大学	名誉博士	75	2000年1月	米・グアム	グアム大学	名誉人文学博士
24	1993年3月	ボリビア	バーリエ大学	名誉博士	76	2000年2月	フィリピン	アンヘルス大学	名誉人文学博士
25	1993年11月	中国	深圳大学	名誉教授	77	2000年2月	中国	中央民族大学	名誉教授
26	1994年1月	中国	新疆ウイグル自治区博物館	名誉教授	78	2000年2月	中国	広東外語外貿大学	名誉教授
27	1994年5月	ロシア	国際大学	名誉博士	79	2000年2月	アルゼンチン	国立ノルデステ大学	名誉博士
28	1994年6月	イタリア	ボローニャ大学	名誉博士	80	2000年3月	中国	東北師範大学	名誉博士
29	1994年6月	イギリス	グラスゴー大学	名誉博士	81	2000年3月	ロシア・サハ共和国	ヤクーツク国立大学	名誉教授
30	1994年8月	中国	新疆大学	名誉教授	82	2000年4月	エルサルバドル	ラテン・アメリカ工科大学	名誉博士
31	1994年11月	中国	廈門大学	名誉教授	83	2000年4月	中国	内蒙古芸術学院	最高名誉教授
32	1995年9月	南アフリカ	ノース大学	名誉教育学博士	84	2000年4月	インド	サンスクリット教育学院	名誉博士
33	1995年11月	ネパール	トリブバン大学	名誉文学博士	85	2000年5月	モンゴル	モンゴル文学大学	名誉学長
34	1995年11月	マカオ	マカオ大学	名誉社会科学学博士	86	2000年5月	中国	北京行政学院	名誉教授
35	1996年3月	香港	香港大学	名誉文学博士	87	2000年6月	中国	雲南大学	名誉教授
36	1996年4月	中国	新疆大学	名誉学長	88	2000年8月	中国	華南師範大学	名誉教授
37	1996年6月	アメリカ	デンバー大学	名誉教育学博士	89	2000年8月	インド	ブンデルカンド大学	名誉文学博士
38	1996年6月	キューバ	ハバナ大学	名誉人文学博士	90	2000年9月	ベネズエラ	スリア大学	名誉博士
39	1996年8月	ガーナ	ガーナ大学	名誉法学博士	91	2000年9月	パナマ	パナマ大学	名誉博士
40	1996年11月	ロシア	極東国立総合大学	国際教育名誉博士	92	2000年10月	インド	ブンデルカンド大学社会科学部	終身名誉教授
41	1996年11月	中国	中山大学	名誉教授	93	2000年11月	タイ	サイアム大学	名誉行政学博士
42	1997年2月	中国	吉林大学	名誉教授	94	2000年11月	トンガ	トンガ教育大学・科学技術大学	教育学名誉教授
43	1997年3月	フィリピン	デ・ラ・サール大学	名誉人文学博士(国際教育)	95	2000年11月	オーストラリア	シドニー大学	名誉文学博士
44	1997年5月	スリランカ	ケラニヤ大学	名誉文学博士	96	2000年11月	マレーシア	ブトラ大学	名誉文学博士
45	1997年5月	中国	上海大学	名誉教授	97	2000年12月	中国・香港	香港中文大学	名誉社会科学学博士
46	1997年10月	中国	内蒙古大学	名誉教授	98	2000年12月	モンゴル	モンゴル国立文化芸術大学	名誉博士
47	1997年11月	モンゴル	モンゴル国立大学	名誉人文学博士	99	2001年1月	インド	ブルバンチャル大学	名誉文学博士
48	1998年2月	フィリピン	マニラ市立大学	名誉人文学博士	100	2001年2月	中国	広東省社会科学院	名誉教授
49	1998年3月	アルゼンチン	モロン大学	名誉博士	101	2001年4月	中国	西北大学	名誉教授
50	1998年4月	ロシア	ロシア国立高エネルギー物理研究所	名誉博士	102	2001年4月	中国	安徽大学	名誉教授
51	1998年4月	ブラジル	リオデジャネイロ州立大学	名誉博士	103	2001年5月	米・プエルトリコ	カルロス・アルビズ大学	名誉行動科学博士
52	1998年5月	韓国	慶熙大学	名誉哲学博士	104	2001年5月	モンゴル	カラコルム大学	名誉博士

名誉学術称号					名誉学術称号				
No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名	No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名
105	2001年6月	中国	福建師範大学	名誉教授	157	2004年5月	ボリビア	サンフランシスコ・ビルデ・チチカカ大学	名誉博士
106	2001年6月	中国	華僑大学	名誉教授	158	2004年5月	中国	石油大学(華東)	名誉教授
107	2001年7月	中国	暨南大学	名誉教授	159	2004年6月	フィリピン	キャピトル大学	名誉人文学博士
108	2001年7月	米・北マリアナ諸島	北マリアナ大学	名誉教授	160	2004年6月	中国	上海杉達学院	名誉教授
109	2001年10月	中国	蘇州大学	名誉教授	161	2004年7月	ヨルダン	ヨルダン大学	名誉人文学博士
110	2001年10月	中国	遼寧師範大学	名誉教授	162	2004年9月	メキシコ	グアダラハラ大学	名誉博士
111	2001年10月	フィリピン	南フィリピン大学	名誉人文学博士	163	2004年9月	中国	福建社会科学院	名誉教授
112	2001年11月	中国	広州大学	名誉教授	164	2004年10月	中国	長春大学	名誉教授
113	2001年12月	韓国	慶州大学	名誉教授	165	2004年10月	中国	曲阜師範大学	名誉教授
114	2001年12月	韓国	国立昌原大学	名誉教育学博士	166	2004年11月	キルギス	オシ国立大学	名誉教授
115	2001年12月	カザフスタン	国際カザフ・トルコ大学	名誉教授	167	2004年11月	韓国	百済芸術大学	名誉教授
116	2002年2月	ドミニカ共和国	サンティアゴ工科大学	名誉博士	168	2004年12月	モンゴル	オトゴンテンゲル大学	名誉博士
117	2002年2月	ウズベキスタン	国立美術大学	名誉教授	169	2005年1月	米・北マリアナ諸島	北マリアナ大学	名誉学長
118	2002年3月	中国	遼寧社会科学院	首席研究教授	170	2005年1月	ペルー	エンリケ・グスマン・イ・バエ国立教育大学	名誉博士
119	2002年3月	フィリピン	アラネタ大学	名誉人文学博士	171	2005年2月	ベラルーシ	ミンスク国立言語大学	名誉教授
120	2002年3月	カンボジア	王立プノンベン大学	名誉教授	172	2005年3月	フィリピン	国立バタンガス大学	名誉教育学博士
121	2002年4月	中国	遼寧大学	名誉教授	173	2005年4月	中国	上海財経大学	名誉教授
122	2002年4月	アメリカ	モアハウス大学	名誉人文学博士	174	2005年4月	パラグアイ	国立イタブア大学	名誉博士
123	2002年4月	中国	青島大学	名誉教授	175	2005年5月	中国	北京語言大学	名誉教授
124	2002年4月	インド	チャトラパティ・シャフジマハラジ大学	名誉文学博士	176	2005年5月	ブラジル	州立コルネリオ・プロコピオ哲学・科学・文学大学	名誉博士
125	2002年5月	ケニア	ケニヤッタ大学	名誉人文学博士	177	2005年6月	中国	華中師範大学	名誉教授
126	2002年5月	中国	黒龍江省社会科学院	名誉教授	178	2005年7月	中国	広西師範大学	名誉教授
127	2002年6月	ロシア	モスクワ大学	名誉教授	179	2005年9月	モンゴル	モンゴル科学アカデミー 哲学・社会学・法学研究所	名誉哲学教授
128	2002年6月	中国	南京師範大学	名誉教授	180	2005年9月	ベトナム	ハノイ国家大学	名誉博士
129	2002年6月	韓国	徐羅伐大学	名誉教授	181	2005年10月	中国	華東理工大學	名誉教授
130	2002年8月	インド	ヒマーチャル・プラデーシュ大学	名誉文学博士	182	2005年10月	セルビア・モンテネグロ	ブラチャ・カリッチ大学	名誉博士
131	2002年9月	中国	中国人民大学	名誉教授	183	2005年12月	ロシア	安全保障・防衛・治安問題アカデミー	教授
132	2002年10月	中国	中国科学技術大学	名誉教授	184	2005年12月	インド	シンバイオシス国際教育大学	名誉文学博士
133	2002年11月	中国	浙江大学	名誉教授	185	2006年1月	ロシア	ウラル国立大学	名誉博士
134	2002年11月	モンゴル	シヒホトグ法律大学	名誉博士	186	2006年2月	ラオス	ラオス国立大学	人文学名誉教授
135	2002年11月	ウクライナ	キエフ国立貿易経済大学	名誉博士	187	2006年3月	フィリピン	パンパンガ農業大学	名誉人文学博士
136	2002年12月	韓国	東亜大学	名誉哲学博士	188	2006年4月	中国	湖南大学	名誉教授
137	2002年12月	中国	上海外国語大学	名誉教授	189	2006年4月	ウクライナ	ウクライナ国立キエフ工科大学	名誉博士
138	2002年12月	中国	上海社会科学院	名誉教授	190	2006年5月	中国	華東師範大学	名誉教授
139	2003年1月	インド	バラティダッサン大学	名誉文学博士	191	2006年5月	中国	南京芸術学院	名誉教授
140	2003年2月	ペルー	国立ピウラ大学	名誉博士	192	2006年5月	インド	タゴール国際大学	名誉文学博士
141	2003年3月	台湾	中国文化大学	名誉哲学博士	193	2006年6月	中国	西南政法大学	名誉教授
142	2003年4月	中国	大連外国語学院	名誉教授	194	2006年6月	アメリカ	南イリノイ大学カーボンデル校	名誉人文学博士
143	2003年4月	パラグアイ	コロンビア・デル・パラグアイ大学	名誉社会科学学博士	195	2006年6月	アメリカ	ロサンゼルス・サウスウエスト大学	名誉教授
144	2003年9月	ペルー	国立ホルヘ・バサドレ・グロマン大学	名誉博士	196	2006年6月	中国	韶関学院	名誉教授
145	2003年10月	中国	西北師範大学	名誉教授	197	2006年6月	韓国	東新大学	名誉行政学博士
146	2003年10月	韓国	光州女子大学	名誉教授	198	2006年7月	タイ	メージョー大学	名誉管理科学博士
147	2003年10月	中国	上海交通大学	名誉教授	199	2006年9月	ブラジル	バイア・カトリック経済大学	名誉博士
148	2003年12月	アメリカ	チャップマン大学	名誉人文学博士	200	2006年10月	中国	北京師範大学	名誉教授
149	2003年12月	中国	肇慶学院	名誉教授	201	2006年11月	フィリピン	リサール・システム大学	名誉人文学博士
150	2004年1月	ロシア・サハ共和国	北極文化芸術国立大学	名誉教授	202	2006年12月	中国	大連理工大学	名誉教授
151	2004年2月	インド	ラビンドラ・バラティ大学	名誉文学博士	203	2007年2月	韓国	東洲大学	名誉教授
152	2004年2月	アメリカ	ミネラルエリア大学	人文学名誉教授	204	2007年2月	中国	貴州大学	名誉教授
153	2004年3月	中国	国家検察官学院	名誉教授	205	2007年3月	ロシア	バイカル国立経済法律大学	名誉教授
154	2004年3月	台湾	屏東科技大学	名誉農学博士	206	2007年3月	ベネズエラ	ラファエル・ベジョソ・チャンソ大学	名誉博士
155	2004年4月	ロシア・ブリャート共和国	ブリャート国立大学	名誉教授	207	2007年3月	ベネズエラ	サンタマリア大学	名誉法学博士
156	2004年4月	ブラジル	州立ロンドリーナ大学	名誉博士	208	2007年3月	イタリア	パレルモ大学	名誉コミュニケーション学博士

名 誉 学 術 称 号					名 誉 学 術 称 号				
No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名	No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名
209	2007年4月	ブラジル	ブラジル哲学アカデミー	名誉博士	261	2009年9月	ブラジル	マラニョン公共政策学院	名誉教授
210	2007年4月	アメリカ	ウイスコンシン大学ミルウォーキー校	名誉人文学博士	262	2009年9月	ブラジル	シルバ・エ・ソウザ統合大学	名誉建築学・都市工学博士
211	2007年4月	中国	ハルビン工程大学	名誉教授	263	2009年10月	インドネシア	インドネシア大学	名誉哲学・平和博士
212	2007年4月	ブラジル	南マットグロッソ連邦大学	名誉博士	264	2009年10月	中国	仲愷農業工程学院	名誉教授
213	2007年5月	中国	天津社会科学院	名誉教授	265	2009年10月	中国	大連工業大学	名誉教授
214	2007年5月	台湾	南台科技大学	名誉工学博士	266	2009年10月	ロシア・サハ共和国	ヤクーツク第1教育カレッジ	名誉教授
215	2007年5月	ロシア	ロシア国立人文大学	名誉博士	267	2009年11月	中国	西南交通大学	名誉教授
216	2007年6月	ペルー	国立サンタ大学	名誉博士	268	2009年11月	中国	西安理工大学	名誉教授
217	2007年7月	ロシア・サハ共和国	ヤクーツク国立農業アカデミー	名誉教授	269	2009年11月	中国	寧夏大学	終身名誉教授
218	2007年7月	ロシア	極東国立工科大学	名誉教授	270	2009年12月	台湾	育達商業科技大学	名誉教授
219	2007年9月	フィリピン	南東フィリピン大学	名誉教育学博士	271	2009年12月	メキシコ	エンリケ・ディアス・デレオン大学	名誉博士
220	2007年10月	中国	陝西師範大学	名誉教授	272	2009年12月	中国	西安培華学院	名誉教授
221	2007年10月	メキシコ	人文統合大学	名誉人文学士博士	273	2010年1月	米・グアム	グアム・コミュニティカレッジ	名誉教授
222	2007年10月	ブラジル	インガ大学	名誉教授	274	2010年1月	中国	安徽理工大学	名誉教授
223	2007年10月	中国	中国青年政治学院	名誉教授	275	2010年2月	ウズベキスタン	ウズベキスタン科学アカデミー芸術研究所	名誉博士
224	2007年10月	モンゴル	モンゴル国立教育大学	名誉博士	276	2010年2月	中国	西安外事学院	名誉教授
225	2007年11月	中国	温州医学院	名誉教授	277	2010年3月	中国	広東商学院	名誉教授
226	2007年12月	中国	上海師範大学	終身名誉教授	278	2010年3月	ベネズエラ	アラグア・ピセンテナリア大学	名誉教育学博士
227	2008年1月	ドミニカ共和国	サントドミンゴ自治大学	名誉博士	279	2010年3月	ベネズエラ	アラグア・ピセンテナリア大学	名誉教授
228	2008年1月	台湾	雲林科技大学	名誉管理学博士	280	2010年3月	中国	西安交通大学	名誉教授
229	2008年1月	フィリピン	国立ラグナ工科大学	名誉人文学士博士	281	2010年3月	フィリピン	ラモン・マグサイサイ工科大学	創立100周年名誉教授
230	2008年3月	中国	湖南科技大学	名誉教授	282	2010年4月	アルメニア	エレバン国立芸術アカデミー	名誉博士
231	2008年3月	キルギス	キルギス国立大学	名誉博士	283	2010年4月	中国	四川省社会科学院	名誉教授
232	2008年3月	中国	嘉応学院	名誉教授	284	2010年4月	中国	新疆医科大学	名誉教授
233	2008年4月	ロシア	トゥーラ国立教育大学	名誉教授	285	2010年4月	中国	広西芸術学院	終身名誉教授
234	2008年4月	中国	河北大学	名誉教授	286	2010年4月	中国	紹興文理学院	名誉教授
235	2008年5月	中国	延安大学	終身教授	287	2010年5月	カナダ	ラバル大学	名誉教育学博士
236	2008年5月	中国	遼東学院	終身名誉教授	288	2010年5月	中国	清華大学	名誉教授
237	2008年6月	中国	長春工業大学	名誉教授	289	2010年5月	中国	北京城市学院	名誉教授
238	2008年6月	ブラジル	アニャンゲイラ大学	名誉博士	290	2010年6月	中国	寧波大学	名誉教授
239	2008年6月	ブラジル	イータロ・ブラジル大学	名誉博士	291	2010年6月	中国	浙江海洋学院	名誉教授
240	2008年7月	フィリピン	国立ベンゲット大学	名誉人文学士博士	292	2010年6月	アメリカ	ジョージ・メイソン大学	名誉人文学士博士
241	2008年7月	台湾	崇右技術学院	名誉教授	293	2010年7月	台湾	台湾芸術大学	名誉教授
242	2008年7月	台湾	台南科技大学	名誉教授	294	2010年7月	台湾	高雄大学	名誉教授
243	2008年9月	フィリピン	国立イフガオ農林大学	名誉教育学博士	295	2010年8月	マレーシア	マラヤ大学	名誉人文学士博士
244	2008年10月	フィリピン	市立マニラ大学	名誉人文学士博士	296	2010年8月	キルギス	オシ人文教育大学	名誉教授
245	2008年10月	モンゴル	モンゴル国立科学技術大学	名誉人文学士博士	297	2010年8月	キルギス	オシ農業大学	名誉教授
246	2008年12月	中国	大連大学	名誉教授	298	2010年9月	チリ	ベドロ・デ・バルディビア大学	名誉博士
247	2009年1月	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立芸術大学	名誉教授	299	2010年10月	フィリピン	南ミンダナオ大学	名誉人文学士博士
248	2009年2月	マレーシア	マレーシア公開大学	名誉人文学士博士	300	2010年11月	アメリカ	マサチューセッツ大学ボストン校	名誉人文学士博士
249	2009年3月	ボリビア	ボリビア・アキーノ大学	名誉博士	301	2010年11月	ブラジル	アマゾナス教育科学技術連邦大学	名誉博士
250	2009年3月	デンマーク	デンマーク・南大学	名誉博士	302	2010年12月	中国	大連海事大学	名誉教授
251	2009年4月	韓国	韓国海洋大学	碩座教授	303	2010年12月	ブラジル	サンパウロ・メトロポリタン大学	名誉教授
252	2009年4月	キルギス	イシク・クル国立大学	名誉教授	304	2010年12月	ブラジル	マットグロッソ連邦大学	名誉博士
253	2009年4月	中国	福建農林大学	名誉教授	305	2010年12月	台湾	虎尾科技大学	名誉工学博士
254	2009年4月	中国	河南師範大学	名誉教授	306	2010年12月	韓国	建陽大学	名誉経営学博士
255	2009年5月	イギリス	クイーンズ大学ベルファスト	名誉博士	307	2011年1月	中国・マカオ	マカオ理工学院	名誉教授
256	2009年5月	中国	新疆財經大学	名誉教授	308	2011年3月	キルギス	キルギス・ロシア教育アカデミー	名誉教授
257	2009年6月	フィリピン	国立南ルソン大学	名誉人文学士博士	309	2011年5月	中国・マカオ	マカオ科技大学	名誉教授
258	2009年7月	ブラジル	ホンドニア連邦大学	名誉博士	310	2011年5月	中国	海南師範大学	名誉教授
259	2009年9月	韓国	弘益大学	名誉文学博士	311	2011年7月	韓国	国立忠州大学	名誉経営学博士
260	2009年9月	中国・マカオ	アジア(マカオ)国際公開大学	名誉哲学博士	312	2011年7月	フィリピン	国立パンガシナン大学	名誉人文学士博士

名 誉 学 術 称 号					名 誉 学 術 称 号				
No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名	No.	受章年月	国・地域	顕彰機関名	称号名
313	2011年9月	韓国	国立釜慶大学	名誉国際地域学博士	365	2016年1月	インド	ボパール・バルカトゥッラー大学	名誉文学博士
314	2011年9月	ザンビア	ザンビア大学	名誉法学博士	366	2016年3月	キルギス	ウズゲン工科教育大学	名誉博士
315	2011年10月	フィリピン	国立中央ルソン大学	終身名誉教授	367	2016年8月	アルゼンチン	国立トゥクマン大学	名誉博士
316	2011年10月	中国	井岡山大学	名誉教授	368	2016年12月	アメリカ	デポール大学	名誉人文学士博士
317	2011年10月	イギリス	バッキンガム大学	名誉文学博士	369	2017年3月	ブラジル	アクレ連邦大学	名誉博士
318	2011年11月	中国	集美大学	名誉教授	370	2017年6月	中国	湖南工業大学	名誉教授
319	2011年11月	ロシア	ロシア国立貿易経済大学	名誉博士	371	2017年8月	ペルー	国立サンマルコス大学	名誉博士
320	2011年12月	ウズベキスタン	テルメズ国立大学	名誉教授	372	2017年8月	ブラジル	バレンサ大学	名誉博士
321	2012年1月	中国	中央財經大学	名誉教授	373	2017年10月	パラグアイ	ニホンガッコウ大学	名誉教育学博士
322	2012年3月	キルギス	ビシュケク人文大学	名誉博士	374	2017年11月	中国	湖北大学	名誉教授
323	2012年3月	フィリピン	国立バターン半島大学	名誉人文学士博士	375	2018年1月	スペイン	アルカラ大学	名誉教育学博士
324	2012年3月	ボリビア	サンタクルス工科大学	名誉博士	376	2018年2月	アルゼンチン	クエンカ・デル・プラタ大学	名誉博士
325	2012年4月	台湾	台北海洋技術学院	名誉教授	377	2018年3月	台湾	致理科技大學	名誉教授
326	2012年5月	ペルー	ペルー工科大学	名誉博士	378	2018年3月	ブラジル	ジャカレバグア統合大学	名誉教授
327	2012年5月	ペルー	ペルー工科大学法学政治学国際関係学部	名誉教授	379	2018年4月	アルゼンチン	国立ティエラ・デル・フエゴ大学	名誉博士
328	2012年5月	中国	貴州師範大学	名誉教授	380	2018年6月	ブラジル	パライバ連邦大学	名誉博士
329	2012年6月	台湾	台湾師範大学	芸術学院名誉教授	381	2018年6月	フィリピン	国立カガヤン大学	名誉人文学士博士
330	2012年6月	中国	渤海大学	名誉教授	382	2018年7月	台湾	中華大学	名誉教授
331	2012年9月	カナダ	ゲルフ大学	名誉博士	383	2018年10月	中国	北京電影学院	名誉教授
332	2012年9月	ブラジル	ドン・ボスコ大学	名誉博士	384	2018年10月	中国	淮陰師範学院	名誉教授
333	2012年10月	カザフスタン	カザフ民族大学	名誉教授	385	2018年10月	アルゼンチン	東部(エステ)大学	名誉博士
334	2012年11月	ベネズエラ	国立タチラ実践大学	名誉博士	386	2019年6月	ベネズエラ	ベネズエラ中央大学	名誉博士
335	2013年2月	ボリビア	パンド・アマソニカ大学	名誉博士	387	2019年8月	ブラジル	セルジベ連邦大学	名誉博士
336	2013年2月	キルギス	キルギス中国人文経済大学	名誉教授	388	2019年8月	ブラジル	アマゾナス連邦大学	名誉博士
337	2013年3月	フィリピン	国立ヌエバ・ビスカヤ大学	名誉人文学士博士	389	2019年8月	ブラジル	ベルナンブコ農工連邦大学	名誉博士
338	2013年4月	南アフリカ	クワズール・ナタール大学	名誉社会科学博士	390	2019年9月	アルゼンチン	国立フワイ大学	名誉教授
339	2013年8月	タイ	タマサート大学	名誉哲学博士	391	2019年9月	インド	マーナブ・ラチャナ大学	名誉哲学博士
340	2013年9月	アルメニア	エレバン国立大学	名誉博士	392	2019年10月	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立大学	名誉博士
341	2013年10月	フィリピン	国立アクラン大学	名誉人文学士博士	393	2019年11月	中国	長春師範大学	名誉教授
342	2013年10月	中国	大連芸術学院	名誉教授	394	2019年11月	インド	ジャイプル・ナショナル大学	名誉博士
343	2013年11月	ペルー	ペルー・ラス・アメリカス大学	名誉博士	395	2019年11月	インド	ゼビア大学	名誉サステイナビリティ経営学博士
344	2013年11月	モンゴル	人文大学	名誉人文学士博士	396	2020年2月	フィリピン	中央ミンダナオ大学	名誉教育経営学博士
345	2013年11月	ロシア	プーシキン記念国立ロシア語大学	名誉博士	397	2020年11月	ブラジル	ピアウイ連邦大学	名誉博士
346	2014年2月	アルゼンチン	国立ビジャマリア大学	名誉教授	398	2021年12月	ブラジル	ベルナンブコ連邦大学	名誉博士
347	2014年3月	インド	サティエンドラ・ナヤン・シンハ経営管理学院	名誉教授	399	2022年4月	インド	ビルサ農業大学	名誉教授
348	2014年4月	フィリピン	国立イサペラ大学	名誉人文学士博士	400	2022年4月	韓国	忠北大学	名誉教育学博士
349	2014年5月	中国	天津外国語大学	名誉教授	401	2022年5月	アメリカ	ミネソタ大学	名誉人文学士博士
350	2014年5月	ペルー	国立工科大学	名誉博士	402	2023年4月	インド	マハラジャ・スーラジマル・ブリジ大学	名誉文学博士
351	2014年7月	中国	ハルビン師範大学	名誉教授	403	2023年5月	韓国	韓国外国語大学	名誉哲学博士
352	2014年9月	ロシア・サハ共和国	ヤクーツク教育カレッジ	名誉教授	404	2023年6月	アルゼンチン	国立ミシオネス大学	名誉博士
353	2014年9月	フィリピン	イースト大学	名誉人文学士博士	405	2023年6月	アルゼンチン	国立サルタ大学	名誉博士
354	2014年10月	中国	南京理工大学	名誉教授	406	2023年7月	中国	河北外国語学院	終身名誉教授
355	2014年11月	ロシア	ロシア民族友好大学	名誉博士	407	2023年7月	ボリビア	開発イノベーション大学	名誉博士
356	2015年2月	キルギス	キルギス・ロシア・スラブ大学	名誉博士	408	2023年8月	マレーシア	ニュー・エラ大学学院	名誉文学博士
357	2015年4月	インド	マドゥライ社会科学院	名誉社会科学教授	409	2023年12月	パラグアイ	イペロアメリカ大学	名誉博士
358	2015年5月	韓国	北韓大学院大学	名誉碩座教授					
359	2015年5月	中国	佛山科学技術学院	名誉教授					
360	2015年6月	ボリビア	ベニ自治大学	名誉博士					
361	2015年6月	ブラジル	カステロ・ブランコ大学	名誉博士					
362	2015年9月	韓国	慶南大学	名誉教育学博士					
363	2015年11月	台湾	建国科技大学	終身名誉教授					
364	2015年11月	インド	ジャグラ・レイクシティ大学	名誉人文学士博士					

創価大学



創立 1971年4月2日
 理事長 秋谷芳英
 学長 鈴木美華
 所在地 〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
 TEL 042-691-2215
 ホームページ www.soka.ac.jp
 学生数 5618人
 大学院生428人（研究科350人、法科44人、教職34人）

学部学科 8学部10学科: 経済学部経済学科・経営学部経営学科・法学部法律学科・文学部人間学科・教育学部教育学科・児童教育学科・理工学部情報システム工学科・共生創造理工学科・看護学部看護学科・国際教養学部国際教養学科
大学院 6研究科: 経済学研究科・法学研究科・文学研究科・教育学研究科・理工学研究科・国際平和学研究科
専門職大学院 2研究科: 教職大学院教職研究科・法科大学院法務研究科

＜建学の精神＞

人間教育の最高学府たれ
 新しき大文化建設の揺籃（ようらん）たれ
 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ



中央教育棟 GLOBAL SQUARE

8学部10学科の学生と共に50を超える国や地域からの留学生が学んでいます。文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業の採択以降も、積極的な国際交流に取り組んでおり、海外72カ国・地域の276大学と学術交流協定を結んでいます。世界の主要な大学のランキングを公表するイギリスの教育専門誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）」が発表した「THE日本大学ランキング 日本版2025」における「国際性」の分野で8位に入賞しました。陸上競技駅伝部は第101回箱根駅伝で総合7位、第37回出雲駅伝で3位、第57回全日本駅伝で7位を獲得しました。

創価女子短期大学



創立 1985年4月2日
 理事長 秋谷芳英
 学長 水元昇
 所在地 〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236
 TEL 042-691-2201
 ホームページ www.soka.ac.jp/swc
 学生数 193人
学科 国際ビジネス学科

＜建学の指針＞

知性と福德ゆたかな女性
 自己の信条をもち人間共和をめざす女性
 社会性と国際性に富む女性



創価女子短期大学

※学生募集は2025年度で終了しました

アメリカ創価大学



開学 2001年5月3日（オレンジ郡キャンパス）
 学長 エドワード・フィーゼル
 所在地 1 University Drive, Aliso Viejo, CA 92656 USA
 TEL 949-480-4000 FAX 949-480-4151
 ホームページ www.soka.edu（英文）
 施設 約13万坪 本部棟、芸術センター（約1000席）、教室棟（3棟）、科学棟、図書館（22万5000冊）、学生寮（10棟）、学生センター、体育館・プール、グラウンド等



アメリカ創価大学

アメリカ合衆国カリフォルニア州アリソビエホ市に4年制のリベラルアーツ（教養）カレッジとして開学。米国西部地域学校大学協会（WASC）認定。2020年より生命科学の専攻を加え、本格的な理系教育を開始。卒業後に医学大学院（メディカルスクール）に直接進学できるプログラム（Pre-med Program）も同時にスタートしました。

これらにより、卒業生の進路がさらに広がりました。これまでの卒業生は1700人を超え、世界各地の教育・研究機関、政府機関、非営利団体、企業など様々な分野で活躍しています。2025年には21期生が卒業。コロンビア大学、エール大学、ジョンズ・ホプキンス大学などの大学院に進学しました。

創価学園



創立 1967年11月
 理事長 小島和哉
 所在地 〒187-0024 東京都小平市たかの台2-1
 TEL 042-345-0011
 ホームページ www.soka.ed.jp

＜各校一覧＞

創価高等学校	開校 1968年4月	東京都小平市
創価中学校	開校 1968年4月	東京都小平市
関西創価高等学校	開校 1973年4月	大阪府交野市
関西創価中学校	開校 1973年4月	大阪府交野市
東京創価小学校	開校 1978年4月	東京都小平市・国分寺市
関西創価小学校	開校 1982年4月	大阪府枚方市
札幌創価幼稚園	開園 1976年4月	北海道札幌市



創価学園 総合教育棟（東京）



関西創価中学・高等学校

創立以来、卒業生は4万人（幼稚園を含む）を超え、創価大学をはじめ、国公立大学、海外の大学・大学院（アメリカ創価大学、ハーバード大学、エール大学、オックスフォード大学、北京大学など）にも多数進学。海外の大学や研究機関から来客を迎えての交流や、核兵器廃絶の国際会議への東西の高校生代表の派遣などを実施しています。中国・南開中学や、創価インターナショナルスクール・マレーシアをはじめとした世界の創価学園・幼稚園と交流し、世界に視野を広げる教育を推進。授業では、児童生徒が主役となつての学び合いや探究学習を実践しています。東京創価小学校では、2027年春の完成を目指して、校舎新築工事を進めています。

香港創価幼稚園

開学 1992年
理事長 吳楚焜
園長 馮婉惠
所在地 香港九龍九龍塘慕禮道4號 TEL (+852) 2336-6090
ホームページ <https://soka.edu.hk/en> (英語)
<https://soka.edu.hk/zh> (中国語)



シンガポール創価幼稚園

開学 1993年1月
理事長 吳錦華
園長 陳振喜
所在地 7 Tampines Street 92, Singapore 528888 TEL +65 67844232
ホームページ <https://sokapreschool.org>



マレーシア創価幼稚園

開学 1995年4月16日
理事長 クリストファー・ボイ・チョン・メン (梅松明)
園長 ホー・リー・チュ (何麗珠)
所在地 Lot 216, Off Jalan TKC 2/1, Batu 9 1/2 Cheras, 43200, Selangor, Malaysia
TEL +603-9075 3391
ホームページ <https://tss.edu.my/>



ブラジル創価学園

開学 2001年6月1日
理事長 マルシオ・ユタカ
所在地 Avenida Cursino, 362 Saúde – SP CEP: 04132-000
TEL +55 (11) 5060-3300
ホームページ <http://www.escolasoka.org.br/>



幸福幼稚園（韓国）

開学 2008年3月8日
理事長 金仁洙(キム・インス) Kim Insoo
園長 李多兼(イ・ダギョム) Lee Daygeom
所在地 ソウル特別市 銅雀区 讓寧路23ギル25, Yangnyeong-ro 23-gil, Dongjak-gu, Seoul, Republic of Korea
TEL +82-2-3280-1188~9
ホームページ <https://www.sokahappy.co.kr/>



創価インターナショナルスクール・マレーシア (SISM)

開学 2023年8月24日
学園長 マイケル・コック・フッオン (郭福安)
校長 ウェンディー・イー・メイティエン (余美婷)
所在地 PT25369, Persiaran Sendayan-Mambau, Bandar Sri Sendayan, 70300 Seremban, Negeri Sembilan Darul Khusus, Malaysia
TEL +606 7818988
ホームページ www.sism.edu.my



一般財団法人 民主音楽協会



創立 1963年10月18日
代表理事 山口浩二
事業所 民音文化センター
〒160-8588 東京都新宿区信濃町8番地
TEL 03-5362-3400
ホームページ www.min-on.or.jp
賛助会員 100万人
方面センター 全国8カ所(東京・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・高松・福岡)

< 事業内容 >

- 演奏会・文化交流事業
(国内外の音楽・舞台芸術の公演を主催)
創立以来、全国各地で開催した公演は累計8万回を数え、鑑賞者数はのべ1億2000万人を超えました。これまで114カ国・地域と文化交流を行っており、2025年は1月から12月にかけて、アルゼンチン「ファビオ・ハーゲル・セステート」、ドイツ「バンゲア・トリオ・ベルリン」、中国「上海歌舞団 舞劇『朱鷺』」、カナダ「スティーブ・バラカット」、米国「ザ・ゴサード・シスターズ」、エストニア「カーリー・ストリングス」、タイ「日タイ ミュージック・セッション」、カーボベルデ「エリーダ・アルメイダ」、米国「グローリー・ゴスペル・シンガーズ」の9演目が行われました。
- 音楽普及・国際交流・コンクール・青少年音楽文化振興事業
(多角的な音楽文化事業で社会に貢献)
- 東京国際指揮者コンクール
世界の楽壇を担う次代指揮者の発掘・育成を目的とし、1967年より3年毎に開催しています。2014年に「国際音楽コンクール世界連盟」に加盟。2024年には第20回を開催、書類・映像による選考には、37カ国・地域291名が応募しました。
- 海外派遣公演(1966年以降、22カ国・地域で開催)
- 留学生音楽祭(1989年以降、京都29回、大阪25回、横浜6回)
- 民音学校コンサート
1973年より開催。全国各地のべ約4800校で開催し、142万人が鑑賞しました。
- 親子のための手作り楽器の音楽体験学習・音楽会
2025年は、「MIN-ON キッズフェスタ 夏の音楽大発見!」を金沢市、鳥取市、江別市の3都市で開催。

- 音楽博物館事業(民音音楽博物館の運営)
※民音音楽博物館は2003年12月、東京都より登録博物館として認定

- 展示事業
常設展(古典ピアノ室・自動演奏楽器展示室・楽器展示室等)並びに企画展「平和構築の音楽」展Ⅱ・松葉曄子の被爆ピアノ・「こどものための世界民族楽器展」・「日本のオーケストラのあゆみ展」の開催。

- ライブラリー事業
国内外の音楽図書・楽譜等を所蔵し館外貸出等を実施。

- 文化講演会(レクチャーコンサート)
韓国文化院(4月)、コスタリカ大使館(8月)、エルサルバドル大使館(9月)との共催、リトアニア大使館(8月)、中国大使館(8月)、ウクライナ大使館(8月)の後援で開催しました。

- 民音研究所
「平和構築の音楽」の学術研究を推進し、研究員・協力研究員を中心に専門家との対話を重ねながら研究を深化させています。また、この分野の資料を体系化し、ニュースや論文をはじめとする国際的な情報発信と交流拠点づくりを進めました。

- 西日本館
常設展(楽器展示室・「平和構築の音楽」展)をリニューアルオープン。



上海歌舞団 舞劇『朱鷺』



フランス派遣公演

公益財団法人
東京富士美術館



創立 1983年11月3日
理事長 忍田和彦
館長 清水由朗
所在地 〒192-0016 東京都八王子市谷野町492-1
TEL 042-691-4511
ホームページ www.fujibi.or.jp
開館時間 10:00 ～ 17:00 (16:30入館受付終了)
休館日 月曜日(祝日の場合は開館。翌日火曜日が振替休館)及び展示替期間(展覧会により異なる)

国内外の美術館や文化機関と協力し、世界各国からの海外文化交流展の開催や美術品の保存・研究・教育普及に貢献することを目的とした事業を行っています。また、教育普及活動として美術館を学校教育で活用できるように地元・八王子市の小・中学校の児童・生徒を招いた鑑賞授業を開催するなど、地域社会との連携にも取り組んでいます。

<2025年の主な展覧会>

- 特別展
生誕135年 愛しのマン・レイ
写真展 岩合光昭の日本ねこ歩き
手塚治虫展
ヨーロッパ絵画 美の400年
- 常設展示
西洋絵画 ルネサンスから20世紀まで
【特別展示】タヴォラ・ドーリア
- 館蔵品展
没後40年アンドレ・ケルテス展～前衛写真の萌芽
ジュエリーコレクション
- その他の展覧会
大使館の美術展Ⅳ ペルー共和国大使館
大使館の美術展Ⅰ ウクライナ大使館
大使館の美術展Ⅱ クロアチア共和国大使館
大使館の美術展Ⅲ チュニジア共和国大使館
- 企画協力展
ロバート・キャパ 戦争(東京・目黒区)
珠玉の東京富士美術館コレクション
西洋絵画の400年(愛知・名古屋市)
珠玉の東京富士美術館コレクション
西洋絵画の400年(鹿児島・鹿児島市)
- 海外展
江戸から近代へ——東京富士美術館浮世絵所蔵展(台湾・高雄市)



東京富士美術館 常設展示室

< 所蔵品総数 約3万点 >

- 西洋絵画:ルネサンスから20世紀までの500年の西洋絵画の流れを一望できるコレクション。
- 日本美術:桃山時代から近代に至るまで主要画派の屏風絵や掛軸、歌麿、北斎、広重ら江戸時代の浮世絵版画の名作や漆工、武具、刀剣など重要文化財を含む名品を所蔵。
- 中国陶磁:新石器時代から清時代に至る4500年の中国陶磁史が俯瞰できます。
- 写真:19世紀の写真の誕生から現代まで、ヨーロッパ、アメリカを中心とした作品群約2万点を所蔵。



ミケーレ・ゴルディジャーニ《シルクのソファ》
1872年 油彩、カンヴァス

公益財団法人
東洋哲学研究所



創立 1962年1月27日
代表理事 田中亮平(所長兼任)
所在地 〒192-0003 東京都八王子市丹木町1-236
TEL 042-691-6591 FAX 042-691-6588
ホームページ www.totetu.org (日英)

<2025年の主な活動>

- 第39回学術大会及び国際イスラーム思想・文明研究所<ISTAC>との共同シンポジウム (5月31日、6月1日。創価大学)
シンポジウムテーマ:
「イスラームと仏教の対話——信仰と人間の在り方をめぐって」
登壇者:ISTACのアブデルアジズ・ベルグート所長及びヌルル・アイン・ノーマン研究部長(2名とも当時)、山崎達也主任研究員、岩木秀樹研究員
- オンライン連続公開講演会 ※共同シンポジウムと共通テーマ
11月8日(浅子清客員研究員)
11月22日(上智大学・久志本裕子准教授)
12月6日(東京大学・鎌田繁名誉教授)
12月20日(神戸市外国語大学・小布施祈恵子客員研究員)
- 学術交流
ISTACと学術交流協定を締結
- 顕彰
ISTACより「ベストパートナーシップ賞」を受賞



マレーシアの国際イスラーム思想・文明研究所との共同シンポジウム
「イスラームと仏教の対話——信仰と人間の在り方をめぐって」(5月、東京)

- 八王子学園都市大学「いちよう塾」への講座提供
- 「東洋哲学研究所」レクチャーはじめ各種研究会の実施
- 出版物
『新カント派の哲学と近代日本——受容と展開』
『東洋学術研究』第64巻 第1号・第2号
『THE JOURNAL OF ORIENTAL STUDIES』(Vol. 34)
『東洋哲学研究所紀要』第40号(非売品)
『IOP NEWSLETTER』NO.11(日英。非売品)

戸田記念国際平和研究所



創立 1996年2月11日
所長 スタイン・トネソン
代表理事 中山雅司
所在地 〒160-0017 東京都新宿区左門町3-1
左門イレブンビル5階
TEL 03-3356-5481
ホームページ www.toda.org (英文)
www.toda.org/jp

戸田記念国際平和研究所は、核兵器の廃絶を訴え、地球民族主義を提唱した第2代会長・戸田城聖先生の平和理念を原点とし、第3代会長・池田大作先生の国際的平和行動と世界不戦の理念をもとに創設されました。グローバルな「研究協力ネットワーク」型の研究所という発想で、世界各地の研究者を結び、平和研究のプロジェクトを進めてきました。国際会議の開催に加え、近年では従来の学術書籍の出版だけでなく、ウェブサイト上でも研究成果の発信を積極的に行っています。またYouTubeでは研究者の対談



ジュネーブ国際・開発研究大学院 紛争・開発・平和構築センター(CCDP)と共催した「協調的安全保障、軍備管理と軍縮」に関するワークショップで、参加者が意見を交わす(1月、スイス)

動画を公開しています。
2025年は、「協調的安全保障、軍備管理と軍縮」のワークショップ(1月・10月、ジュネーブ)をはじめ、研究所の上級研究員による公開セミナー(2月、東京)や、「北東アジアの平和と安全保障」(2月・6月・10月、東京)、「民主主義の危機と課題」(6月、ジュネーブ)、「気候変動と紛争」(7月、キャンベラ)、「ソーシャルメディアと平和構築」(11月、バルセロナ)の各研究プログラムで活発にワークショップを実施し、多数の政策提言を発表しました。

池田国際対話センター



創立 1993年9月24日
代表 長岡良幸
所長 ケビン・マー
所在地 396 Harvard Street, Cambridge,
Massachusetts 02138-3924 USA
TEL 617-491-1090 FAX 617-491-1169
ホームページ www.ikedacenter.org (英文)

1993年9月、「ボストン21世紀センター」として設立され、2009年7月に「池田国際対話センター」へ改称。SGI会長・池田大作先生の仏教の人間主義哲学から生み出される学問と対話を通し、平和の文化の構築をミッションとしています。学者、平和構築者、学生と協力した学術セミナー、青年を中心とする対話と公開フォーラムを企画しています。2025年1月、アメリカ創価大学の宗教と平和構築のラーニングクラスターに所属する学生12人が、一連の交流活動としてセンターを訪問。その一環として、多様な宗教的背景を持つ5人の学者と「平和構築における宗教の役割」をテーマとしたパネルディスカッションを池田国際対話センターが主催しました。5月には、アメリカ創価大学（SUA）の地球の問題群研究センター、ハーバード教育大学院などと、「核軍縮教育を巡る教育者会議」を2日間にわたり共催。6月は、平和研究者を招き、「宗教と平和構築に関する考察」をテーマにバーチャル講演を開催。同月、「世界市民セミナー」を開催。ハーバード大学の研究者を共同進行役として迎え、様々な分野から集まっ



池田国際対話センター



「世界市民セミナー」（6月、アメリカ）

た14人の博士課程の学生が池田先生の哲学を探究する場となりました。9月には、第21回「文明間の対話のための池田フォーラム」を開催し、「分断の時代における差異との向き合い方」というテーマについて、パネリストが議論を行いました。これまで、センターが編集・出版した書籍は累計で世界の325大学・1010コース以上で教材として使用されています。

牧口記念教育基金会



創立 1995年12月1日
理事長 岡部高弘
所在地 〒160-0017 東京都新宿区左門町15-3
TEL 03-5360-9876

牧口記念教育基金会は、教育者で創価教育学会（創価学会の前身）の創立者である初代会長・牧口常三郎先生を顕彰するとともに、教育の振興を通して青少年の健全な育成を図り、世界の平和と人類の幸福に寄与するために設立。具体的な事業として、奨学育英資金の給付、国際的教育交流への支援、その他各種教育事業への助成などを進めています。

墓地公園

戸田記念墓地公園

〒 061-3523
北海道石狩市厚田区望来 327
TEL 0133-77-2321 (1977年開園)

みちのく池田記念墓地公園

〒 023-0171
岩手県奥州市江刺田原字根木町 311-1
TEL 0197-28-3311 (2002年開園)

東北池田記念墓地公園

〒 989-0733
宮城県白石市福岡八宮字不忘山 367-11
TEL 0224-24-8231 (1990年開園)

ひたち平和記念墓地公園

〒 311-4402
茨城県東茨城郡城里町大字小勝 1951-1
TEL 0296-70-6010 (2000年開園)

はるな池田記念墓地公園

〒 377-0025
群馬県渋川市川島 2403-1
TEL 0279-23-4111 (1987年開園)

富士桜自然墓地公園

〒 418-0103
静岡県富士宮市上井出 2736-25
TEL 0544-54-1851 (1980年開園)

牧口記念墓地公園

〒 945-1243
新潟県柏崎市久米 2765-60
TEL 0257-31-4031 (2019年開園)

中部池田記念墓地公園

〒 515-3131
三重県津市白山町藤 1203-1
TEL 059-262-5311 (1990年開園)

びわこ池田記念墓地公園

〒 520-2261
滋賀県大津市大石曾束町北出 1 番地
TEL 077-536-2811 (2016年開園)

関西池田記念墓地公園

〒 669-3612
兵庫県丹波市氷上町長野 296-1
TEL 0795-82-7001 (1990年開園)

中国平和記念墓地公園

〒 731-2105
広島県山県郡北広島町田原 106
TEL 0826-82-7111 (1996年開園)

山光平和記念墓地公園

〒 690-2104
島根県松江市八雲町熊野 6286-44
TEL 0852-54-1000 (1996年開園)

四国池田記念墓地公園

〒 761-0821
香川県木田郡三木町大字鹿庭乙 84
TEL 087-890-3500 (2002年開園)

九州池田記念墓地公園

〒 879-4203
大分県日田市天瀬町湯山 1484-4
TEL 0973-26-7111 (2005年開園)

沖縄平和記念墓地公園

〒 905-0222
沖縄県国頭郡本部町字並里 1542-2
TEL 0980-51-6800 (1999年開園)

全国の墓地公園・納骨堂では、13日の日蓮大聖人御入滅の日をはじめとする毎月の勤行法要、春季・秋季彼岸勤行法要、お盆期間の諸精霊追善勤行法要を行っております。また毎日の勤行法要も行っております（彼岸・お盆の期間を除く、毎週火曜日は休園）。なお、全国には以下の施設があります。

長期収蔵型納骨堂

- ◎東北十和田多宝納骨堂（青森県十和田市）
TEL 0176-74-1411
- ◎はるな平和納骨堂（群馬県渋川市）
TEL 0279-23-4111
- ◎富士桜多宝納骨堂（静岡県富士宮市）
TEL 0544-54-1851
- ◎中部多宝納骨堂（三重県津市）
TEL 059-262-5311
- ◎関西白浜平和納骨堂（和歌山県西牟婁郡）
TEL 0739-42-5910
- ◎九州多宝納骨堂（福岡県糸島市）
TEL 092-329-4866

永久納骨施設

- ◎戸田常楽納骨堂（北海道石狩市）
TEL 0133-77-2321
- ◎東北十和田常楽納骨堂（青森県十和田市）
TEL 0176-74-1411
- ◎みちのく常楽納骨堂（岩手県奥州市）
TEL 0197-28-3311
- ◎東北常楽納骨堂（宮城県白石市）
TEL 0224-24-8231
- ◎ひたち常楽納骨堂（茨城県東茨城郡）
TEL 0296-70-6010
- ◎はるな常楽納骨堂（群馬県渋川市）
TEL 0279-23-4111
- ◎富士桜常楽納骨堂（静岡県富士宮市）
TEL 0544-54-1851
- ◎中部常楽納骨堂（三重県津市）
TEL 059-262-5311
- ◎北陸常楽納骨堂（石川県七尾市）
TEL 0767-66-2922
- ◎関西常楽納骨堂（滋賀県米原市）
TEL 0749-52-8667
- ◎びわこ常楽苑（滋賀県大津市）
TEL 077-536-2811
- ◎関西白浜常楽納骨堂（和歌山県西牟婁郡）
TEL 0739-42-5910
- ◎中国常楽納骨堂（広島県山県郡）
TEL 0826-82-7111
- ◎山光常楽納骨堂（島根県松江市）
TEL 0852-54-1000
- ◎四国常楽納骨堂（香川県木田郡）
TEL 087-890-3500
- ◎九州常楽納骨堂（大分県日田市）
TEL 0973-26-7111
- ◎福岡常楽納骨堂（福岡県糸島市）
TEL 092-329-4866
- ◎沖縄常楽納骨堂（沖縄県国頭郡）
TEL 0980-51-6800

政治に対する基本的見解（1994年11月10日、要旨）

一、創価学会は、日蓮大聖人の仏法を信仰の根本とし、その教えを広め、一人一人の幸福を確立するとともに、仏法を基調として、世界の恒久平和と社会の繁栄を目指し、平和・文化・教育の運動を推進してきた。そして今や、池田SGI会長の世界的な平和行動によって、創価学会・SGIの理念はグローバルな広がりと普遍性をもつにいたっている。今後も、学会は「仏法を基調とした平和・文化・教育推進の団体」としての立場を堅持し、「平和主義」「文化主義」「人間主義」を基本理念として変わらず前進していく。

一、これまで創価学会は、日本国内の政治については、「生命の尊厳」「人間性の尊重」「世界の恒久平和」という普遍的な理念を、民衆の側に立ち、現実社会のうえに実現するために、公明党を誕生させ、献身的にその支援を行い、庶民を基盤とした政治の潮流をつくりあげてきた。

一、公明党は、左右のイデオロギーの不毛な対立の狭間で、置き去りにされていた庶民の声を代弁し、「平和」・「人権」・「福祉」という新しい政治の流れを定着させるために大きな役割を果たしてきた。この間、創価学会は、公明党を継続的に支援してきた。

一、いうまでもなく、本来、日本国憲法の「政教分離」の原則は、「信教の自由」を保障することが目的であり、そのために国家権力が宗教に介入、関与することを厳しく禁止している。しかし、それは宗教団体が政治活動や選挙支援をすることを禁じたものではない。

一、戦時中の宗教弾圧を経験した創価学会は、この「信教の自由」を基本的人権の中でもその根本の意義を有するものとして最大に尊重し、「政教分離」の原則を順守してきた。私どもは、国から特権を受けたり、国家権力等による保護を求めるものではない。すなわち、国家権力が宗教を支配してもならないし、宗教が国家権力を支配しても

ならない、との考え方を堅持してきた。今後もこの考え方は変わらない。

一、創価学会が、政治・社会に関わるのは、「立正安国」の理念に基づくものであり、信仰が単に個人の内面の変革にとどまらず、具体的行動を通じて社会の繁栄に貢献していくのが、仏法本来の在り方である。

一、今日の民主主義の時代にあって、真の政治改革の主軸となるものは、主権者たる国民がより賢明になり、政治に対する鋭い批判力、見識をもつことである。その土壌があつてこそ、人間主義に立脚した高い志をもつ優れた政治家が生み出され、よりよい民主政治が実現されていくのである。更に戸田第二代会長が「心して政治を監視せよ」と述べられたとおり、権力の魔性、政治・政治家の腐敗、墮落を厳しく監視していくことが肝要である。その意味で、創価学会としては、今後とも、政治との関わりを放棄するのではなく、政治の浄化、社会の発展のために積極的に政治に関わっていく。なかんずく、政治腐敗については、厳しく監視していく。

一、選挙における支持の基準については、まず候補者個々の政治姿勢、政策、人格、見識、これまでの実績、及び学会の理念に対する理解などを考慮して、人物本位で判断する。また政党に対しては、「生命の尊厳」等の普遍的な理念を大前提として、「人権と信教の自由」「平和と国際貢献」「文化と福祉」「庶民感覚と清潔な政治」等の視点を含め総合的に判断する。

一、具体的な支持決定については、選挙のたびごとに、その都度、行う。その決定については、中央会議またはこれ設置する中央、方面及び県本部の各「社会協議会」において、慎重に検討のうえ行う。学会員個人個人の政党支持は、自由である。

創価学会社会憲章

我ら、全世界の創価学会の各組織及び会員は、仏法の生命尊厳観を基調に平和・文化・教育に貢献するとの目的と使命を共有する。

今日、人類はいくつもの複合的な危機に直面している。人類が生存し発展しゆくためには、我々人間はあらゆる生命と密接な関係にあるとの自覚のもとで結束し、協力すべきである。それには全ての人の貢献が必要であり、また誰一人置き去りにされてはならない。

日蓮仏法は、我々一人一人が智慧、勇氣、慈悲という無限の可能性を、日々の生活の中に発現しゆく方途を示している。ゆえに我々が目指すべきは、未来の世代のために、人類が直面する難題に果敢に挑戦し、より公正で持続可能な世界を構築しゆく人材の育成である。

我ら、創価学会は、「世界市民の理念」「積極的寛容の精神」「人間の尊厳の尊重」を高く掲げる。そして、非暴力と“平和の文化”に立脚し、人類が直面する脅威に挑みゆくことを決意して、ここに以下の「目的及び行動規範」を確認し、本憲章を制定する。

目的及び行動規範

1. 創価学会は、仏法の生命尊厳観を基調に、平和・文化・教育に貢献する。
2. 創価学会は、草の根の対話と交流を通して日蓮仏法への理解を促進し、一人一人の幸福の実現に貢献する。
3. 創価学会は、思想、良心、信教の自由を尊重し、これを促進する。
4. 創価学会は、仏法の寛容の精神に基づき、他の宗教的伝統や哲学を尊重して、人類が直面する根本的な課題の解決について対話し、協力していく。
5. 創価学会は、各地の文化・風習、各組織の主体性を尊重する。各組織はそれぞれの国、または地域の法令を遵守して活動を推進し、良き市民として社会に貢献する。
6. 創価学会は、平和を求め、核兵器なき世界の実現に尽力する。また、公正で持続可能な開発に貢献する。
7. 創価学会は、人権を擁護し促進する。誰一人差別せず、あらゆる形態の差別に対し反対する。また、ジェンダー平等の実現と女性のエンパワーメントの推進に貢献する。
8. 創価学会は、文化の多様性を尊重し、文化間交流に貢献し、世界の人々の相互理解と協調を促進する。
9. 創価学会は、持続可能な世界を未来世代に残すために、気候危機に対処するとともに、地球上の生態系の保護に努める。
10. 創価学会は、教育・学習・学問の向上を促進するとともに、あらゆる人々が人格を陶冶し、貢献的で幸福な人生を享受することを目指す。

（2021年11月18日施行）

デジタルコンテンツ

創価学会は、WEBサイトやSNSを通じて理念や歴史、世界に広がる状況、平和・文化・教育活動などの最新情報を紹介しています。
また、WEBサイトのコンテンツを充実させることで、より多くの方に創価学会について知っていただく機会を増やしてきました。
ここでは、代表的なWEBサイトやSNSを紹介します。

創価学会公式サイト www.sokagakkai.jp



創価学会の理念や歴史、世界に広がる様子や平和・文化・教育活動などの最新情報を紹介しています。

創価学会
SOKA PICKS 創価学会とは 日常の活動 平和・文化・教育 世界の創価学会 会員サポート

識者が語る池田大作
世界の知性・文化人からの声を紹介します。

池田先生のご生涯(年表)
1928-2023
池田先生のご生涯(年表)
Daisaku Ikeda

SOKA PICKS
創価の思想や多彩な活動からPICK UPした情報をお届けします

創価学会とは
日蓮大聖人の仏法を
信奉する仏教団体です。
創価とは「創価」の「創造」を意味します。
「万人の幸福」と「世界の平和」という
創価の創造を目指します。

●創価学会公式SNS

- YouTube**
www.youtube.com/c/SOKAnet_ch
- Instagram**
www.instagram.com/sokagakkai_official/
- Facebook**
www.facebook.com/sokagakkai.official

soka youth media www.sokayouth-media.jp

創価学会青年部が運営するメディアサイトです。「opinion」「answer」「buddhism」「movie」の4つのカテゴリで、仏法の人間主義の視座を通した主張やコラム、動画などを発信しています。



●soka youth media 公式SNS

YouTube
https://www.youtube.com/@sokayouthmedia

X
x.com/YouthSoka

創価学会広報室 X x.com/soka_koho

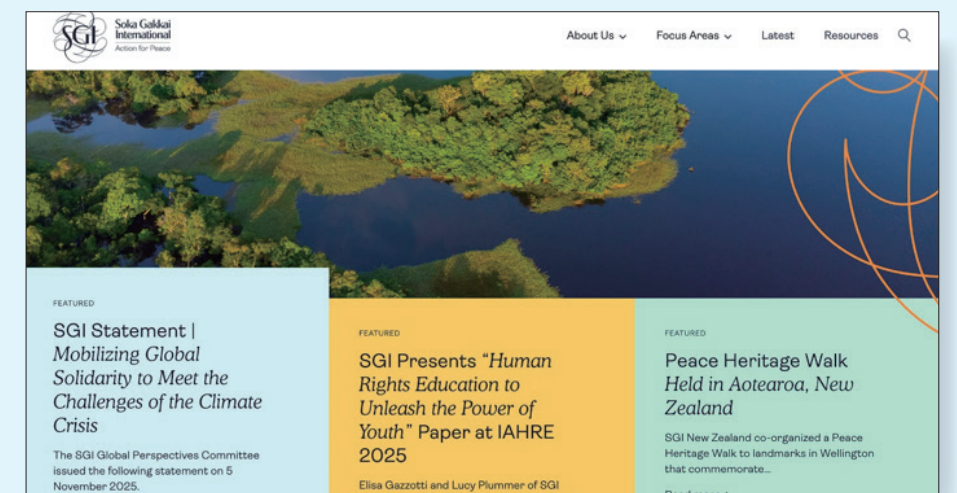


創価学会広報室の公式アカウントです。
当会の平和・文化・教育の活動などに関する情報を発信しています。



SGIピースサイト https://sgi-peace.org/

市民社会から平和の文化を広げる
国連NGOとしてのSGIの活動を
紹介しています。(英語のみ)



SEIKYOSHIMBUN

聖教電子版

www.seikyoonline.com



日蓮大聖人の仏法を基調とした創価学会・SGI（創価学会インタナショナル）の多彩な運動を幅広く報じる「聖教新聞」から、さまざまな情報を発信しています。



●聖教電子版アプリ



●聖教新聞公式SNS

- YouTube
www.youtube.com/@seikyoshimbun
- X
x.com/seikyoofficial
- Instagram
https://www.instagram.com/seikyoshimbun_official/
- Spotify（ラジオ SEIKYO LABO）
open.spotify.com/show/1MtEoTCMV3fy9YSarrhb8y

創価学会グローバルサイト

<https://www.sokaglobal.org/>



英語、スペイン語、中国語（繁体字・簡体字）※一部、日本語

世界宗教として飛翔する創価学会の基本情報、仏法の系譜、日々の実践、各国の社会活動やニュース等を海外向けに紹介しています。



●海外向け公式SNS

- YouTube（英語）
www.youtube.com/user/SGIvideosOnline
- Instagram（英語、中国語）
www.instagram.com/sgi.info
- X（英語）
x.com/sgi_info
- Facebook（英語、スペイン語、中国語）
www.facebook.com/sgi.info

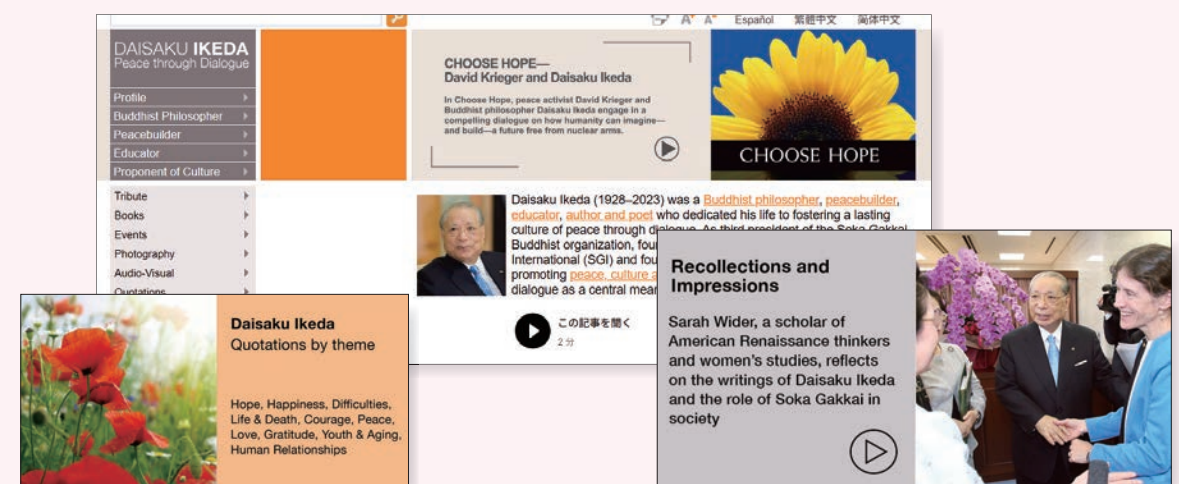
DAISAKU IKEDA（池田大作先生）サイト

<https://www.daisakuikeda.org/>



英語、スペイン語、中国語（繁体字・簡体字）

池田大作先生の功績や箴言、著作や写真、映像などを交えて海外向けに紹介しています。



●海外向け公式SNS

- YouTube（英語、スペイン語他）
Daisaku Ikeda Children's Stories
www.youtube.com/@ikeda.animation.channel
- Instagram（英語）
www.instagram.com/daisakuikeda.official/
- X（英語）
x.com/daisakuikeda_of
- Facebook（英語）
www.facebook.com/daisakuikeda.official

あなたの、あしたを、あたらしく。

創価学会